

# 台 遺 跡

—馬橋川河川改修に伴う発掘調査報告—

年3月

育委員会

# 石 台 遺 跡

## 序 文

本書は昭和58年8月、馬橋川河川改修工事に伴い、島根県教育委員会が実施した石台遺跡発掘調査の記録です。

石台遺跡は松江市郊外を流れる馬橋川下流にあり、縄文時代、弥生時代の土器、石器が出土する遺跡として古くから知られています。今回の発掘調査では縄文時代、弥生時代の遺物は、多く出土しませんでしたが、島根県ではあまり出土していない中世の土器が多数出土しました。

出土した土器のなかには、当地方で生産されたもののほかに、関西地方でつくられた土器や、中国製の陶磁器もあり、当時の人々が活発な生産活動をしていたことがうかがえます。

從来、中世史の研究は、文献史料に拠るところが多く、それ故、文献史料に登場しない庶民の暮しぶりは、あまり解明されておりません。今回の発掘によって得られた資料は、まさに当時の生活を具現するものといえましょう。

何分にも、この時期の資料は県下では乏しく、不備な点も多々あると思いますが、本報告が中世社会を復原するうえで、多少なりとも参考になれば幸いです。

昭和61年3月

島根県教育委員会教育長

栗 栖 理 知



## 例　　言

1. 本書は、島根県土木部の委託を受けて、島根県教育委員会が昭和58年度に実施した、斐伊川水系馬橋川河川局部改良工事に伴う松江市東岸田町所在石台遺跡発掘調査の概要である。
2. 調査組織は次のとおりである。

調査主体 島根県教育委員会教育長 乗柄理知

事務局 文化課長 福田治夫・美多定秀 同主査 藤間亨 同課長補佐 長谷川  
行雄・永瀬忠治 蓮岡法暉 文化（振興）係長 岩崎況一郎・矢内高太郎  
同主事 吉井良夫・吉川広 財務課主事 山根徳久

調査員 埋蔵文化財第2係長・主幹 石井悠 文化財保護主事 宮沢明久 主事  
内田律雄（兼）主事 富田修治 片岡詩子

指導助言 入江文敏（福井県立若狭歴史民俗資料館） 池田満雄（島根県文化財保護審  
議会委員） 大村敬通（兵庫県教育委員会） 小野正敏（福井県朝倉氏遺跡  
資料館） 恩田清・金子浩昌（早稲田大学） 田中義昭（島根大学法文学部  
教授） 横本久和（高規市教育委員会） 森田稔（神戸市立博物館） 村上  
勇（島根県立博物館） 三島欣二（島根県教育委員会学校教育課） 直良信  
夫（敬称略・順不同）

調査協力 古瀬岩男・長羅忠・小松正樹・谷久与・谷孝子・高角恭子・鈴政泰子・横山  
知子・佐藤順子・門脇裕子・松浦道仁

3. 発掘調査に際しては、日西興発（有）から現場事務所用地の提供を始め終始多大なご  
協力をいただいた。記して謝意を表したい。

4. 本書で使用した方位は磁北を示す。

5. 本書に掲載した遺跡の位置図は国土地理院発行のものを複製したものである。

6. 本書の執筆・編集は、主に片岡詩子があたり石井・内田・柳浦俊一・広江耕史がこれ  
を助けた。

なお、報告書作成中の昨年11月、直良信夫先生の訃報に接した。謹んでご冥福をお祈  
りします。

## 本文・目次

I 位置と環境	1
II 調査に至る経緯	3
III 調査の経過	4
IV 調査の概要	7
V 遺物の概要	9
1. 縄文土器	9
2. 弥生上器	9
3. 須恵器	10
4. 四耳壺・国産陶器	15
5. 土師質土器	30
6. 瓦 器	35
7. 輸入陶磁器	35
8. 石 器	44
9. 玉製品	50
10. 土製品	51
11. 古 錢	51
12. 木製品	51
13. 古瓦・製塙土器	53
14. 土 鍤	55
15. 動物遺体	55
VI まとめ	57

## 挿 図 目 次

第1図 石台遺跡と周辺の遺跡	2	第27図 輸入陶磁器実測図(2)	37
第2図 調査区配置図	3	第28図 石器実測図(1)	38
第3図 土層断面図	5	第29図 石器実測図(2)	39
第4図 E区砂疊層遺物出土状況	6	第30図 石器実測図(3)	40
第5図 E区地山面遺物出土状況	7	第31図 石器実測図(4)	41
第6図 F区砂疊層遺物出土状況	8	第32図 石器実測図(5)	42
第7図 F区地山面遺物出土状況	9	第33図 石器実測図(6)	43
第8図 繩文土器拓影	10	第34図 石器実測図(7)	44
第9図 弥生土器実測図	11	第35図 石器実測図(8)	47
第10図 須恵器実測図	12	第36図 石器実測図(9)	48
第11図 須恵器・把手・つまみ実測図	14	第37図 石器実測図(10)	49
第12図 四耳壺・国産陶器実測図	16	第38図 玉製品実測図	50
第13図 土師質土器実測図(1)	17	第39図 土製品実測図	51
第14図 土師質土器実測図(2)・瓦器実測図	18	第40図 古錢拓影	51
第15図 土師質土器実測図(3)	19	第41図 木製品実測図	52
第16図 土師質上器実測図(4)	20	第42図 古瓦実測図	53
第17図 土師質土器実測図(5)	21	第43図 製塩土器実測図	53
第18図 土師質上器実測図(6)	22	第44図 土錐実測図	54
第19図 土師質土器実測図(7)	23		
第20図 土師質土器実測図(8)	24		
第21図 土師質土器実測図(9)	25		
第22図 土師質土器実測図(10)	26		
第23図 土師質土器実測図(11)	27		
第24図 土師質土器実測図(12)	28		
第25図 土師質土器実測図(13)	29		
第26図 輸入陶磁器実測図(1)	36		

## 図 版 日 次

- 図版 1 石台遺跡近景（上流から）・石台遺跡近景（下流から）  
図版 2 発掘作業風景・C区東土層図  
図版 3 C区西土層図・E区北土層図  
図版 4 F区東土層図・F区北土層図  
図版 5 B区東黒褐色粘質土上層遺物出土状況  
B区東黒褐色粘質土下層遺物出土状況  
図版 6 C区東黒褐色粘質土下層遺物出土状況  
C区西黒褐色粘質土下層遺物出土状況  
図版 7 E区地山面遺物出土状況・F区地山面遺物出土状況  
図版 8 E区黒褐色粘質土下層木製品出土状況  
E区砂礫層土器出土状況  
図版 9 E区砂礫層土器出土状況・E区砂礫層大形打製石斧出土状況  
図版10 F区黒褐色粘質土下層土器出土状況  
F区砂礫層陶器出土状況  
図版11 木製品・動物遺体・縄文土器・製塙土器  
図版12 有生土器  
図版13 須恵器・把手・つまみ  
図版14 輸入陶磁器  
図版15 輸入陶磁器・国産陶器  
図版16 土師質土器・瓦器  
図版17 土師質土器  
図版18 土師質土器  
図版19 上師質土器  
図版20 土師質土器  
図版21 土師質土器  
図版22 土師質土器  
図版23 石 器  
図版24 石 器・玉製品  
図版25 石 器  
図版26 石 器  
図版27 石 器  
図版28 石 器  
図版29 土 鍤  
図版30 土製品・古銭  
図版31 種 子

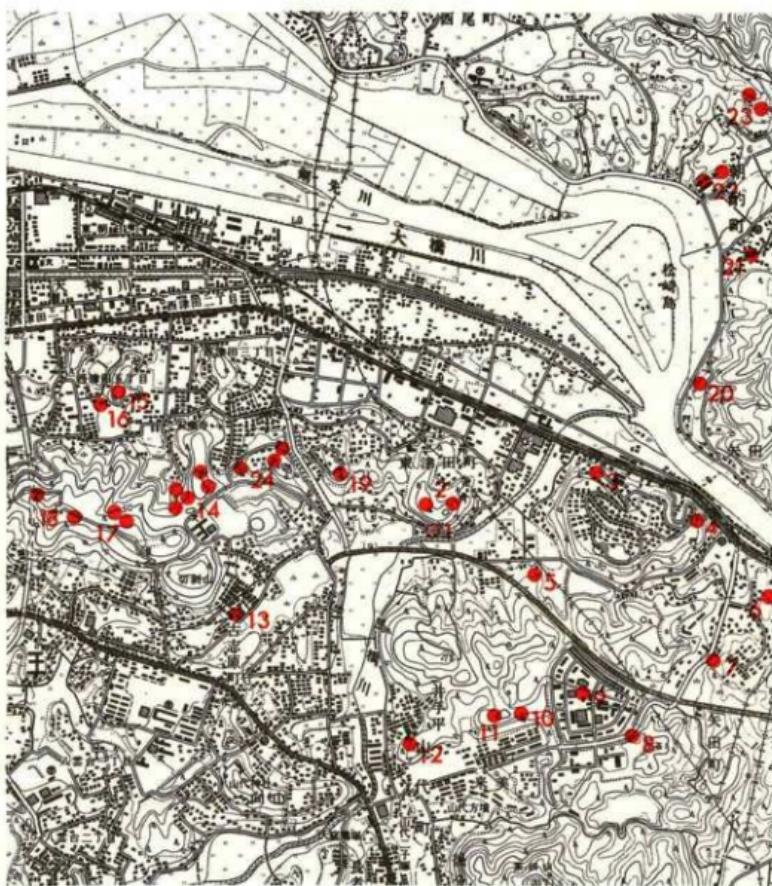
## I 位 置 と 環 境

石台遺跡は松江市郊外の松江市東津田町石台に所在し、松江市佐草町八重垣神社の西側丘陵に源を発する馬橋川の河床および沖積地に位置する。この地区の隣接地には、出雲地方でも有数な穀倉地帯として名高い意宇平野が広がる。ここでは、今でも古代の要衝として栄えた面影をまのあたりにことができる。

石台遺跡の周辺では縄文時代の遺跡は少なく、意宇平野北側の丘陵裾部にある、条痕文土器を出土した法華寺前遺跡、縄文後期の磨消文土器を出土した才塚遺跡などが知られている。弥生時代に入ると、石台遺跡の南方にあたる勝負遺跡から遺物の包含層が検出され、古志原遺跡でも弥生時代と思われる土器が採集されている。古墳時代になると、意宇川下流平野を中心に遺跡の数は激増する。その代表として、現在は消滅しているが、前期の四隅突出型方墳である米美古墳（一辺15m、高さ15m）、中期の石屋古墳（方墳・40×39m）井ノ奥4号墳（前方後円墳・全長約57.5m）、竹矢岩舟古墳（前方後方墳・全長50m）など大型古墳が次々と築造されていった。後期になると37穴を要する十王免横穴群、狐谷横穴群など大規模な横穴群がみられる。また、埴輪窯跡として知られている平所遺跡は、意宇平野の北に位置する。その他、現在確認されているものでは、石台遺跡の北東部の山頂に築造された高杉古墳群（1号墳 前方後方墳・全長26.5m、2号墳 方墳・11.5m）、南裾のタルミ、舟津田遺跡の散布地がある。また、石台遺跡の西側丘陵地帯では、論田古墳群（方墳、横穴群）、城ノ前古墳群（方墳4基）、室藤古墳群（1号墳 方墳・一辺14.5m、2号墳 前方後方墳・全長20.5m）、奥金見古墳群（1号墳 方墳・一辺12.5m、2号墳 方墳・一辺13m）などがある。一方、意宇平野北側の大橋川対岸には魚貝塚古墳（前方後円墳・全長70m）をはじめ、岩屋古墳、廻原古墳群（円墳）なども存在する。奈良時代には、「出雲國風土記」記載の寺院で山代郷の北の新造院として来美庵寺が建立されている。

## 参 考 文 献

- 『全国遺跡地図』32 島根県 文化庁 昭和53年
- 『松江市の埋蔵文化財』 松江市教育委員会 昭和53年
- 『津田・古志原郷土誌』 津田公民館 昭和57年
- 『八雲立つ風土記の丘周辺の文化財』 島根県教育委員会 昭和50年
- 『国道9号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』IV 島根県教育委員会 昭和58年



- |               |               |              |                |
|---------------|---------------|--------------|----------------|
| 1 石台遺跡        | 7 平所遺跡        | 13 古志原遺跡     | 19 根屋古墳推定地(消滅) |
| 2 高杉古墳群       | 8 十王免横穴群      | 14 論田古墳群     | 20 魚見塚古墳       |
| 3 東光台団地古墳(消滅) | 9 来美古墳(消滅)    | 15 城ノ前古墳群    | 21 岩屋古墳        |
| 4 石屋古墳        | 10 来美廃寺       | 16 浅井横穴群(消滅) | 22 朝酌小学校古墳群    |
| 5 勝負遺跡        | 11 来美遺跡       | 17 室藤古墳群     | 23 烟原古墳群       |
| 6 井ノ奥古墳群      | 12 井手平古墳群(消滅) | 18 奥金見古墳群    | 24 岡古墳群        |

1:25000

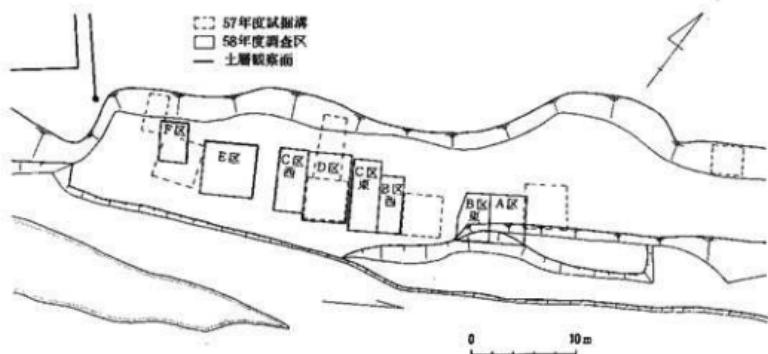
第1図 石台遺跡と周辺の遺跡

## II 調査に至る経緯

石台遺跡は、昭和40年代の後半から実施されている馬橋川護岸改良工事の一環として行われた焼橋付近の工事中（昭和51年）に発見された。多量の縄文土器片、石器が地元の研究者、恩田清氏によって採集され、注目を浴びた遺跡である。縄文土器は後・晩期のもので、晩期の土器には糊痕を有するものが認められ縄文時代の農耕が論議された。

昭和53年度に焼橋の上流部分で工事が計画されたため、県土木部河川課と協議を行い調査を実施したが、この時は遺物や遺構は検出されなかった。また、昭和55～56年度に実施した国道9号松江東バイパス建設工事に伴う調査でも、馬橋川沿いの部分（焼橋より上流の右岸側水田地帯）では、遺構等が検出されなかった。こうしたことから、焼橋より下流部分に集中して遺跡が存在しているものと推定された。

焼橋の下流約100m地点の左岸部で局部改良工事が行われる計画があったため、河川課と協議の結果、昭和57年2月に部分発掘を行ったところ、中世の陶磁器や土師質土器が出土した。この結果、再度河川課と協議を行い、昭和58年度に工事の行われる部分の全面発掘を受託して行うことになった。調査区は、まさに河川敷内に存在し、川の流れに接しているため、安全のため梅雨明けを待って開始し矢板を打って行った。川の水が調査区内に流入することもあり困難をきわめたが、11月19日には無事終了することができた。

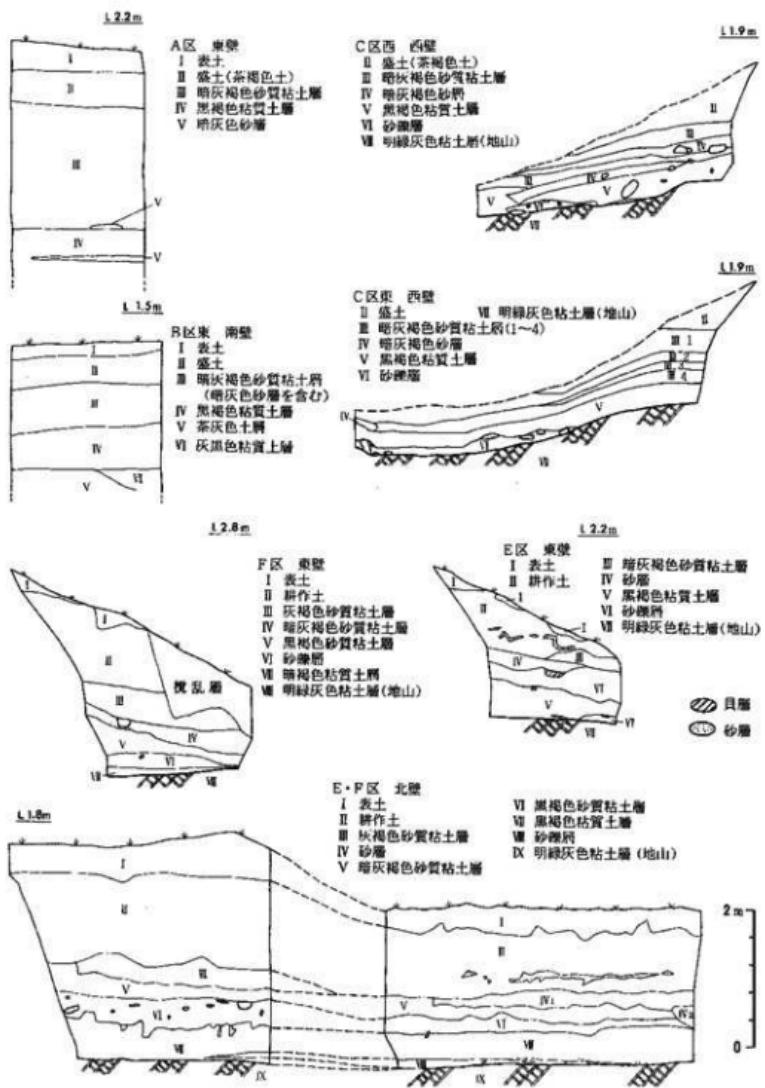


第2図 調査区配置図

### III 調査の経過

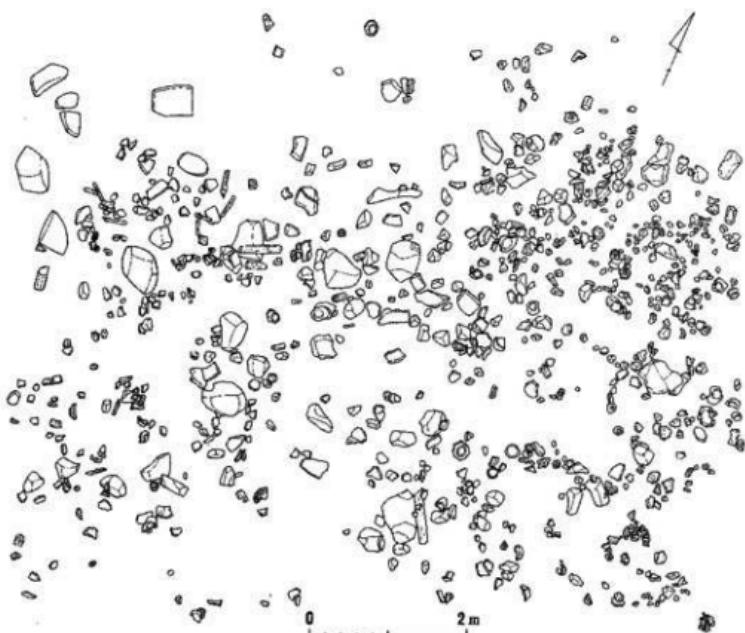
調査区は便宜上、東西8箇所（A～F区）に細分し、それぞれ東よりA区、B区東、B区西、C区東、C区西、D区、E区、F区とした。この際、河川からの浸水を防ぐため調査区の周囲に深さ6mの矢板を巡した。土壤が水分を含み崩れやすいので、安全性を考慮して、各トレンチとも矢板より約1～2m山寄りに設けた。また、前年度の調査の結果、遺物包含層がかなり深いところに位置するところから、遺物包含層上層まで重機で約2～3m掘削したのち手掘りで掘り下げる。以下は昭和58年度の発掘調査の概要である。

- 7月29日 重機による掘削開始。地表下2mで遺物出土。
- 8月1日 淹水をポンプでくみ出す。6.3×7mの調査区を設定。
- 8月3日 基準杭打ち。調査区を上流からA～F区と細分する。A区の発掘開始。
- 8月10日 雷雨のため水が溜まる。排水と土砂の除去。
- 8月11日 A区黒褐色粘質土より柱状片刃石斧出土。実測のち写真撮影。
- 8月23日 B区東西ともに地山面まで掘り下げる。大小の躰が密集。東西トレンチ平板測量。写真撮影。遺物取り上げ。
- 8月27日 B区東、セクション図作成。
- 8月29日 C区東、上層部の平板測量。
- 9月5日 C区東、セクション図をとるため西側を拡張（1.2×0.6m）。環状石斧出土。
- 9月6日 C区東、地山面まで掘り下げる。勾玉、元祐通宝出土。
- 9月14日 C区東、西壁セクション図作成。
- 9月19日 C区西、地山面まで掘り下げる。遺物取り上げ。
- 9月21日 C区西拡張区、地山面まで掘り下げる。遺物取り上げ。D区発掘開始。
- 9月27日 雨が2日間降り続き、河川の増水のため調査区は水没。
- 9月30日 調査再開。
- 10月4日 E区発掘開始。
- 10月7日 D区地山面、実測のち遺物取り上げ。E区黒褐色粘質土中に大量の貝を包含。
- 10月12日 E区の周囲に水抜き用の溝を掘る。
- 10月14日 杖列を検出。木製の椀出土。



第3図 土層断面図

- 10月15日 F区発掘開始。
- 10月18日 E区、実測図作成のため1mの方眼をつくり、杭打ちをする。
- 10月20日 山本清先生、田中義昭先生来跡、指導を受ける。
- 10月21日 池田満雄先生より指導を受ける。
- 10月25日 E区セクション図作成。
- 10月27日 E区砂礫層実測終了。写真撮影のち遺物取り上げ。多量の遺物出土。
- 10月29日 F区、北壁セクション図作成。
- 11月7日 E区、地山面実測。遺物取り上げ。
- 11月9日 F区、地山面実測。遺物取り上げ。
- 11月12日 調査終了と同時に大雨になり、調査区水没。
- 11月19日 後片付け。器材搬出終了。



第4図 E区砂礫層遺物出土状況

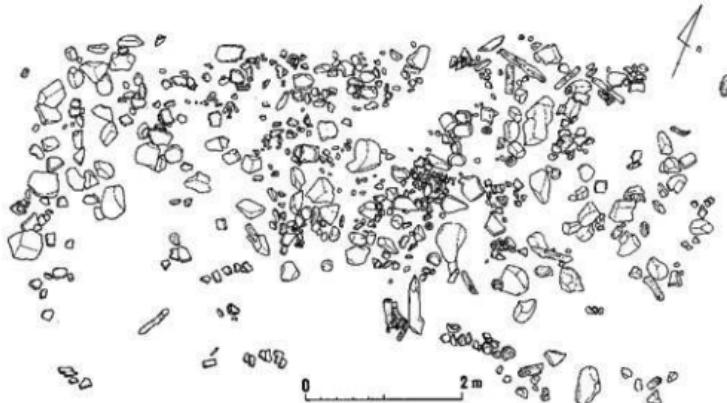
#### IV 調査の概要

A区 調査区は長さ  $3.5 \times$  幅  $4\text{ m}$  で深さ  $3.4\text{ m}$  まで掘り下がた。東壁セクションにてV層まで確認。III層は厚さ  $1.8\text{ m}$  の暗灰褐色砂質粘土層が堆積。IV層の黒褐色粘質土層からは土器片とともに柱状片刃石斧が出土した。IV層より下層では遺物は出土しなかった。

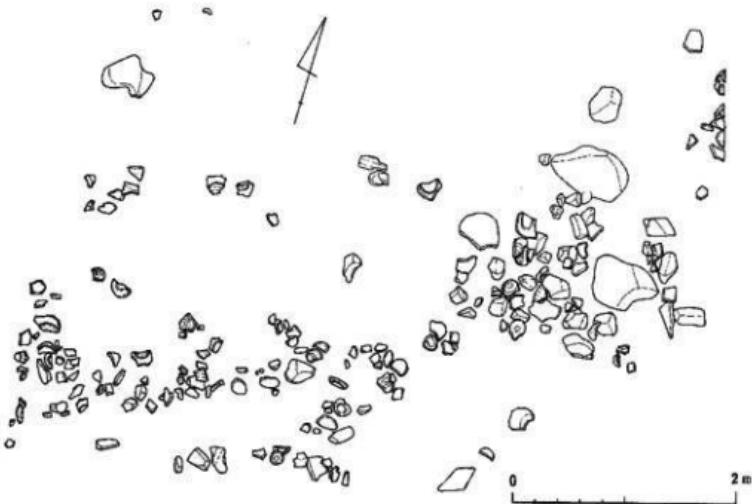
B区東  $2.5 \times 2.5\text{ m}$ 。深さ  $2\text{ m}$ 。南壁にてV層まで確認した。III層の暗灰褐色砂質粘土層では、少量の土器片が出上し、IV層の黒褐色粘質土層では、土器片に加え、木櫛、土鍤などが出土した。

B区西  $2 \times 5.5\text{ m}$ 。深さ  $1.5\text{ m}$  で白色粘土層の地山面が見られ、川の中央部に向かって次第に低くなる。地山面には  $5 \sim 20\text{ cm}$  くらいの礫が密集し、その間に少量の土器片が散在する。B区両トレーナーとも、北側（山側）の黒褐色粘質土層から遺物が多く出土した。

C区東  $3 \times 7\text{ m}$ 。深さ  $2.5\text{ m}$ 。西壁においてII層からIV層まで確認。表土であるI層は重機により掘削した。II層は茶褐色土の盛り土と考えられる。III層の暗灰褐色砂質粘土層は細かい砂粒を含み、やや粘性に富む。堆積が厚く、さらに細分化できる。V層の黒褐色粘質土層は水分を多く含み、弾力性がある。植物片を多量に混入する有機質土である。IV層は砂礫層。V層は固く締まった明緑灰色粘土層の地山面である。遺物の出土はIV～VII層にみられ、V層から環状石斧、石鎌、VII層から古錢、勾玉が多量の土器片と共に発見された。



第5図 E区地山面遺物出土状況



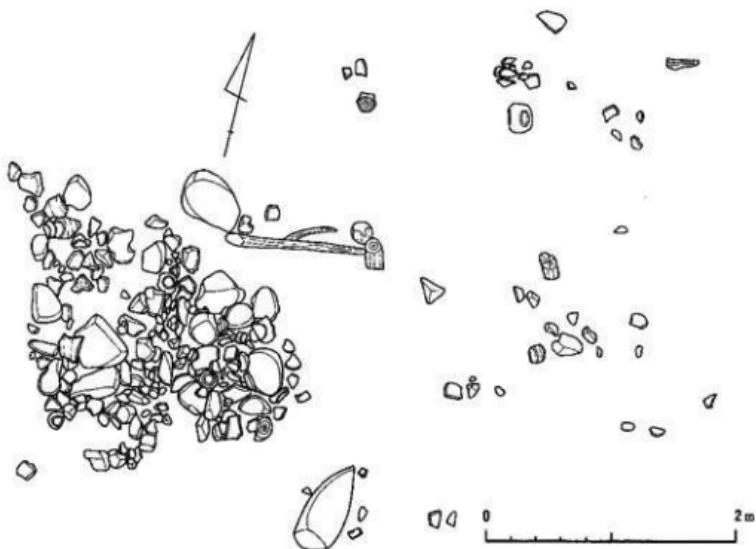
第6図 F区砂礫層遺物出土状況

C区西  $3 \times 6\text{ m}$ 。深さ  $2.2\text{ m}$ 。層序はC区東とはほぼ同様だが、V層に流木片がみられる。遺物の出土量はV層がいちばん多く、多量の土鏡と開元通宝が発見された。

D区  $4 \times 6.5\text{ m}$ 。深さ  $2\text{ m}$ 。壁面が水分を含み崩壊しやすいので、土層図はとれなかった。砂礫層より土師質上器片が多量に出土する。

E区  $5 \times 5\text{ m}$ 。深さ  $2.4\text{ m}$ 。東壁からはVII層までを確認。表土の次ぎに厚い耕作土があり、そのなかに幅  $5\text{ cm}$ の砂層が所々に混入する。VI層の砂層の間に巾  $28\text{ cm}$ 、厚さ  $10\text{ cm}$ の風化した貝層がみられる。IV層の砂層は2層に分かれる。IV(1)はやや黒っぽい灰色で砂粒が細かく、IV(2)は灰色で、IV(1)以上に水分を多く含み、やや粗い砂粒である。北壁ではVI層までを確認。III層とV層は同じ砂質粘土層だがV層の暗灰褐色砂質粘土層の方がやや水分が多い。遺物はIII、V、VII、VIII層に含まれる。出土量は全調査区のなかで最も多く、特にV、VIII層に集中している。遺物は土師質土器が半数を占めるが、木製の椀、石斧、キツネの頭蓋骨なども出土している。遺構としては黒褐色粘質土上面に、わずかながらもほぼ東西にY字形に並ぶ杭列を確認した。

F区  $4 \times 3\text{ m}$ 。深さ  $3.1\text{ m}$ 。北壁セクションはD区とはほぼ同じ層序で8層に分けられる。東壁セクションではIX層を確認。一部で以前の試掘溝が重複した。



第7図 F区地山面遺物出土状況

## V 遺 物 の 概 要

### 1 繩文土器（第8図）

以前、多量の縄文土器片が発見されたが、今回は小破片が数点出土したにとどまった。1には直線状に、3には渦巻き状に太い沈線を施す。1の凸部にはかすかに縄文が認められる。1、3ともに表面の風化が著しいが、磨消縄文であろう。2は波状口縁部を肥厚させ、頂部と外面に曲線の沈線文を描いた縁帯文系土器かと思われる。4は表裏ともに、わずかながら条痕文が残り、口唇部には深い刻み目を加える。編年上の位置付けをするならば、1、3は後期前葉中津式、2は後期中葉津雲A式に並行すると考えられる。4はタテヨウ遺跡出土の晩期前葉のものと酷似している。

### 2 弥生土器（第9図）

ほとんど口縁部片で、摩滅が著しく調整は不明である。時期的には中期のものが最も多い。1～4は壺形土器。いずれも口縁部が「く」の字状に強く屈曲する。1～3の頸部に



第8図 縄文土器拓影

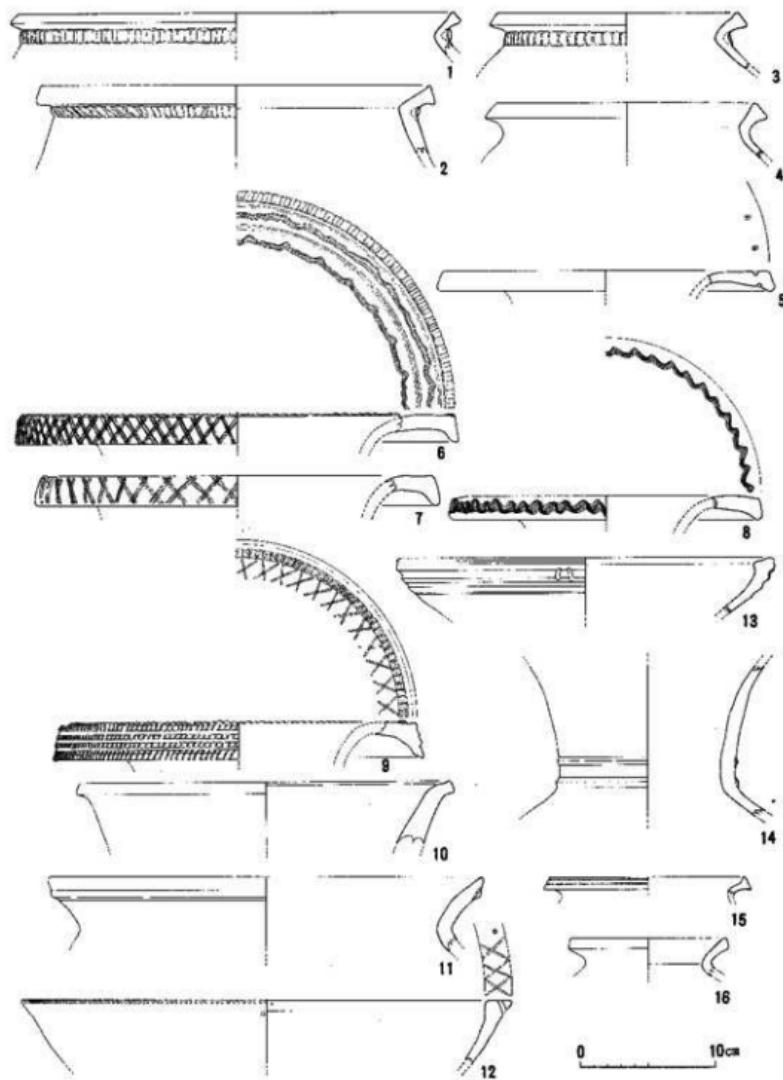
は指頭圧痕をもつ貼り付け突帯を巡らすが、4は文様を持たない。5～9は壺形土器。口縁部が朝顔状に大きく開き、端部は上下に肥厚する。それぞれ鉈状工具、あるいは櫛状工具を用いて様々な文様を描いている。5は口縁上面の2つの小孔は未穿孔。6、7は口縁上面に2本単位の斜格子文を描く。さらに6には押圧を加えた貼り付け文の他に凹線と波状文を交互に巡らす。8は口縁上面、外面に波状文を施す。9の口縁上面には押圧を加えた貼り付け突帯と斜格子文、外面には刻目文と三条の凹線文を施す。12、13は高壺形土器。器形は浅い壺形を呈し、やや肥厚した口縁端部をもつ。12の口縁端部には細かい刻目文を入れる。上面には斜格子目文を施し、小孔を穿つ。13の口縁外面には4条の凹線文を施した後、棒状の浮文を貼り付ける。14は壺形土器片。筒状の頸部には貼り付け突帯文を施す。15、16は壺形土器の口縁部片。15の口縁部には2条の凹線文を巡らす。

### 3 須恵器（第10図、11図）

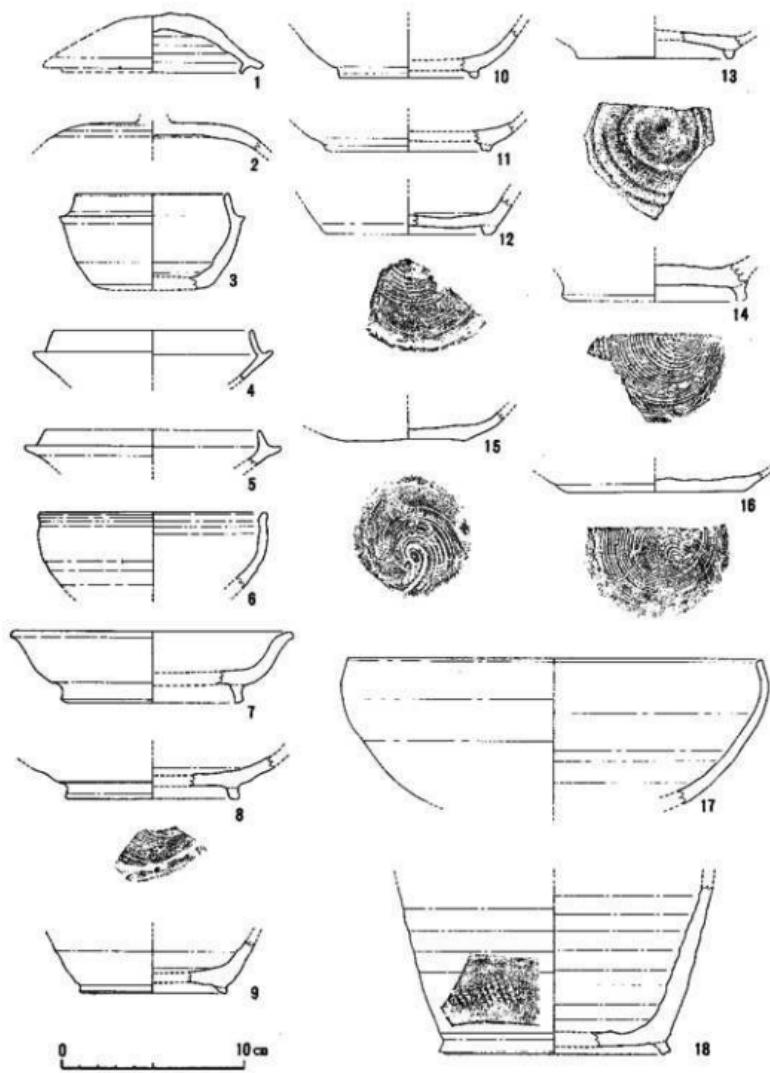
須恵器は壺の胴部の破片が圧倒的に多い。図示できるものは第10図、11図に示したところである。古墳時代から平安時代の各時期の須恵器がある。

**蓋（第10図1・2、第11図7・8・9）** 第10図1は蓋壺の蓋で、天井部はヘラ切りはなし痕を残しおく、端部にかえりを持つ。山陰地方須恵器編年<sup>註1</sup>のIV期である。第11図7、8は擬宝珠状のつまみの部分であり、第10図2はそれを失ったものと考えられる。

**壺（第10図3～16）** 3～5は蓋壺の壺部である。3は器高5.3cm、口径8.3cmを測る。立ち上がりは内傾し比較的長い。受部は短く、端部断面は三角形を呈す。底部外面には手



第9図 弥生土器実測図



第10図 須恵器実測図

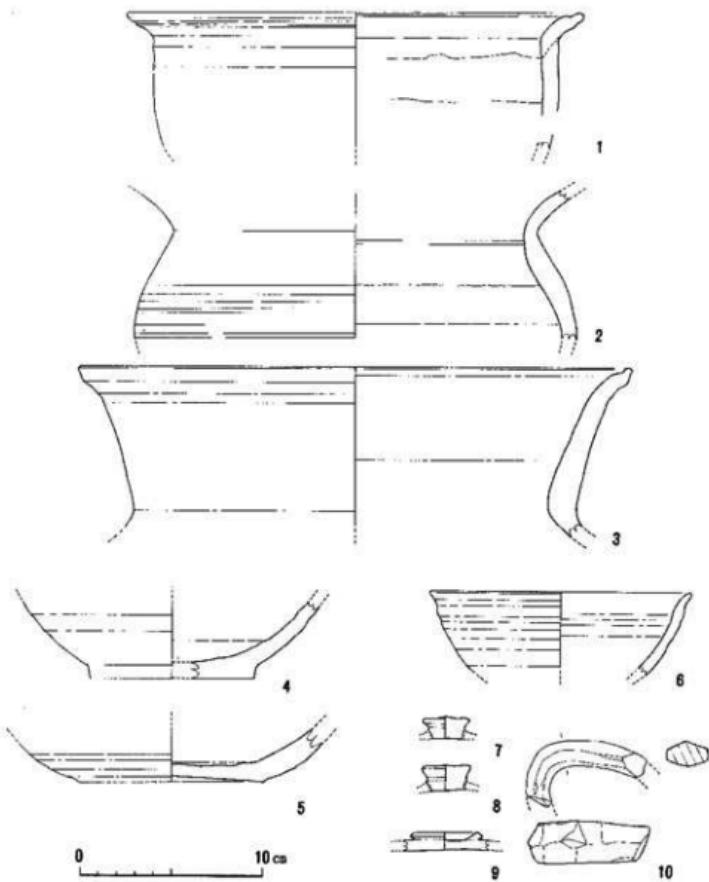
持ちヘラ削り調整がみられ、指頭圧痕も残る。その他は内外面とも回転ナデが施される。胎土はわずかに微砂粒を含み断面は茶色を呈す。当方では他に例がなく最も古い時期の須恵器の可能性がある。4、5は後期古墳の副葬品として通例な蓋坏の坏部である。6、15、16は、口唇部が「く」の字状に外反する無高台の坏で底部は回転糸切痕が残り未調整である。<sup>註2</sup> 7、8、9、10、11、12、13は、高台付の坏である。このうち、7、8は小形の盤に近い。7は体部が逆「ハ」の字状に立ち上がり、口縁部近くでゆるやかに外反する。<sup>註3</sup> 8は7に比較して体部がより外に開く。7、8とも底部には回転糸切痕が残り未調整である。その外の部分は回転ナデで仕上げられている。9～13は体部が逆「ハ」の字形に立ち上り、口縁部は内・外湾しない形態のものと考えられる。いずれも外面底部には回転糸切痕を残し未調整である。高台は低く調整は粗い。

**臺（第10図14・18、第11図2）** 第10図14、18は瓦類臺の底部及び胴部である。高台は貼り付けで、外面底部は回転糸切痕が残り未調整である。内面底部には径4cmにわたり自然軸の付着していた跡がみられる。18は底部から胴部にかけて約1/2残存している。内面底部には自然軸の付着がみられる。内面は粗いヨコナデが施されている。高台は貼り付けである。外面底部には糸切痕はみられない。胴部外面は回転ヘラ削り調整されているが、部分的に格子状の叩き痕が残っており、14と技法上明確な違いが認められる。第11図2は頸部から胴部にかけての破片である。第10図14、18に比較してやや焼成は甘く、薄い青灰色を呈す。口唇部を欠くが口縁部は「く」の字状に外反する。内外面とも回転ナデ調整が施されている。

**鉄鉢形土器（第10図17）** 復元口径は22.6cm、底部を欠失しているが器高は9.0cmほどと考えられる。底部から、ゆるやかに内湾しながら立ち上がり、そのまま口唇部に至る。底部付近の厚さは0.8cm、口唇部で0.4cmである。口唇部は幅0.4cmの平坦を呈し内傾する。底部は尖らず、丸底に近いものであったと考えられる。島根県下ではこの種の須恵器の出土例はあまり知られてはいない。現在のところ隱岐國分尼寺跡、山雲國分寺跡、松江市西川津町タテチョウ遺跡例を数えるのみである。<sup>註4</sup> 隱岐國分尼寺跡出土例や山雲國分寺跡出土例<sup>註5</sup> は尖底形のものであり、第10図17はタテチョウ遺跡出土例に近い。これまでの出土遺跡の性格は、寺院・官衙跡関係であり、後述する来美廃寺で使用されていたと考えられる古瓦（第42図）や製塙土器（第43図）とともにこの遺跡の性格の一側面を示唆している。

**平甕（第11図10）** 第11図10は平甕の把手と考えられる。青灰色を呈し、焼成は良好である。全体にヘラ削りによって整形されている。断面の厚さは1.4cmである。

**塊（第11図4・5・6）** 第11図4、5、6は塊形の須恵器片である。4は外面底部は



第11図 須恵器・把手・つまみ実測図

平底で回転ナデが施されている。6は体部から口縁にかけて内湾しながら立ち上り、口唇部はわずかに外反する。いずれも平安時代のものと考えられる。

その他（第11図1・3） 第11図1は口径25.0cmの鉢形、3は口径30.5cmの壺形の須恵器である。

#### 4 国産陶器・四耳壺（第12図1～7）

黄褐色釉四耳壺（第12図1） 口径12.3cm、復元最大胴部径20.2cm、底部径8cmを測る。胴部中央部に最大径をもつ樽形を呈し、口縁部は「く」の字形に短く屈曲する。肩部には波状沈線が入り、付着部分の痕跡がわずかに残るところから四耳を有すると思われる。底部は外面部を浅くくり取り、疊付き幅0.6cmの輪状高台様につくる。底部内面にはヘラ削りによる凹凸がはっきり残るが、その他は内外面ともに螺旋状のナデ調整が施される。胎土は暗灰色を帯び、やや粗い。釉調はオリーブ色を帯びた褐色を呈し、底部外表面を除いて<sup>註7</sup>かけられている。島根県における出土例は大原郡加茂町神原経塚出土の褐釉四耳壺<sup>註7</sup>、隠岐郡西ノ島町美田高田山寺ノ峰経塚出土の灰釉四耳壺<sup>註8</sup>、松江市八幡町的場古墓出土の褐釉四耳壺<sup>註9</sup>の3例があげられる。いずれも12世紀に日本に輸入された中国陶器と考えられる。

壺(2) 須恵質土器の破損品。底部には「ハ」の字の太い高台を貼り付ける。疊付きの外表面はやや凹む。胴部内面は一部に叩き目を残しながら回転ナデで仕上げる。底部内面には光沢をもつ黒い炭化物が付着。色調は黒灰色。硬質で、胎土はやや粗い。

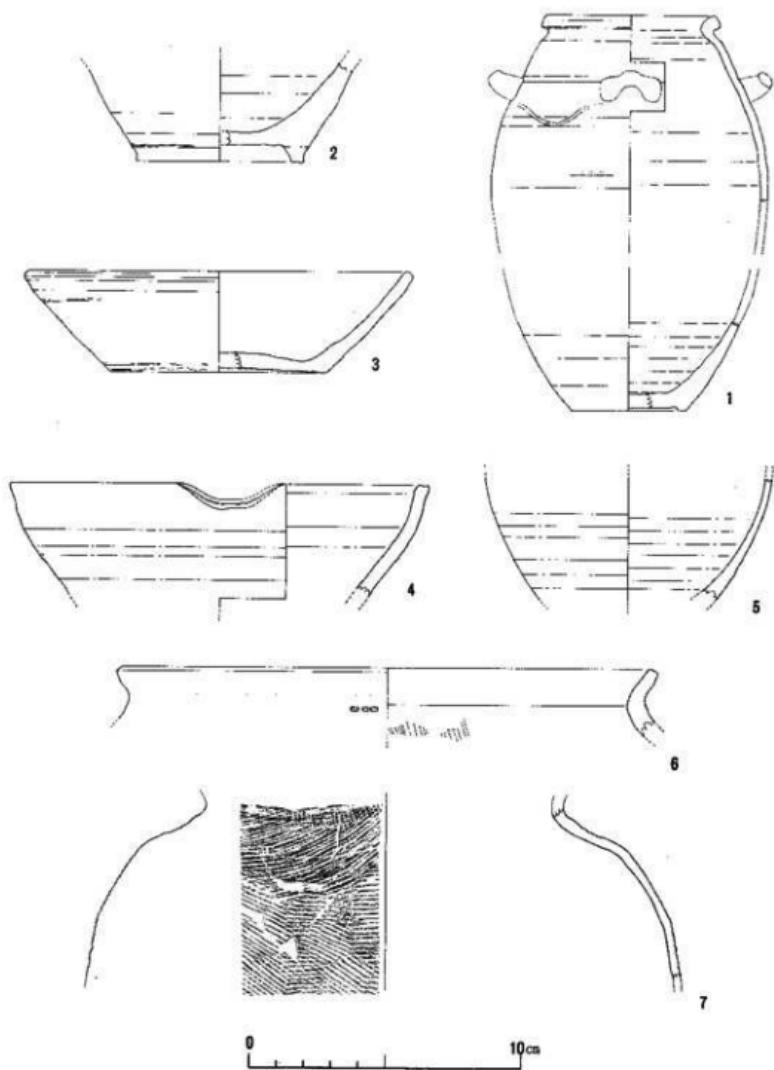
こね鉢(3) 須恵質土器。口径27.6cm、器高7.4cm、底部径15.6cm、平底から逆「ハ」の字状にのび、口縁部に至る。体部内外面とも回転ナデを施すが、底部外表面は未調整。色調は口縁部外表面付近が黒灰色を帯びるが、その他は明灰色。胎土はやや粗い。

備前こね鉢(4) 復元口径約30cm。口縁端部を下方につまみ出し、片口とする。胴部にはナデ調整を施す。チョコレート色を呈し、胎土は0.2cm程度の砂粒を混入する。口縁部内面には煤状のものが付着する。

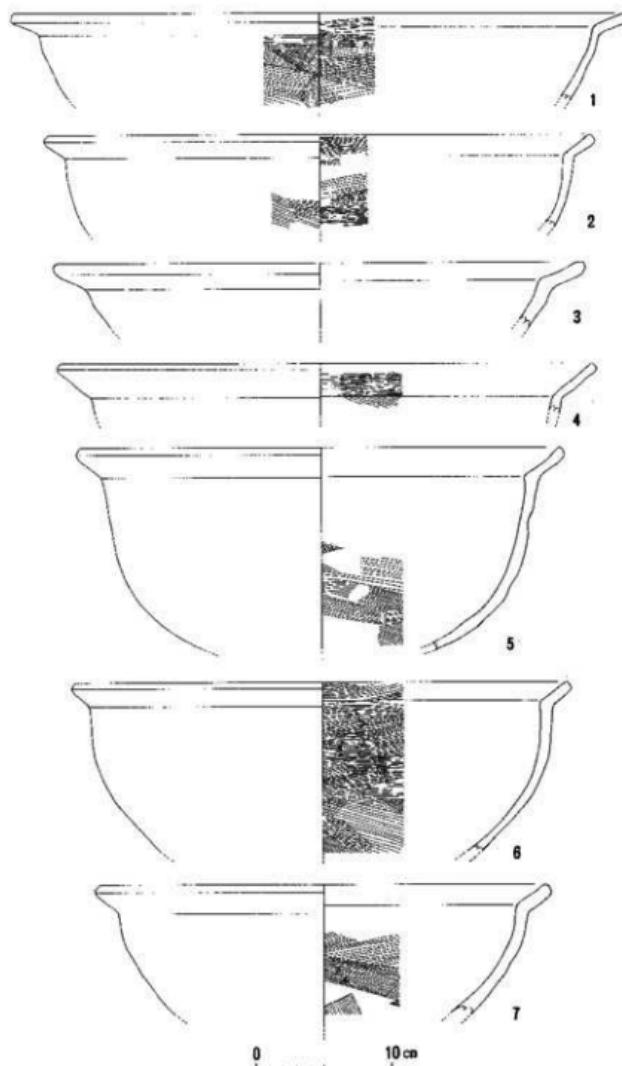
壺(5) 胴部片。摩滅が著しく、表面が剥落する。外面には明確なヘラ削り痕を残す。胎土には微砂粒を多く含む。

甕(6) 須恵質土器の口縁部片。復元口径39.6cm。口縁部はゆるやかに外反する。頸部外面には格子状の叩き目が残る。内面にはヨコナデ後、刷毛目を縦方向に入れる。口縁部は回転ナデ仕上げ。色調は暗灰色。

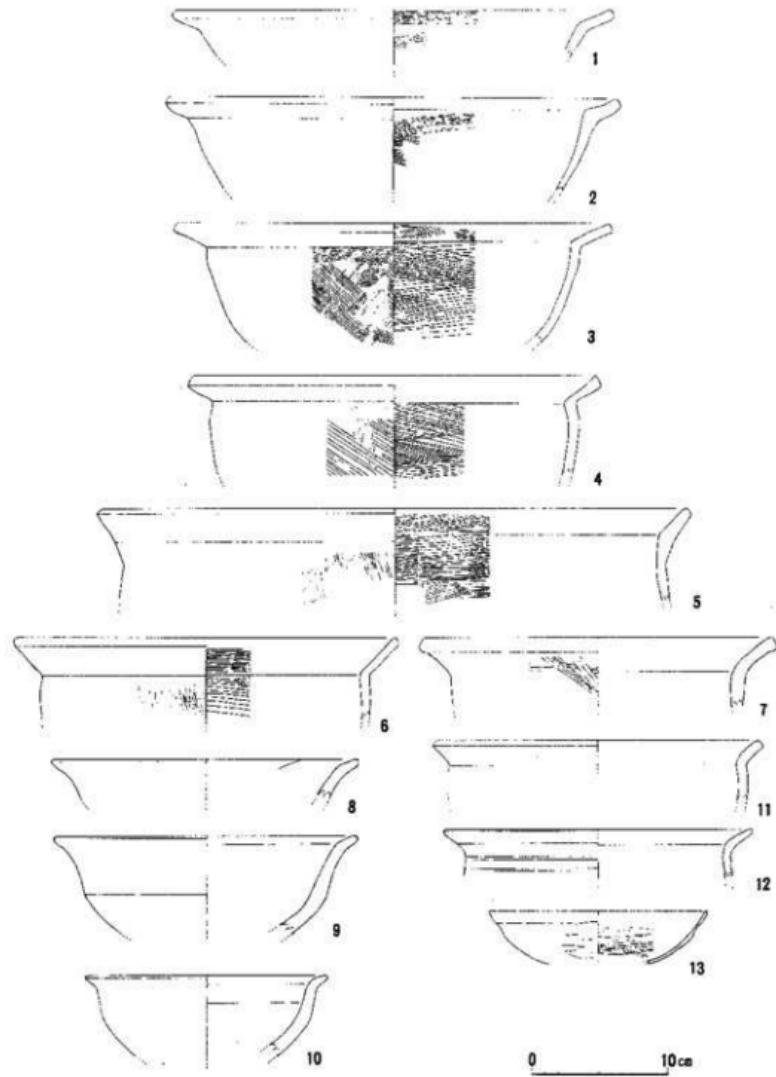
魚住窯甕(7) 最大胴部径は42cmを測るが、器壁は0.6～0.9cmと比較的薄い。胴部上部が張り、底部は丸底をなすと思われる。胴部外面に齒巾0.3cmの平行条線の叩き目を施す。内面の仕上げ調整は難で、叩き目が残り凹凸がある。頸部はやや凹み、縦状の平行条線叩き目を入れた後、ヨコナデ成形をする。色調は外面が黒灰色、内面は茶灰色を呈す。軟質で胎土は0.3cm程度の砂粒が混入し、粗い。



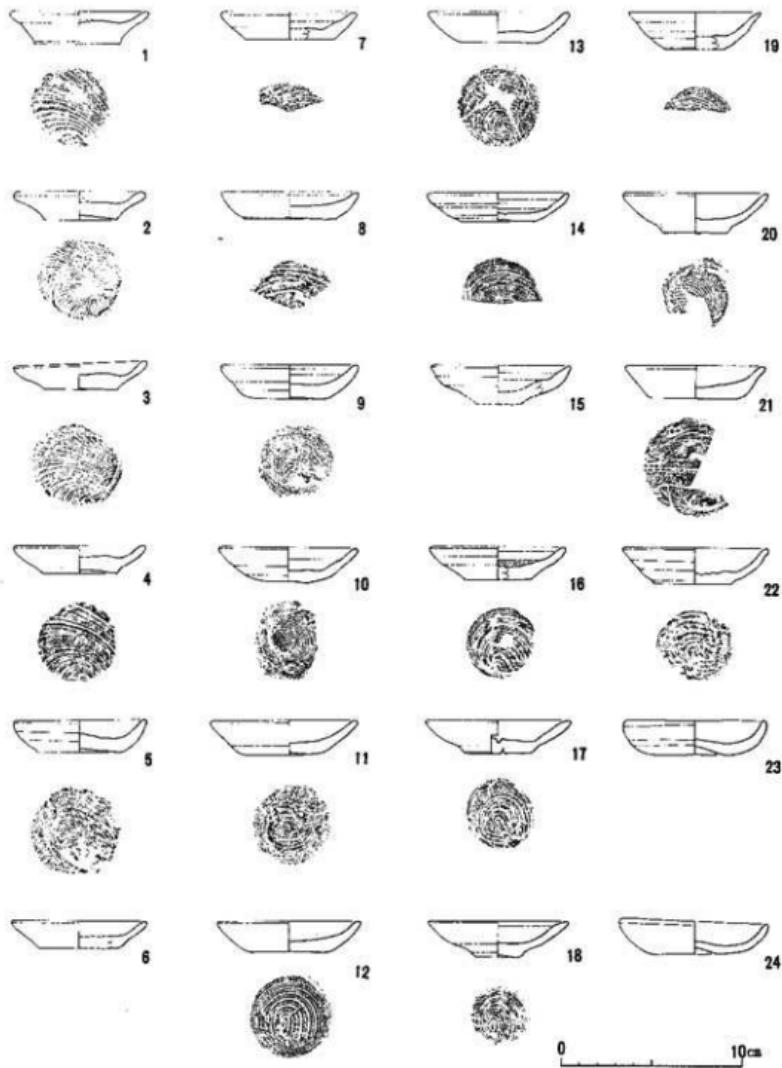
第12図 四耳壺国産陶器実測図



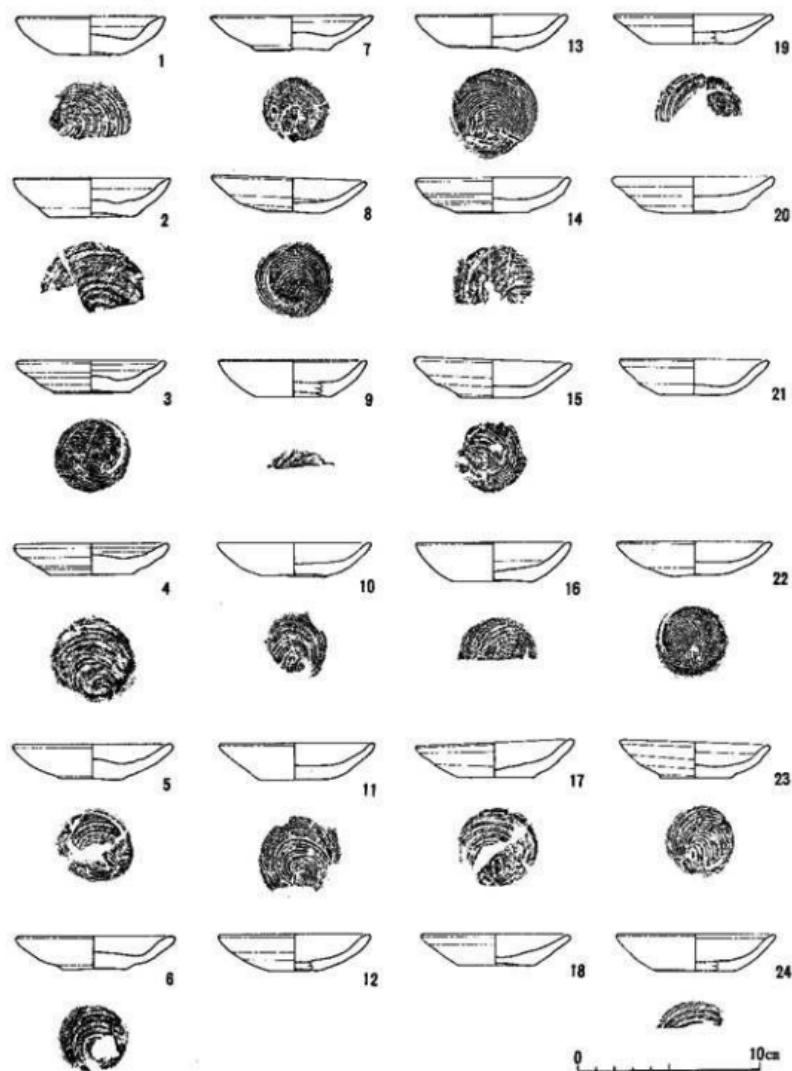
第13図 土師質土器実測図(1)



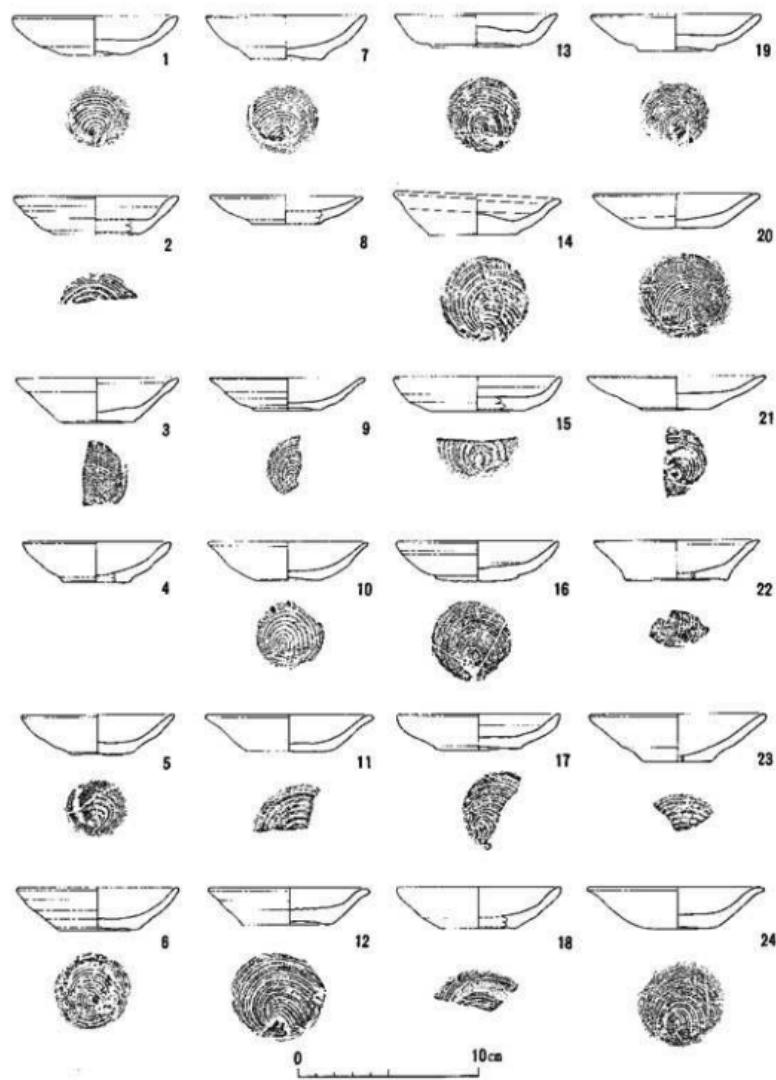
第14図 土師質土器実測図(2)・瓦器実測図



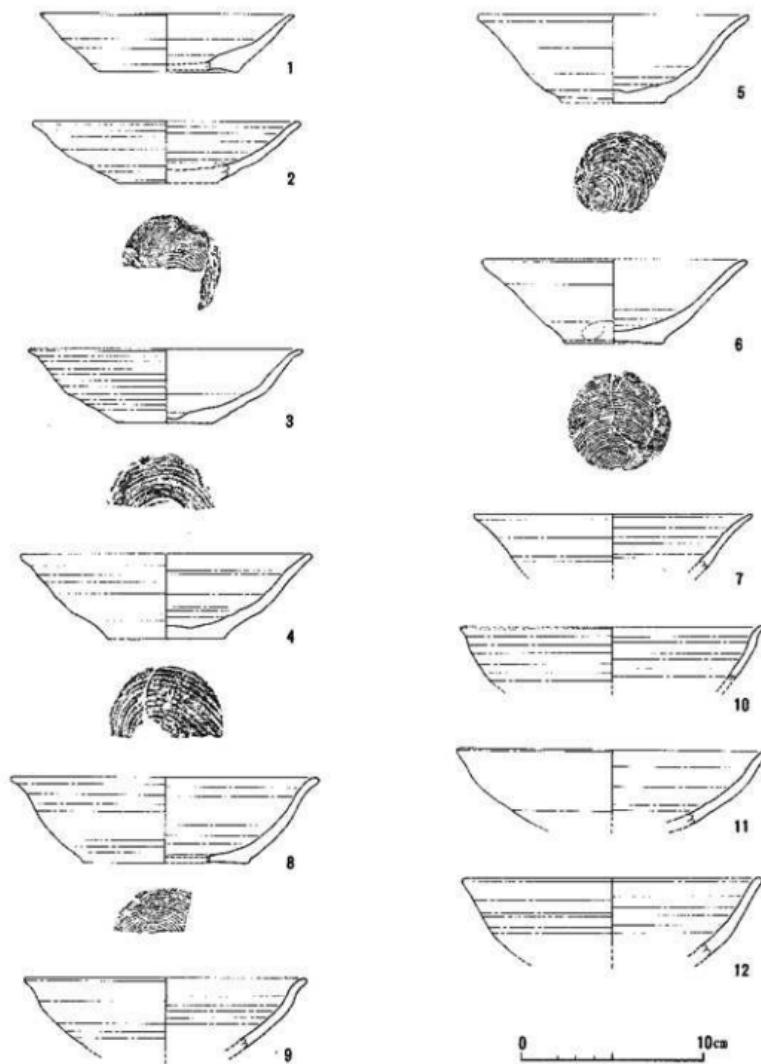
第15図 土師質土器実測図(3)



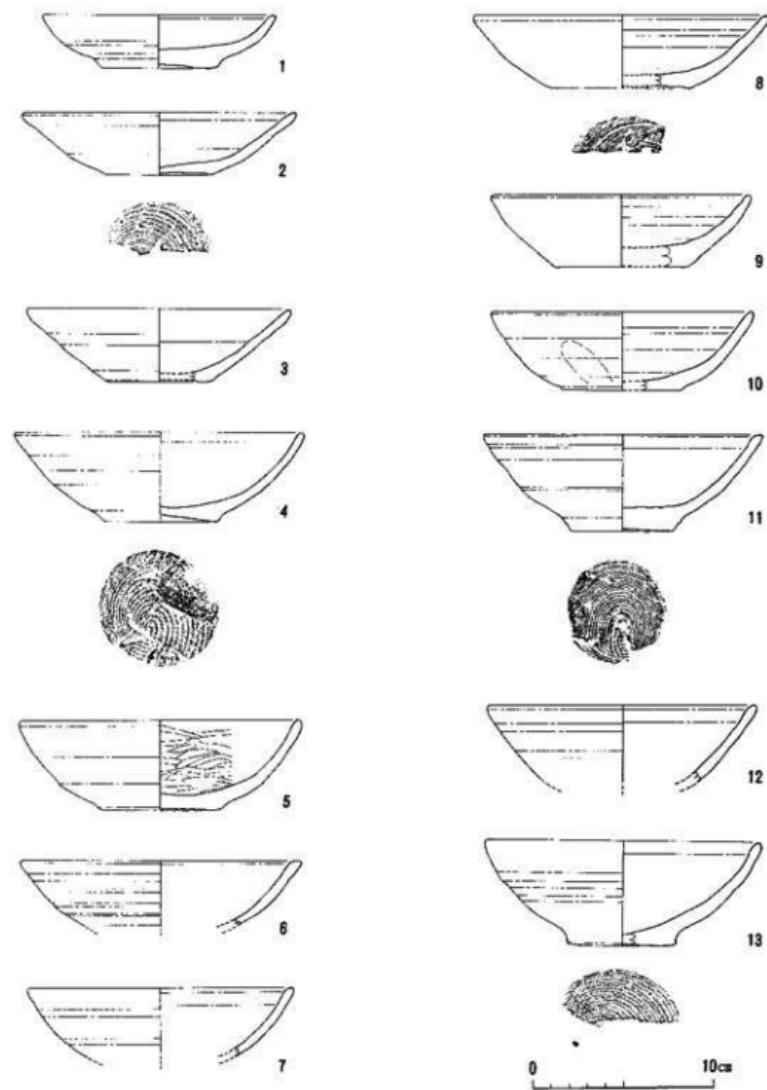
第16図 土師質土器実測図(4)



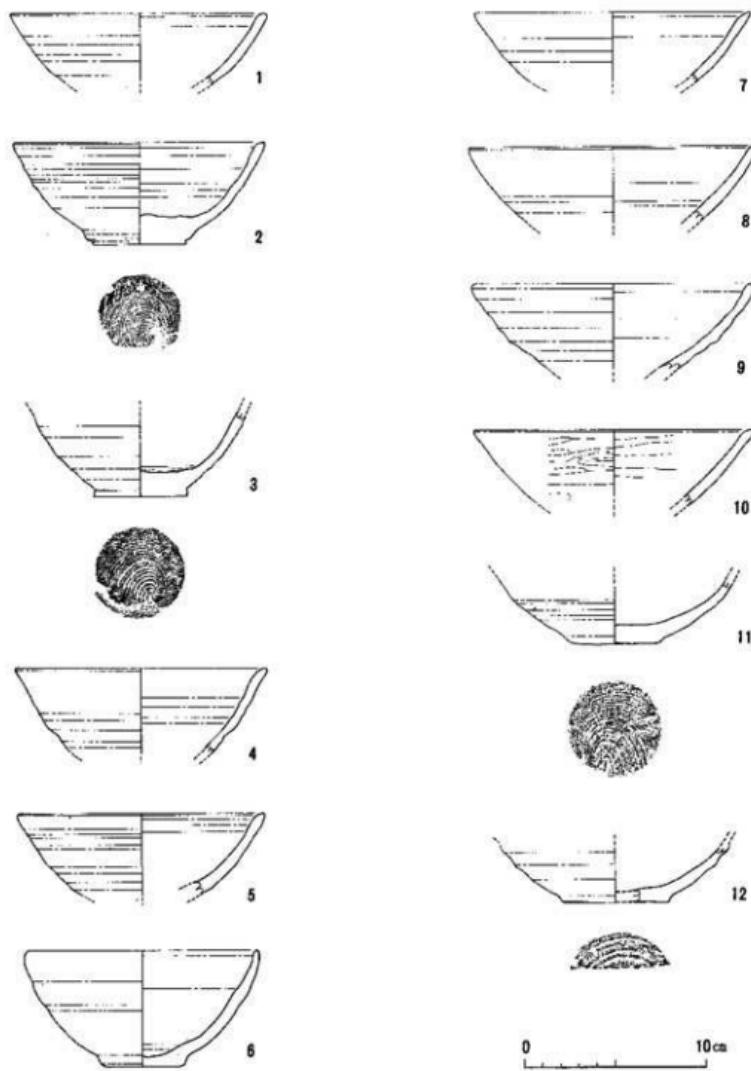
第17図 土師質土器実測図(5)



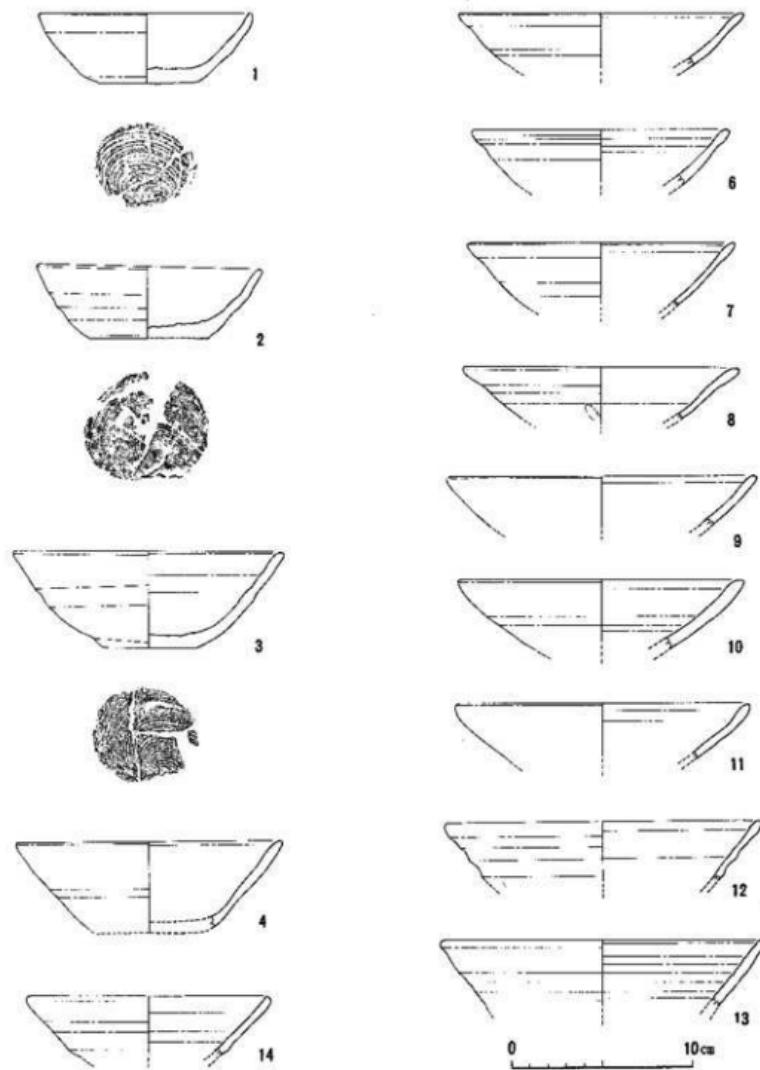
第18図 土師質土器実測図(6)



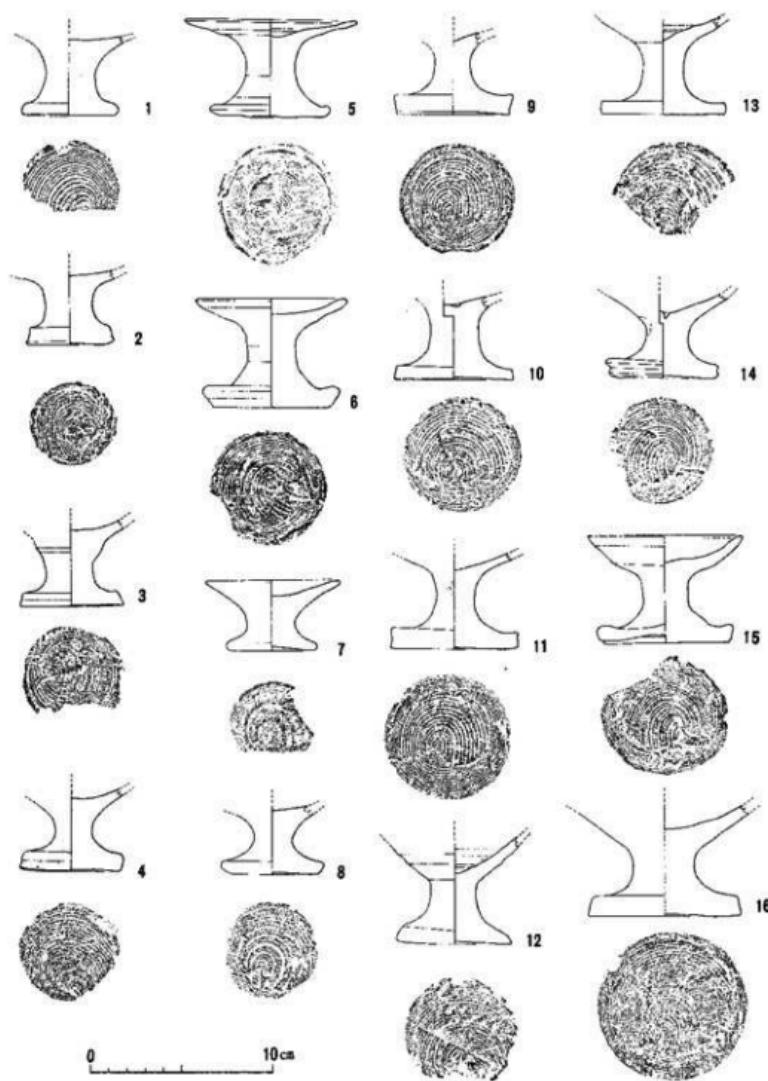
第19図 土質土巻実測図(7)



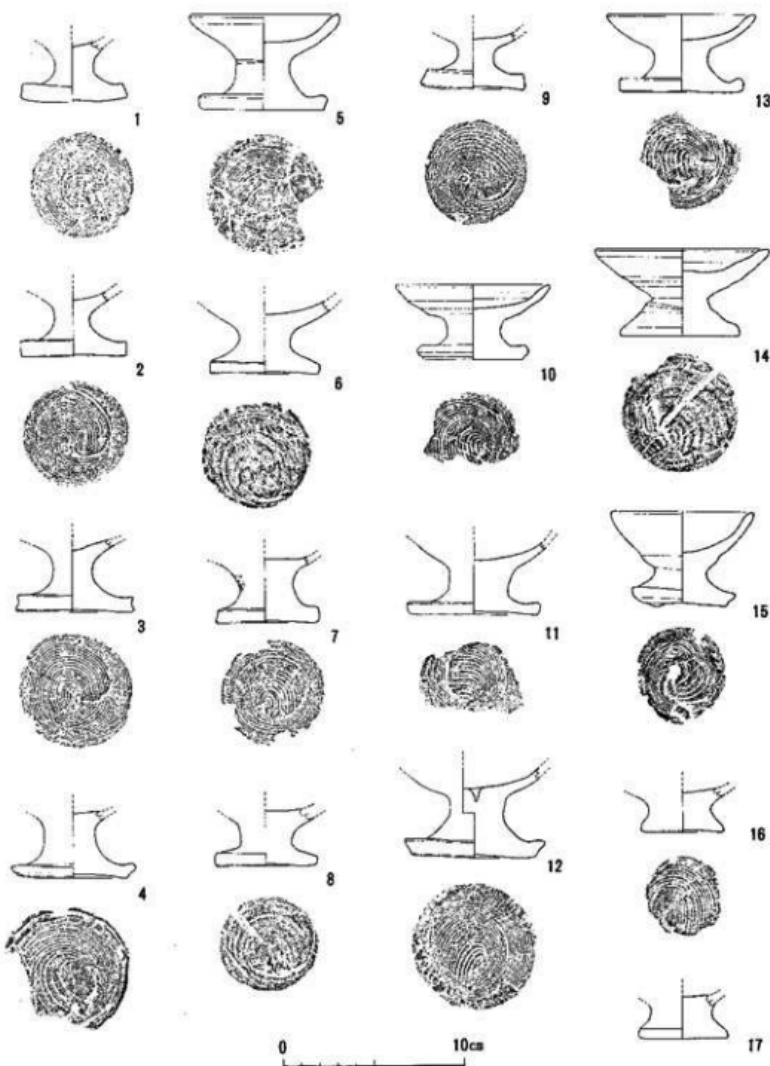
第20図 土師質土器実測図(8)



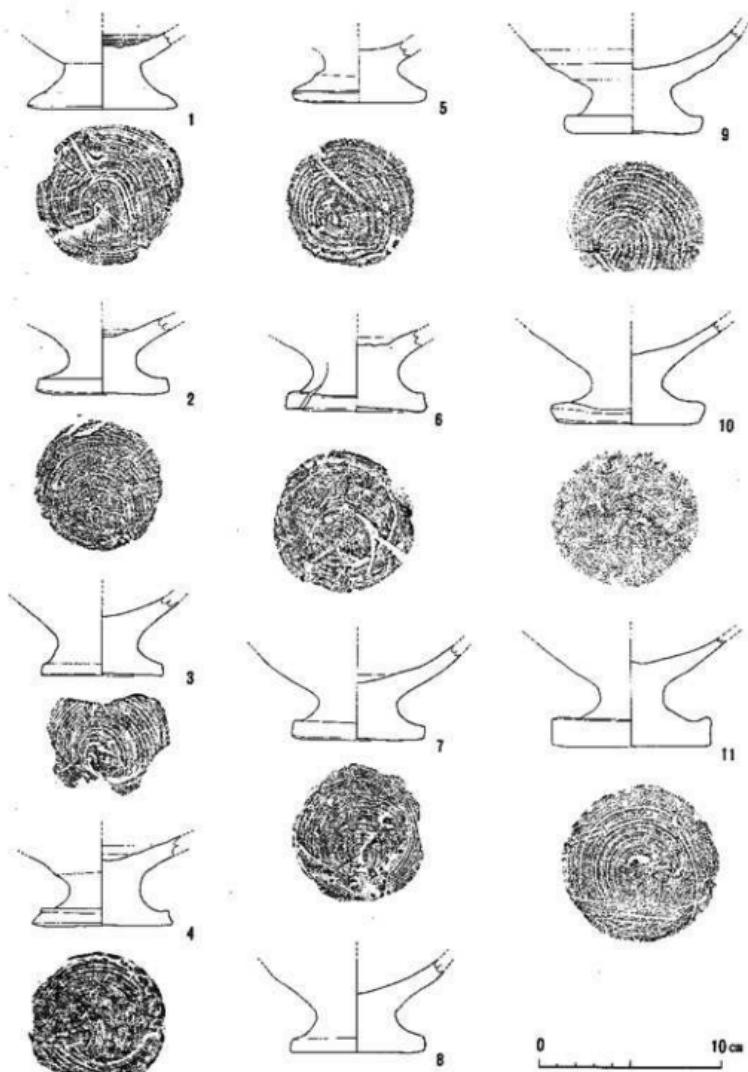
第21図 土師質土器実測図(9)



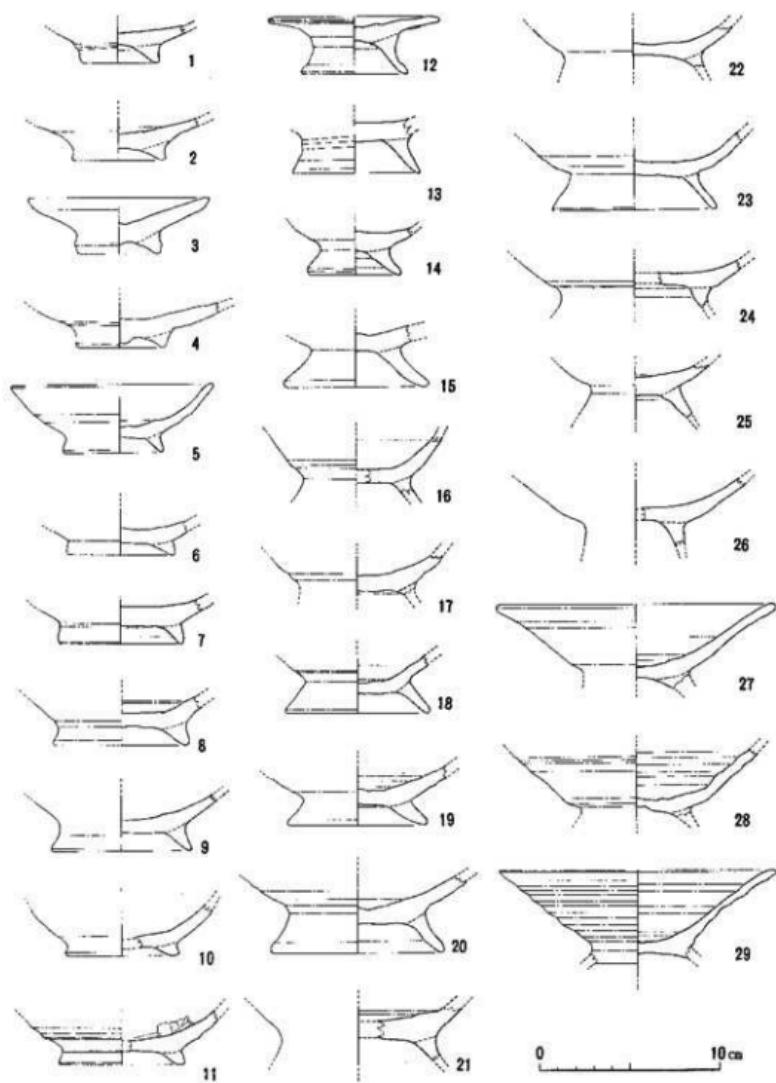
第22図 土師質土器実測図10



第23図 土器質土器実測図(11)



第24図 土師質土器実測図12



第25図 土師質土器実測図13

## 5 土師質土器（第13図～第25図）

石台遺跡より出土した全遺物の約70%を占める。そのうち実測可能なものをここに掲載している。これらの器種はまず、高台のないもの、高台のあるもの、脚付きのものに大別することができる。さらに高台のないものには、皿形、壺形、塊形土器があり、高台のあるもの、脚付きのものには、それぞれ皿形、壺形土器がある。つくりは比較的丁寧で、破損品、風化の著しいもの、第15図-23、24以外はすべてロクロ整形によるものである。底部の切り離しは全て糸切りによるものと思われる。焼成は比較的良好だが、一部に煤の付着がみられるものもある。（15-3・5・7・9・11・17など。）

### 高台のないもの（第15図～第21図）

皿形土器（第15図～第17図） 口径の大きさにより、I類（7～8cm未満）、II類（8～9cm未満）、III類（9～10cm未満）に分けた。さらに、器形の変化により細分化して、a底部が厚く、受部が浅いもの、b体部が逆「ハ」の字状に立ち上がるもの、c口縁部がやや外反するもの、d手づくねによるものとした。なお、口径と器高の比率は4：1程度である。

I-a（第15図1～5） 口径7.3～7.5cm、器高1.4～1.8cm。1～4の体部は外向きに広がり、器底はかなり肉厚で、底部外面には静止糸切りが残る。また、底部内面にはなでを加えた形跡も見られる。2、4、5の底部は上げ底氣味である。胎土は微砂粒が多く含まれ、やや粗い。色調は2が赤褐色系を呈す他は茶褐色系である。

I-b（第15図6～20） 口径7.3～7.9cm、器高1.5～2.1cm。6～8は器高の低い、浅めの皿である。9～13は内湾氣味に立ち上がる。14は器肉が薄く、体部内面には凹凸ができる。15～20は器高がやや高く、底部近くに明確なアクセントが付くもの、口縁部内面に段が入るものもある。胎土は粗いものが多い。赤褐色系～茶褐色系。

I-c（第15図21・22） 口径7.7～7.9cm、器高1.8～2cm。口端部がわずかに屈曲する。胎土はやや粗い。21は赤褐色を呈す。

I-d（第15図23・24） 口径1.8cm、器高1.8cm。両者とも口縁部外面に横ナデを施す。体部外面下半部は、指でなでて仕上げる。底部外面には指頭圧痕が残り、指で押しあげたらしく、上げ底になっている。胎土、焼成とともに良好で、淡い赤褐色を帯びる。

II-a（第16図1～7） 口径8.1～8.9cm、器高1.8～2.2cm。いずれも底部から外上方にのび、器厚は厚めである。6、7は体部中程でくびれる。2～4の内面は回転ナデによる凹凸がはっきり残る。色調はうす茶～赤褐色系。胎土はやや粗い。

II-b（第16図8～第17図7） 口径8.1～8.9cm、器高1.7～2.5cm。8～16の体部

は幾分、内湾氣味に立ち上がるが、17～20は外方向に開く。いずれも端部は丸い。第16図21～第17図2の口縁部はわずかばかり屈曲する。第17図3～7はやや深めのものである。3は外上方に直線的に立ち上がり、口縁端部を鋭くおさめる。4～7はやや丸味を帯びた体部を有す。胎土中には微砂粒が多く含まれる。色調は茶褐色系、黄褐色系、赤褐色と分けることができる。

II-c (第17図8～12) 口径8.5～8.9cm、器高1.5～2.0cm。9、10は器壁が薄い。12の口縁部は水平に近い。胎土はやや粗い。色調は赤褐色～茶褐色系。

III-a (第17図13・14) 口径9.0～9.2cm、器高1.8～2.2cm。13は鋭角な口端部をもつ。胎土は14と比較すると13がやや粗い。両者とも黄褐色を呈す。

III-b (第17図15～23) 口径9.3～9.9cm、器高1.8～2.6cm。15、16、18はほぼ半円形の体部である。17は体部中程でやや垂直氣味にのびる。19～23は外方向に大きく開き、なかでも、22、23は器高が高い。胎土はやや粗い。茶灰色、もしくはうす茶を呈す他は赤褐色系である。

III-c (第17図24) 口径9.8cm、器高2.3cm。口縁部がゆるやかに外反する。胎土、焼成とともに良好。赤褐色を呈す。

坏形土器 (第18図、第19図) 一応の基準として口径と器高の比率が3：1程度のものを坏形土器とした。いずれも形態的特徴によりa～gに分けた。

a類 (第18図1～9) 口径13.8～16.8cm、器高3.2～4.8cm。底部から口縁部にかけて逆「八」の字状に大きく広がる。器壁には回転ナデによる痕跡が著しく残る。胎土は6、7が緻密な他はやや粗い。色調は灰褐色～淡赤褐色。

b類 (第18図10～12) 口径16.6～16.9cm。底部から内湾氣味に立ち上がり、口縁部はやや屈曲する。胎土は比較的細かく、灰褐色を帯びる。

c類 (第19図1) 口径12.7cm、器高3.0cm。半円形の体部で、底部は高台状を呈し、やや上げ底氣味である。胎土中に微砂粒を多く混入する。色調はうす茶。

d類 (第19図2・3) 口径14.5～14.9cm、器高3.5～4.0cm。平底の底部より逆「八」の字状に直線的にのびる。2の端部はややふくらむ。胎土はやや粗い。うす茶色。

e類 (第19図4～7) 口径14.3cm、器高4.0～4.3cm。底部は上げ底氣味。器形はd類に似るが、器壁はやや薄い。4、5の端部は丸く仕上げるが、6、7はややふくらむ。5は内黒で乱雑なヘラミガキを施す。胎土は粗い。淡茶灰～灰白色を呈す。

f類 (第19図8～10) 口径14.3～16.3cm、器高4.0～4.3cm。平底で斜上方にゆるやかに立ち上がる。10の体部内面には指頭圧痕が残る。微砂粒を多く含み、灰褐色を呈す。

**g類（第19図11～13）** 口径14.8～15.3cm、器高5.3～5.8cm。底部は厚く、高台状を呈す。体部は内湾気味に大きく開き、口縁端部を鋭くする。ほとんど塊形に近い形態を成す。胎土は1が緻密だがその他は微砂粒が多く混入する。色調は灰褐色～うす茶。

**塊形土器（第20図、第21図）** 一応の基準として口径と器高の比率が2：1程度のものを塊形土器とした。塊形土器と同様、形態的特徴によりa～d類に分けた。第20図11・12は塊形土器の底部かと思われる。

**a類（第20図1～5）** 口径13.8～14cm、器高5.6cm。半球形の体部を呈し、口縁端部を鋭くつくる。ただし、第20図4の口縁部はやや外反する。底部は分厚く、高台状を成す。胎土はやや粗い。うす茶～灰褐色。

**b類（第20図6）** 口径12.7cm、器高6.3cm。体部はa類に似るが、口縁端部がわずかばかり内湾する。底部内面はやや凹む。微砂粒を多く含み、茶灰色を帯びる。

**c類（第20図7～10）** 口径15.0～15.7cm。b類より口径が大きく、直線的に斜行する体部をもつ。口縁端部が鋭角気味のもの（7・8・10）、丸みを帯びるもの（9）がある。10の内面は横方向にヘラミガキが施され、光沢をもつ。胎土は8、19は比較的良好だが、7、9はやや粗い。淡茶灰～淡灰色。

**d類（第21図1～4）** 口径11.7～14.5cm、器高3.9～5.3cm。平底の底辺より斜行上方にゆるやかに立ち上がる。胎土は1が緻密だがその他はやや粗い。色調は赤褐色～茶灰色。

**器種の不明なもの（第21図5～14）** 形態的に特徴のあるものを次ぎのようにグルーピングした。体部が丸味を帯び、口縁端部が上下に肥厚するもの（5～7）、口縁部が外反し、端部がややふくらむもの（8）、外上方に大きく開き、端部を丸くおさめるもの（9）、口縁部がやや内側に屈曲し端部が尖るもの（10・11）、器壁が直線的に斜行して開き、器面の凹凸が目立つもの（12・13）、口縁端部が平坦になるもの（14）。いずれも胎土中に微砂粒を多く含む。色調はうす茶～灰褐色系である。

**脚付きのもの（第22図～24図）** 基本的には高塊状を呈すが、一部に受部の内底中央部に穿孔したものがみられる。（第22図15、第23図14）。全面回転ナデ仕上げで、底部の切り離しは回転糸切りによるものである。皿形・塊形土器に大別した。

**皿形土器（第22図1～8）** それぞれの特徴から、A・B類と分けた。

**A類（第22図1～6）** 口径8.3～9.4cm、脚部高3.7～5.1cm、底部径5～6.4cm。脚部高が高く、受部は外方向に直線的に開く。胎土は粗く、色調は淡灰色。

**B類（第22図7・8）** 口径7.3cm、脚部高3～3.5cm、底部径4.9～5.2cmの小形品。

受部の形態はA類と同様だが、脚部がやや短い。微砂粒を多く含み、淡い灰褐色を帯びる。

坏形土器（第22図9～16、第23・24図） I脚部が比較的長いもの、II脚部が太くて、短いもの。IIIつづみ形に近い形状をなすものとし、さらにそれぞれをa、b、cと細分化した。

I-a（第22図9～14） 脚部高3.6～4.3cm、底部径6.5～7.0cm。細長い脚部に直線的に斜行する受部が付く。10は内黒。胎土は粗く、灰褐色を呈す。

I-b（第22図15・16） 口径8.5cm、脚部高4.4～4.7cm、底部径7～8.5cm。やや内湾気味の受部をもつ。胎土はやや粗い。色調は茶灰色。

I-c（第23図1～4） 脚部高3～3.5cm、底部径5.7～6.5cm。受部の形態はaに近いと思われるが、脚部がやや短い。微砂粒を多く含み、灰褐色系。

II（第23図5～13） 口径8.2～8.5cm、脚部高3～3.7cm、底部径5.7～6.7cm。太くて短い脚部をもつ。受部は半月形を呈す。胎土はやや粗く、淡灰色。

III-a（第23図14） 口径9.7cm、脚部高3.6cm、底部径6.5cm。他類と比較すると受部がやや浅く、受部と脚部の境目がはっきりくびれる。胎土は粗く、淡茶色を呈す。

III-b（第23図15～17） 口径7.7cm、脚部高2.1～2.7cm、底部径4.5～4.7cm。小形品で受部は半球形を呈す。胎土はやや粗く、茶灰色を帯びる。

III-c（第24図1～11） 脚部高2.9～4.6cm、底部径6.5～8.5cm。形態はb類と同様だが全体的に太めである。7は内黒。微砂粒を多く含み、灰褐色を帯びる。

高台のあるもの（第25図） 破損品が大部分を占めるので、全形を知りえるものは数少ない。そのうち、比較的高台部分の残存状態が良好なものを集めて、高台部分を中心分類を試みた。いずれも底部を糸切り手法によって切り離した後、高台を貼り付ける。整形は内外面とも回転ナデによるものである。坏形土器・皿形土器に分け、さらに器形の変化によりa～dに分けた。

#### 坏形土器（第25図1～11、14～29）

a類（1～4） 口径9.9cm、底部径4.1～5.1cm。断面正三角形状の太めの低い高台が付く。受部が浅く、体部が斜上方にまっすぐに延びる。1・2の高台部には貼り付け後の痕跡がはっきり残っている。胎土中に微砂粒を多量に含む。うす茶～淡赤褐色。

b類（5～11） 口径11.1cm、底部径5.8～7.4cm。丸みを帯びた体部を呈し、低めの「ハ」の字状の高台が付く。高台外面をやや平坦にする。11は内黒で、内面に横方向のヘラミガキを施す。胎土は7が緻密の他は微砂粒が多い。色調は茶灰色～赤褐色。

c類（14・15・25～29） 口径15.2～15.4cm、底径5.0～7.5cm。他類と比較すると高台

高が大きいわりには、高台径が小さい。細長い高台が外向きに付く。体部は逆「ハ」の字状に大きく広がる。胎土はやや粗い。うす茶～淡赤褐色を帯びる。

d類（16～24） 底部径7.5～9.4cm、「ハ」の字状に開く高台を付ける。高台端部は丸い。22～24の体部はやや内湾気味に立ち上がる。24は内黒でヘラミガキの可能性もある。胎土は粗い。色調はうす茶～淡灰色。

皿形土器（第25図12・13） 12は口径9.4cm、底部径5.9cm、受部高が0.5cmと極めて浅く直線的に斜行する体部をもつ。高台部分は細長く、「ハ」の字状に付く。体部と高台部の境目は太くてずん胴である。13も12に近い形態をもつと思われる。用途として小皿などをこの上にのせた器台的なものが考えられる。12の胎土は緻密である。茶灰色を呈す。

土鍋（第13図1～7、第14図1～7・11） 今回の調査では相当量の中世の遺物が出土している。そのひとつがいわゆる土鍋と呼ばれる土師質土器である。一般に「煮る」ものとして、この時代における調理用具の主流をなしていた。残念ながら、この遺跡からは完形品の出土はみなかったが、多量の破片から相当数の土鍋が出土していることがわかる。

註<sup>11</sup> 註<sup>12</sup> また草戸千軒、下右田遺跡にみられる支脚の伴うものも存在するが、本遺跡出土のものからは確認できなかった。口径は24～45cmで、平均34cmの比較的大形品である。胎土は、石英、雲母などの砂粒を含み、焼成は良好である。ほとんどが淡褐色を呈す。整形は口縁部内面にはおおむね横方向の刷毛目調整、外面には横ナデ、胴部は煤の付着が分厚く、手法が不明のものもあるが、大部分が内外面ともに刷毛目調整を施す。刷毛目の歯幅は土鍋の大きさにより異なり、その方向も定まっていない。口縁部はいずれも斜上方に立ち上がり、「く」の字状に屈曲し、内面のくびれ部にくっきりとした稜線をもつ。胴部は内湾気味に立ち上がるものと（第13図、第14図1～4）、やや垂直気味に立ち上がるものとがある。（第14図5～7）。口縁端部はやや肥厚し、横ナデによりやや平坦になる。また口縁部の蓋受部には凹むものがある。（第13図3～5・7、14-2）

壺形土器（第14図8～10） 8、9ともに体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部で短く外反する。調整は内外面とも横ナデを施し、外部には煤が付着し、黒灰色を帯びる。胎土は微砂粒をわずかに含み、断面は淡乳灰色を呈す。器肉は1cmと厚い。10は8、9に比べるとやや小形化する。胎土は少量の雲母や石英が混じる。

甕形土器（第14図12） 口縁部は「く」の字状にゆるやかに屈曲する。調整は内外面とも横ナデを施すが、頸部外面には凹線状のものが2条みられる。口縁部には煤が付着する。

## 6 瓦器（第14図13）

塊形を呈す。体部は斜上方にやや内湾気味に立ち上がり、端部は丸く仕上げる。器厚は0.3cmと薄く、内面は横方向にヘラミガキを加える。この暗文は0.1～0.5cmの幅をもつ。口縁部外面にはヨコナデ、体部外面には指頭圧痕がはっきりと残る。胎土は微砂粒をわずかに含むものの精良な粘土を使用している。焼成は良好でやや銀色がかった黒灰色を呈し、ミガキ部分は光沢を放つ。断面は灰白色である。大阪府南部に出土するいわゆる和泉型のもので、畿内からの搬入品と考えられる。11～13世紀にかけて畿内で日用雑器として生産された瓦器塊は西日本を中心にかなり広範囲での流通がみられる。また、最近では北九州地方で畿内産のものとは異なるタイプのものも確認され、より詳細な研究が進められている。<sup>註13</sup> 中国地方でも、百間川遺跡、草戸千軒など各地で出土をみるとようになったが、島根県下では中世の遺跡の発掘調査が少ないせいもあり、本遺跡出土資料が初例となった。<sup>註14</sup>

## 7 輸入陶磁器（第26図・第27図）

すべてが破損品で、全形を知りえるものはない。第26図1～18、第29図1～5は白磁碗、20は白磁小形碗、第28図19、第29図7は白磁皿、第28図21、第29図6は青磁碗である。これらを口縁部片と底部片に分け、それぞれの特徴ごとに分類した。

**白磁碗（第26図）** 1～12をA類、13をB類、14、15をC類、16、17をD類、18をE類とした。

**A類** 幅1.3cm、厚さ0.6～0.8cmとかなり分厚い玉縁をもつ。器肉は比較的厚く、体部から口縁部にかけて斜上方に延びる。釉色は2が黄褐色を呈すほかは灰白色もしくは、とび色帶びた灰色を呈す。胎土は灰白色で黒い微砂粒を含む。

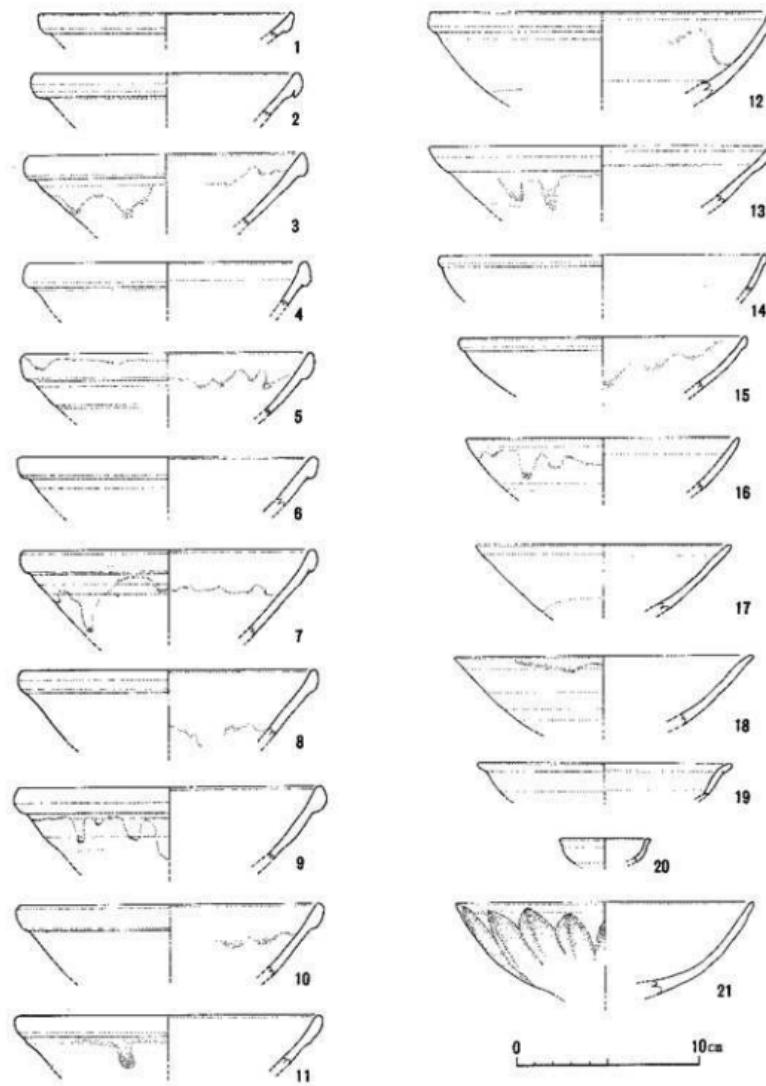
**B類** 玉縁が幅広で薄い。体部は逆「ハ」の字状にはぼまっすぐにのびる。内側には口縁部近くに細い弦線を入れる。淡い緑灰色の釉がかかり、胎土は灰白色を帯びる。

**C類** 幅0.6cm、厚さ0.4cmの小さな玉縁をもつ。体部の器肉は薄い。黄味がかった灰白色の釉が施される。胎土は比較的精良で黒い微砂粒をわずかに含む。両者ともに細かな貫入が認められる。

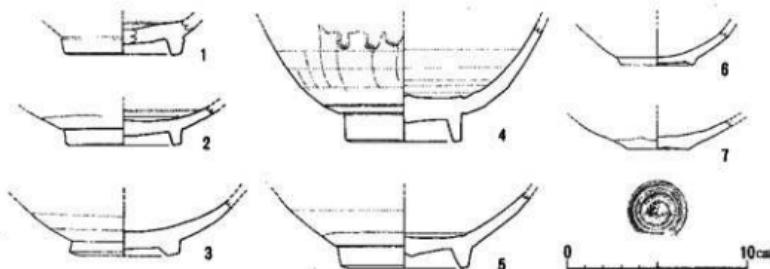
**D類** 器形はA類に似るが、口縁端部を丸く仕上げる。釉は16が灰白色で17はそれにとび色かかる。体部外面下半部には施釉されない。胎土は黒い微砂粒を含む。貫入はなし。

**E類** 口縁部がゆるやかに外反し、乳白色の釉が垂れ下がる。黄味がかったオリーブ色の釉がかかり、内面の釉には光沢がない。胎土は灰白色を帯び、黒い微砂粒をわずかに含む。

**白磁皿（第26図19）** 口縁部が「く」の字状に外反し、内面の屈曲部分に約0.2cmの沈



第26図 輸入陶磁器実測図(1)



第27図　輸入陶磁器実測図(2)

線を入れる。底部近くにはわずかながら櫛目文が残る。釉色はオリーブがかかった灰色で胎土は暗灰色を呈す。

**白磁小形碗 (第26図20)** 口径約5cmの小形品。口端部が軽く屈曲する。淡白色の釉がかかり、貫入もみられる。胎土はやや粗い。

**白磁碗 (第27図)** 1、2、5をa類、3をb類、4をc類とする。

a類 いずれも内面見込みを輪状にかきとる。高台の外面は垂直に、内面は斜めに削り出す。2の底部内面近くには一条の沈線を施す。釉色は灰白色で、体部外下面下部には施されない。胎土は細かく、黒い微砂粒を多く含む。

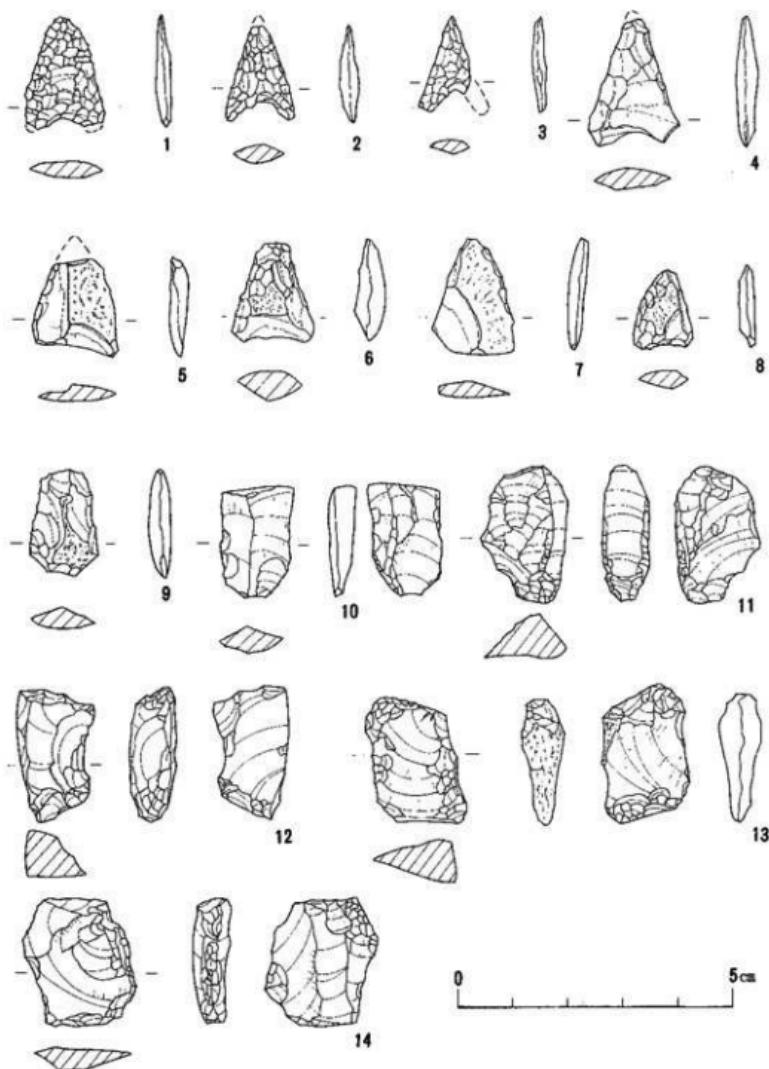
b類 高台は低く、やや幅広で削り出しも浅い。黄白色の釉が高台までかけられる。胎土はやや粗い。両者ともに貫入がある。

c類 細高で、直立した高台をもつ。器底は肉厚である。内面見込みに段をもつ。灰緑色の釉が高台部を除いて薄くかけられ、体部外面上には櫛目文が描かれる。胎土は白灰色で、黒い微砂粒を含む。

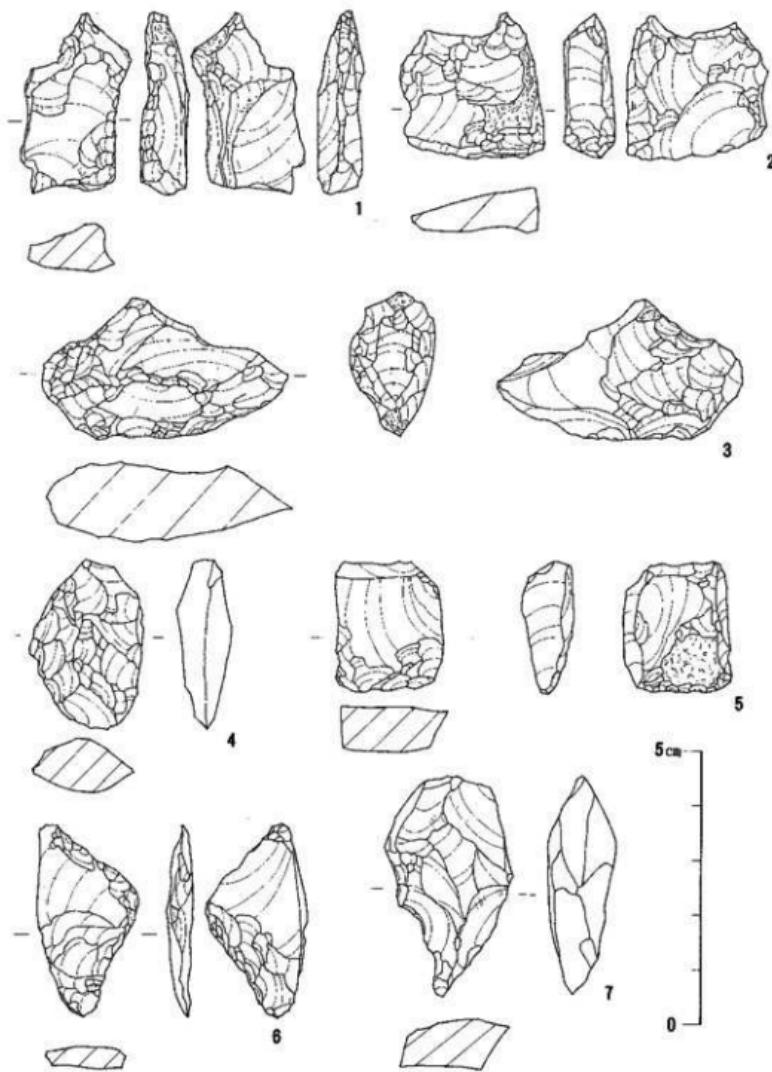
**白磁皿 (第27図7)** 底部をやや上げ底気味に削り取る。黄白色を呈した不透明な釉がかかる。底部付近に施釉されない。胎土はやや粗い。

**龍泉窯系青磁碗 (第26図21)** 体部外面上には蓮弁文を描く。この蓮弁文には時代とともに退化したと思われる稜の滑らかな鍋がある。釉は黄緑色。胎土は細かく、灰白色を呈す。

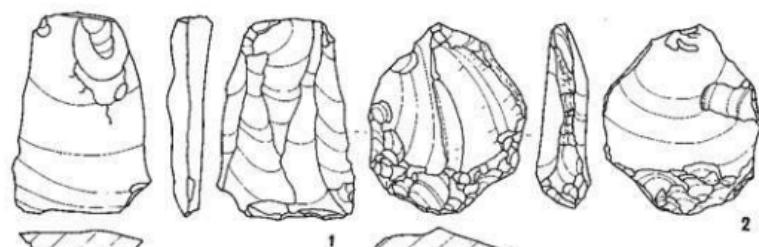
**越州窯系青磁碗 (第27図6)** 底部には細くて低い高台が付く。全面にオリーブ色の釉を施す。胎土は精選されている。内外面に細かな貫入がある。



第28図 石器実測図(1)



第29図 石器実測図(2)



1

2

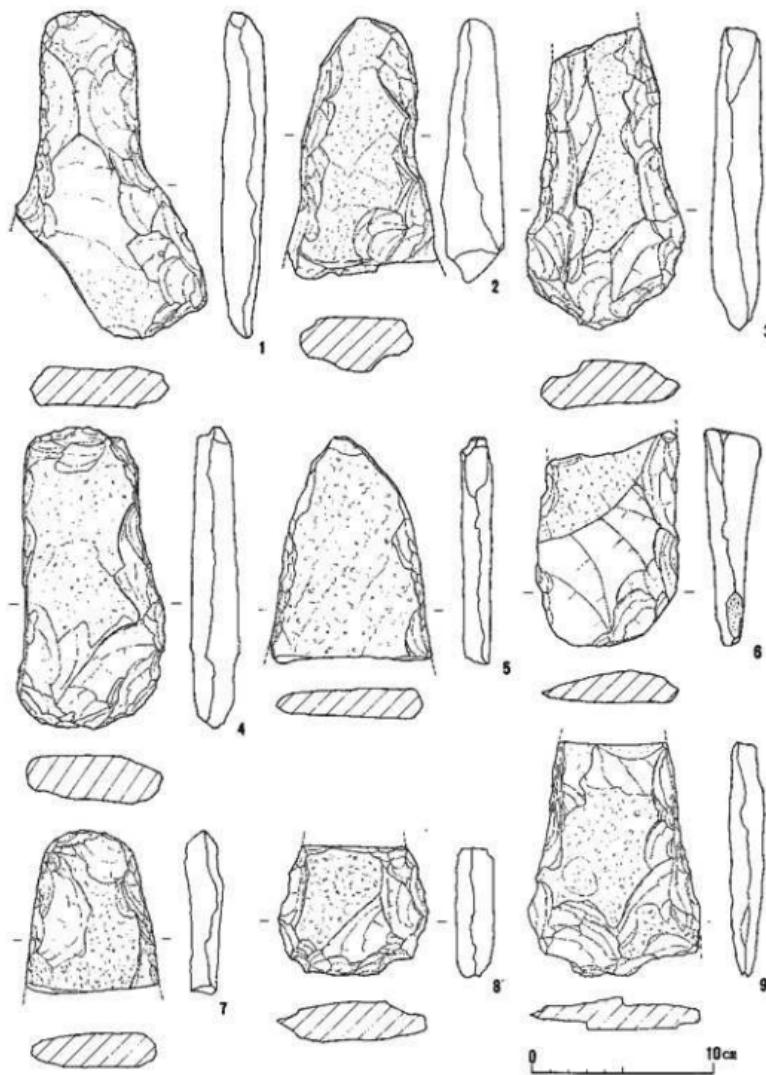
3

4

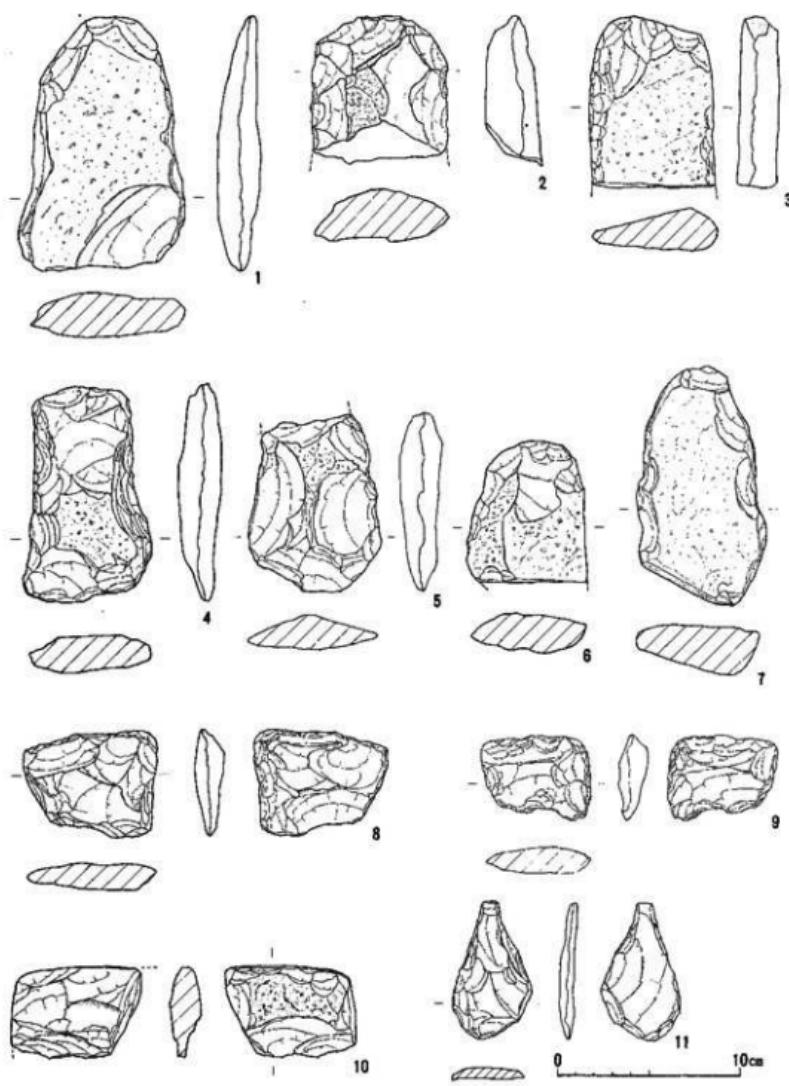
5 cm

0

第30図 石器実測図(3)



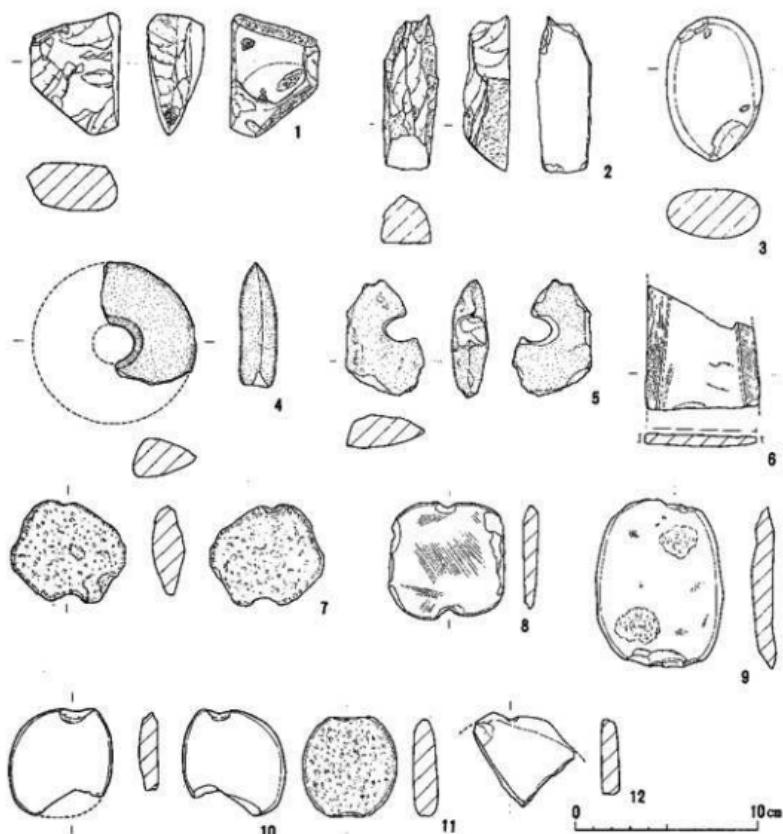
第31図 石器実測図(4)



第32図 石器実測図(5)



第33図 石器実測図(6)



第34図 石器実測図(7)

### 8 石器（第28図～第37図）

石鎌（第28図1～9） 1～3は黒曜石製。二等辺三角形を呈し、基部は凹む。いずれも比較的丁寧な二次加工を施す。1は完形品。4～9は硬質砂岩製。4～6、8、9はわたりが浅く、7は平基式である。全体的に剥離調整が粗く、7の中央面には主要剥離面を大きく残す。8は1.5 cmと出土した石鎌の中で最も小さい。9は未製品。

剥片石器（第28図10、12～14、第29図1） 黒曜石製で、小形の縦長剥片。第29図1は縦軸の片縁のみに、12～14には両側縁部に細かい二次加工を加える。

楔形石器（第28図11） 黒曜石。両面に剥離調整を施した後、裁断する。

石核（第29図2、3） 両者ともに黒曜石製。不規則な剥離面が残る。3は横軸の両側縁部に潰した痕跡がある。

未製品（第29図4～7） 材質は黒曜石。いずれも目的不明の未製品で、主要剥離面および自然面を残す。5は縁辺部に二次調整を施す。6は石鎚の未製品とも考えられる。

石刃に近い剥片（第30図1） めのう製。縦長剥片の先端部に細かい調整を加える。

スクレイバー(1)（第30図2～4） 2、4は黒曜石製。2は不整多角形を呈す。表面の周縁部の一部と裏面の先端部にやや細かな剥離調整を施し、刃部をつくる。3は玉髓製の横長剥片を使用。厚みもあり、全体的に粗い剥離面が多く、刃部の細部調整は不完全なので未製品と思われる。4は不定形で、片面の縁辺部に二次加工痕が残る。

スクレイバー(2)（第32図8～11） 8、9は黒色頁岩、10は細粒砂岩で横長剥片を使用する。いずれも円形品。8、9は背から短軸の一辺にかけて潰す。刃部に半円形の抉りを入れる。10は両面とも刃部中心に大きめの剥離調整を加える。

打製石斧(1)（第31図1～9） 材質は、2、4、5が流紋岩、3、7は細粒砂岩、6、8は硬質砂岩である。復元すると15cm前後の大形品になるが、厚さはやや薄い。主要剥離面および自然面を大きく残し、側縁部から刃部にかけても粗い加工が目立つ。1は大形打製石斧の中でも最大級で、刃部を欠失しているものの現存長17.9cm、厚さ2.2cm、刃部最大幅10.1cm、頭部最大幅5.2cmを測る。形状は幅広の刃部をもつバチ形で、刃部幅は頭部幅の約2倍にあたる。両側縁部には比較的細かな剥離調整がみられる。摩滅して光沢をもっているところから、着柄痕かとも思われる。2、5、9も1と同様、バチ形を呈す。2は周縁部から中心部に向けて粗い剥離を行う。3は刃部が頭部に比べて大きいことからバチ形とした。5は扁平な石材を使用し、側縁部に大まかな剥離を加える。9の側縁部は外方向にきれいに広がる。7、8は一部欠失するが、バチ形に近いものになると思われる。4、6は直線的な側縁部と幅広い刃部をもつ。

打製石斧(2)（第32図1～7） いずれも粗い剥離痕を残す。そのうち1、6、7は風化が著しく、稜線が不明瞭。1は比較的大形の完形品でバチ形を呈す。手頃な自然石を使い、側縁部と刃部に大まかな剥離を施す。2は表裏ともに粗い剥離面が目立つ。4は細粒砂岩製の短冊形。5は菱形に近い断面をもつ。7は側面に自然面を残す未製品である。

石匙形打製石器（第32図11） 扁平な縦長剥片。縁辺部に細かな二次調整を加える。

石包丁（第33図1～3、6） 1は千枚岩製で、未製品かと思われる。片面には多方向からの粗い剥離を施し、もう一面には主要剥離面を残す。2、6は破片。石材は流紋岩と

凝灰岩を使用。いずれも両面から刃を研ぎだし、直線的な刃部を形成する。2は両面に横方向、もしくは斜行状の擦痕が残る。刃部には刃こぼれも見られる。3は緑色凝灰岩の板材を使用。風化のため摩耗が著しい。一部欠失するが、長楕円形を呈す。両面ともに研磨を施すが、背部と刃部にはやや粗い剥離面が残る。製作途中に折半した未製品と思われる。

石鎌（第33図4） 硬質砂岩製。刃部は直線的で、片面から研ぎ出す。

石剣（第33図5） 結晶片岩製で、現存長1cmの小片。表面は丸みを帯び、丁寧な研磨が施される。裏面は剥脱している。

磨製石斧（第33図7～12、第34図1） 破損品が多い。7、9、12は刃部の形状から蛤石石斧と考えられる。いずれも断面は太い楕円形を呈す。7は小形品。基部には打裂調整を加える。両側面には着装痕と思われる浅い抉りが2箇所残る。刃部付近には光沢が、刃縁部には剥落痕が認められる。9は珪質砂岩製。平面からみると丸刃を形成する。両面から丁寧に研磨を加え、刃を研ぎ出す。刃部に細かい擦痕と使用痕と思われる小さな剥落痕が観察される。12は頭部と刃部に大きな剥離痕を残す未製品。所々に敲打痕を残しながら研磨を施す。8の基部は敲打調整によりやや平坦になる。11は粗粒砂岩製。側面からみると蛤刃だが、平面からみると偏刃になる。刃縁部には数条の深い裂傷が斜めに入る。

柱状片刃石斧（第34図2） 材質は、細粒砂岩。刃部と片面に丁寧な研磨を施す。背の頂上部分には両側から粗雑な剥離を加える。また、使用後に再加工した痕跡もある。

蔽石（第34図3） 楕円形を呈す。重量は100gを測る。自然縫の両端に使用痕が残る。

環状石斧（第34図4） 材質はホルンフェルス。復元最大径9cm、復元孔径2.2cm。復元するときれいなドーナツ型になる。両面から丁寧に研ぎだし、周縁部に鋭い刃を付ける。<sup>註16</sup> 孔の内面は丁寧に磨かれ、断面はなだらかなカーブを描く。島根県では、タテチョウ遺跡、<sup>註17</sup> 佐太前遺跡、<sup>註18</sup> 川向遺跡、<sup>註19</sup> 順庵原遺跡、<sup>註20</sup> 西川津遺跡で出土例を見る。

用途不明品（第34図4） 風化が著しく、片面の凹凸が激しい。反対面には研磨を施したと思われる痕跡がある。形状は半円形を成し、中央部に半月形の抉入がある。

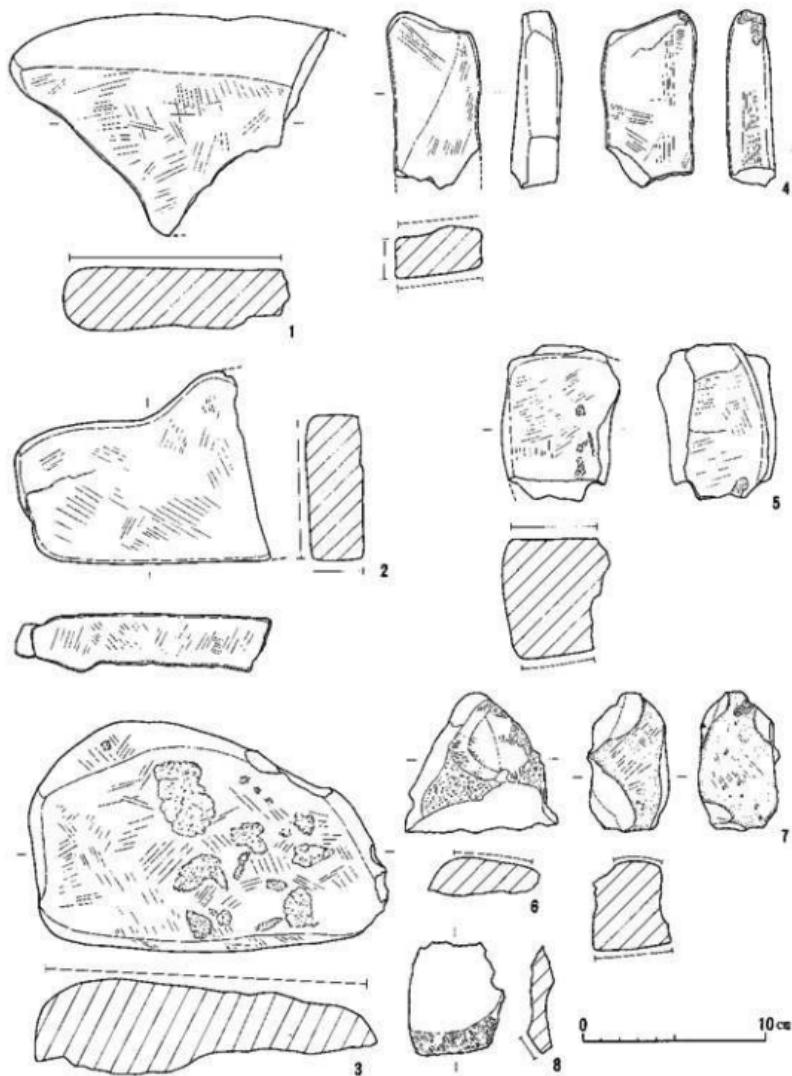
石硯（第34図6） 破損品。粘板岩製で残存長7cmを測る。縦軸の両端近くに、段状のアクセントを付ける。平坦面は滑らかで、光沢をもつ。

石鎌（第34図7～12） 全て手頃な自然縫の両面を打ち欠いただけの簡素なものである。

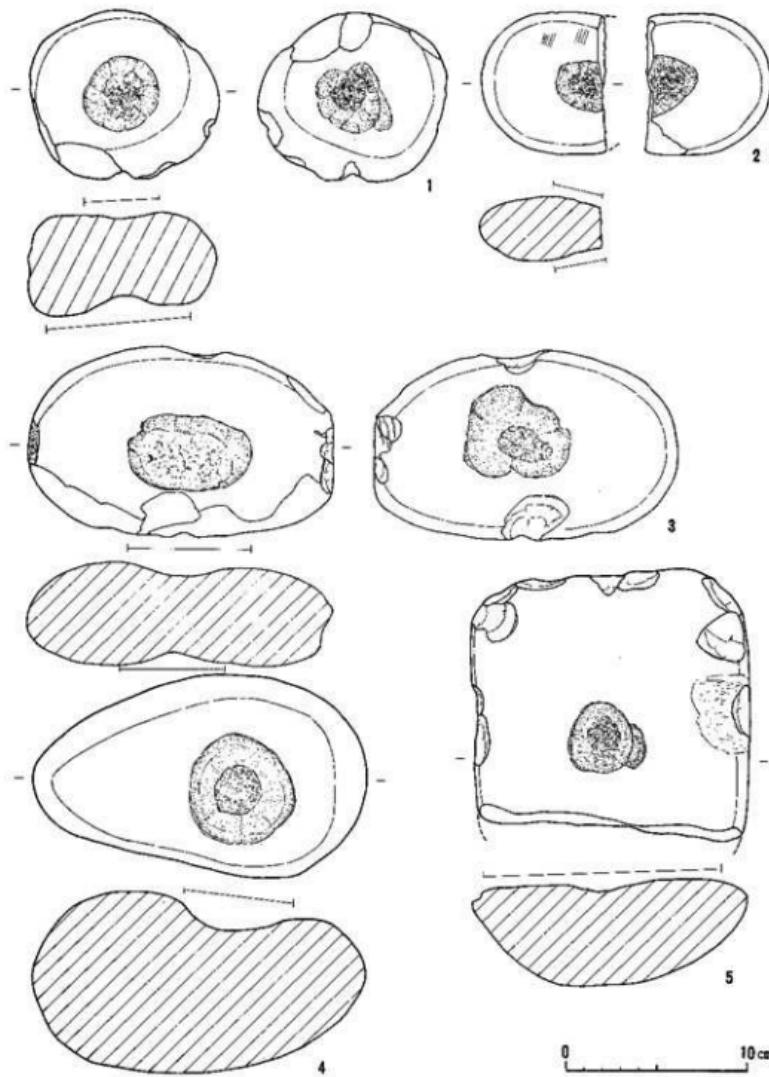
砥石（第35図、第36図1～5） 磨石（第36図6～8） 第35図2～4、6は有溝砥石である。2は全面を砥面として使用。不定方向に擦痕が入り、摩耗が著しい。平面に1条、側面に4条の施溝がある。この溝は細長く、断面は深いV字状をなす。3には長さ9cmで、先細の深い溝を長軸方向に施す。溝の周辺も平滑である。また長軸の一辺を片面から3箇



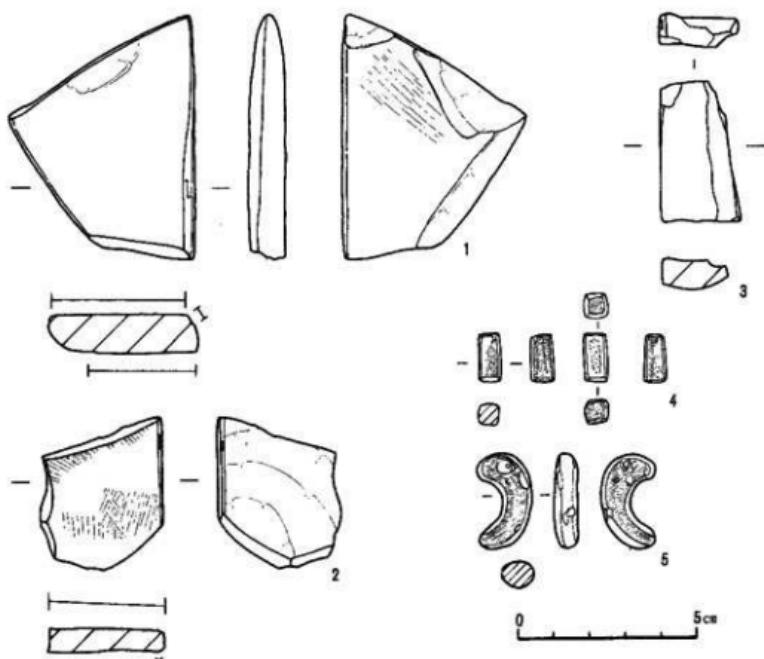
第35図 石器実測図(8)



第36図 石器実測図(9)



第37図 石器実測図(10)



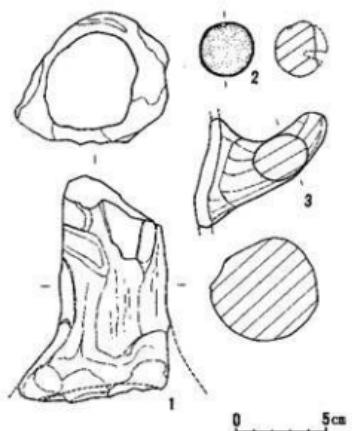
第38図 玉製品実測図

所打ち欠く。4は風化が著しくもうろい。表裏ともに最大幅0.7cm、深さ約0.2cmの溝が短軸方向に残る。溝の断面形は半円形。6は三面を砥面とし、いずれも使用面が激しく磨り減っている。また、所々に金属器によると思われる深い擦痕も残る。側面には深さ約0.4cmの施溝があり、半円形の断面を呈す。第35図1、7は使用頻度が高いせいか中央部が凹む。第36図1～3は自然石の平坦面を利用したもので、台石的用途が考えられる。

**石皿（第37図）** いずれも中央部に凹みが残る。1、3は両面を2、4、5は片面のみを使用している。とくに1、4は深い凹みをもち、内部もかなり磨滅している。3、5は側辺部を意識的に打ち欠く。3は石錘として転用されたとも考えられる。

### 9 玉製品（第38図）

4点ともに緑色凝灰岩製。1～3は板状擦切未製品で、厚さ0.7～1cmの不定直方体を成す。いずれも一辺および二辺に浅く施溝し、局部的に研磨を加える。さらに分割を繰り返し、形を整えながら方柱状の未製品をつくる。4は未穿孔の四角柱を呈す。6面すべて



第39図 土製品実測図

に丁寧な研磨が施される。完成品にするには角を研磨し、円柱にしたあと穿孔を行い、仕上げる。

5は玉飾製の勾玉。半透明で黄褐色を呈す。中央の平坦面には斜行状の研磨痕が残る。頭部には直径0.4cmの紐孔を片面より穿つ。

#### 10 土製品（第39図）

土製支脚（第39図1）頭部と脚部の一部を欠失している。現存高12.3cm、胴部径7.3×8.4cmを測る。基部はゆるやかな末広がりをみせ、底部は上底になっている。摩滅が著しいが、表面にわずかに指頂圧痕と指ナデが残る。胎土中には砂粒が多く混入する。

土玉（第39図2）球状を呈す。直径約0.5cmの貫通していない孔が2箇所ある。うす茶を帯び、胎土は砂粒を含み、やや粗い。

把手（第39図3）瓶あるいは壺の把手部分である。角状を呈し、全面に指ナデを施す。全長6cm、径3.1×2.9cmである。

#### 11 古銭（第40図）

C区の黒褐色粘質土層より出土。残存状態は良好で、3枚とも中国から輸入された渡来銭である。

1は唐朝時代（621年）に初鋤された開元通寶、

2は宋時代（1068年）に初鋤された熙寧元宝。3

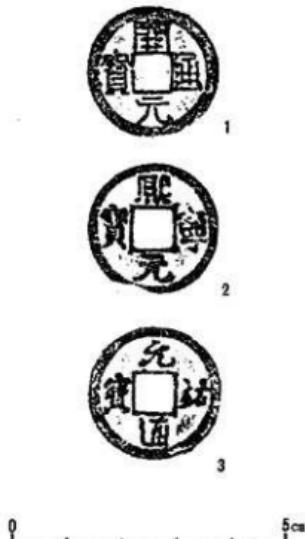
は宋時代（1086年）に初鋤された元祐通寶である。

いずれも直径2.5cmを測る。

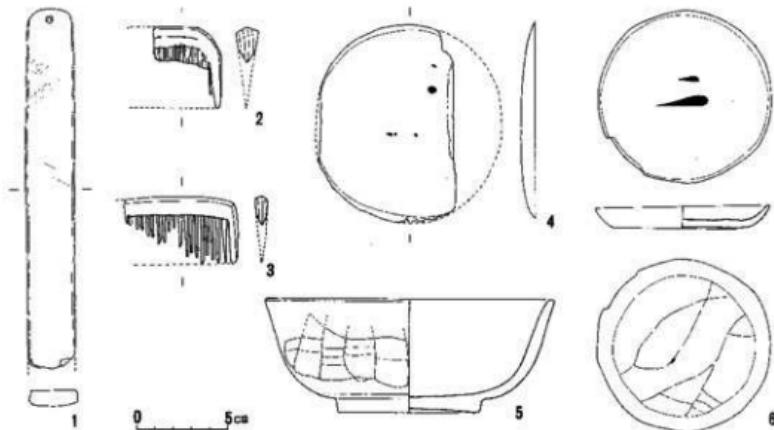
#### 12 木製品（第41図）

板状木製品（第41図1）短冊形を呈し、19.8×2.7cmを測る。頭部中央に0.4×0.4cmの小孔を穿つ。表面に斜行状の細かい刻線が残る。摩耗が著しく、削り痕、木取りは不明。

櫛（第41図2・3）それぞれB区、C区の黒



第40図 古銭拓影



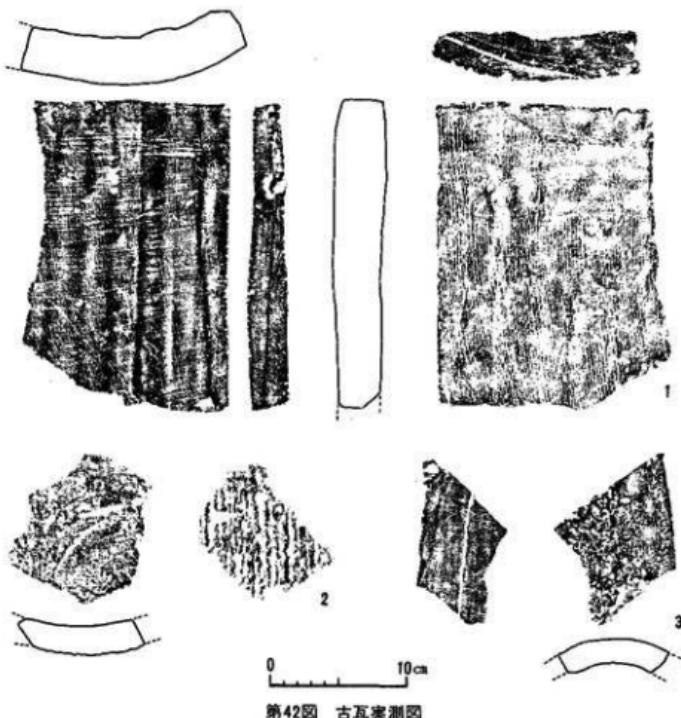
第41図 木製品実測図

褐色粘質土層から出土する。欠損品だが残存状態は比較的良好。2は高さ4.5cm、幅3.7cm、厚さ1.2cm、歯長3.4cmである。頂部は山形で歯は長く、両面からひきだしている。表面は平滑に研いであり、肩は面取りが施してある。3は高さ3.7cm、幅6.2cm、厚さ0.7cm、歯長2.7cmを測る。形状は1に似るが肩がやや角張り、頂部もなだらかな山形である。

**蓋形木製品(第41図4)** 円形の板材で、径10.8×10.8cm、厚さ0.8cmである。柾目材を使用。周縁部を斜めに削り落とす。表面はわずかに斑点状に黒漆が付着する。裏面中央部には、直径0.2cm、深さ0.3cmの貫通していない孔がある。

**黒漆塗椀(第41図5)** 破損品で全体の2分の1が残る。口径15.8cm、器高6.3cm、厚さ0.6cm、高台径7.9cmである。ロクロ成形で木地に漆を塗布する。底部より内溝気味に立ち上がり、体部中程ではやや外方向に開く。底部には低い高台が付く。底部外面には幅1.8cmの削り痕を残す。

**黒漆塗杯(第41図6)** 口径9.4cm、器高1.3cm、底部径7.5cmを測る小形の完形品である。ロクロ成形で立ち上がりは短く、外方向に開く。全体に黒漆を塗布した後、底部内面に朱漆で「二」という漢字数字を記す。数枚一組のセットになっているとも考えられる。底部外面には平刃による加工痕がはっきりと残り、漆塗がわずかに残る。



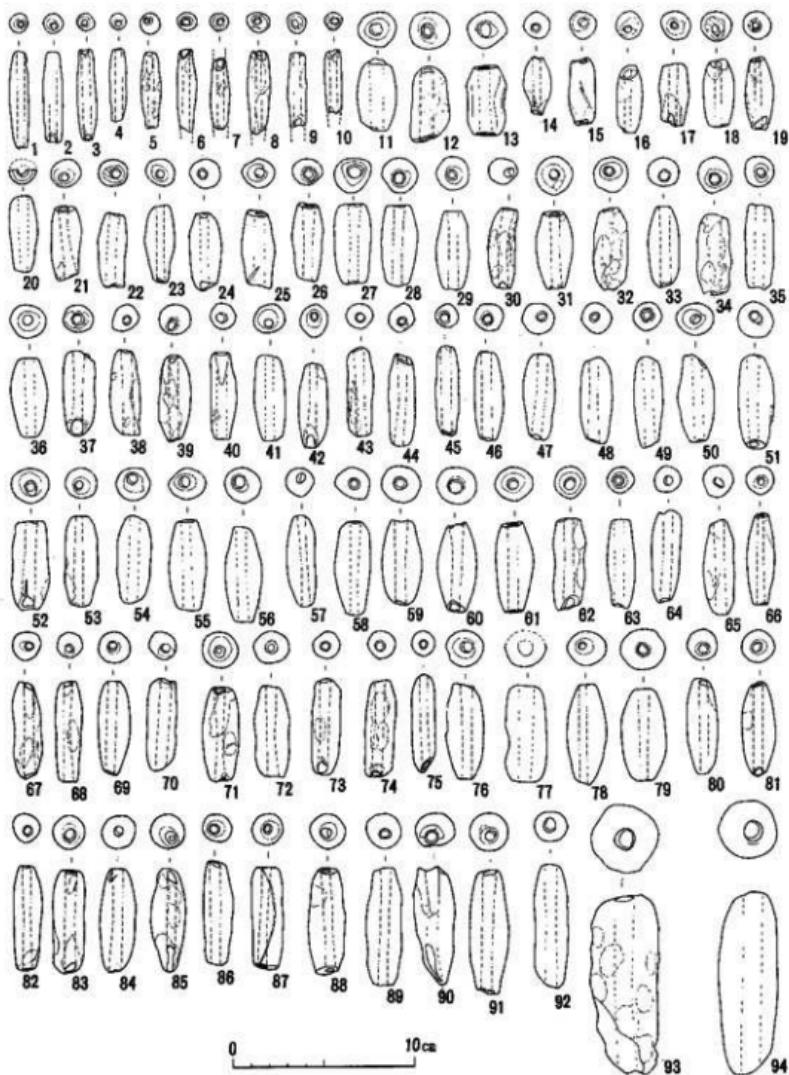
第42図 古瓦実測図

### 13 古瓦・製塩土器（第42・43図）

第42図1、2、3は古瓦片である。1は平瓦片で、凹面には糸切痕と布目痕、また、幅約2cmの狭い横骨痕が明瞭に残り未調整である。凸面は側縁に平行な細かな繩目叩き痕が全面に残り、端部に近い部分は粗いへラ削り調整と、まばらな指頭圧痕がみられる。側面と端面はへラ削りが施されている。青灰色で須恵質である。2も平瓦片であるが、1に比較して薄く、凸面の繩目叩き痕は粗い。3は丸瓦片である。凸面は風化のため調整等は不明である。凹面は細かな布目痕が残り未調整である。第43図は、製塩土器の洞部片である。径は約7cmに復元される。淡い黄褐色を呈し、二次焼成を受けている。当地方における小屋谷式製塩土器（内田律雄「出雲の製塩遺跡」『ふいへるど・のへと』7号、昭和60年）の破片である。古瓦と製塩土器はともに来美廃寺に関係した遺物であると考えられる。



第43図 製塩土器実測図



第44図 土錐実測図

## 14 土錘（第44図）

出土総数106点で、各調査区からの出土点数の内訳はA区2点、B区西2点、B区東2点、C区東8点、C区西31点、D区34点、E区2点、F区47点である。残存状態は比較的良好である。成形は全て手捏ねによるものだが、つくりは雑で、指の痕がはっきり残っているものもある（5、12、30、32、67、74、85、93）。色調は灰色、あるいは暗灰色がほとんどだが、まれに22のように赤褐色のものもみられる。またその他に、素焼きの地肌に黒斑が付着しているもの（45、94）、炭化して全面が黒々としているもの（53、54、89、92）もある。いずれも胎土中には微砂粒が多く含まれている。形状は基本的には管状を呈すが、次のように細分することができる。①1～10は細身の筒形。孔径が他の土錘に比べると極めて小さく、重量も軽い。②11～13は長さが短かいのに比べ胴部径が大きく、円筒形に近い。③4～94はそれぞれ中央部の張りに多少差はあるがほとんど紡錘形を呈す。次に、長さ、重量の指数をみると、重量ではかなりばらつきがみられるが、長さは3～5cmまでに集中していることが分かる。なかでも長さ4cm、重量8～10gと長さ5cm、重量11～18gというタイプがいちばん多い。また、93、94はずばぬけて大きく、重量が100gを越す大形品である。

## 15 動物遺体（写真図版1）

今回出土した動物遺体は下記のとおりである。

1 フ グ	7 ウ マ (切歯)
2 シ カ (歯)	8 ウ シ (下顎臼歯M3)
3 ウ シ (切歯)	9 キツネ
4 フ グ	10 不 明
5 フ グ	11 シ カ (左脚大腿骨)
6 ウ マ (上顎臼歯)	

### 出土地点及び土層

A区黒褐色粘質土	7・11
B区黒褐色粘質土	2
C区黒褐色粘質土	3
D区地山面	8
E区黒褐色粘質土	1・4・5・6・9・10

## 註

- 1 山本清「山陰の須恵器」『山陰古墳文化の研究』 昭和46年
- 2 陶邑編年の1-1、あるいは1-2に相当すると中村浩氏から御教示いただいた。
- 3 風化が著しく、不明確だが、わずかばかりの刷毛目と、剥落はしているものの施釉が認められる。また、胎上も緻密で灰白色を帯びることから、灰釉陶器とも考えられる。
- 4 近藤正『隱岐國分尼寺発掘調査報告書』隱岐島後教育委員会 昭和46年
- 5 八雲立つ風土記の丘資料館にて実見
- 6 『朝鈞川河川改修工事に伴うタチチヨウ遺跡発掘調査報告書』鳥根県教育委員会 昭和54年
- 7 近藤正「鳥根県下の経簡について」『山陰古代文化の研究』近藤正遺稿集刊行会 昭和53年。『日本出土の中国陶磁』東京国立博物館 昭和53年
- 8 7に同じ
- 9 山本清「松江・的場古窯跡群」『島根県埋蔵文化財調査報告書』第III集 鳥根県教育委員会 昭和46年
- 10 「魚住古窯跡群」兵庫県教育委員会 昭和58年。大村敬通氏、森山稔氏に実見してもらい、御教示いただいた。
- 11 「草戸千軒町遺跡第30次発掘調査概報」広島県草戸千軒町遺跡調査研究所 昭和56年
- 12 「下右田遺跡」(第4次調査概報)山口県埋蔵文化財調査報告 第53集 昭和55年
- 13 橋本久和「中世土器の地域と流通」『考古学研究』第26巻第4号 昭和55年  
橋本久和氏に実見してもらい、御教示いただいた。
- 14 「北九州・瀬戸内の瓦器」『古文化談叢』14 九州古文化研究会 昭和59年
- 15 中国陶磁器全般にわたって村上勇氏に適切な助言を承った。
- 16 6に同じ
- 17 内田律雄氏の教示による。
- 18 川原和人氏の教示による。
- 19 「瑞穂町の石器」『瑞穂町誌』第3集 瑞穂町教育委員会 昭和51年
- 20 昭和60年度発掘調査で出土。

## VI ま　と　め

石台遺跡では、以前に恩田清氏の発見された炉跡状遺構、57年度の試掘調査による集石状遺構が検出されている。今回の調査では黒褐色粘質土層中に多量の遺物とともに散在する礫群が確認されたが、その性格は明らかではない。また同土層中にはほぼY字形に並ぶ時期不明の杭列状のものもみられたが、礫群との関連性を見いだすには至らなかった。

出土遺物をみると、今回は中世を中心とした遺物が多く、從来から注目を浴びている繩文～弥生の遺物は全出土量の10%程度にすぎなかった。

一方、中世の遺物では土師質土器が出土量の大半を占め、いわゆる「かわらけ」と呼ばれる小皿類を多くみることができた。それ以外にも壺、塊類、土鍋などとともに中国製陶磁器、国産陶器、瓦器などが出土している。鳥根県下では同様なセットで出土した例はほとんどみられないが、中国地方の例では、石台遺跡と類似した遺物構成で、平安末期～鎌倉初期の遺物が多く出土している岡山県百間川遺跡<sup>註1</sup>、三藏畠遺跡<sup>註2</sup>、沖の店遺跡<sup>註3</sup>、山口県秋根遺跡<sup>註4</sup>、広島県草戸千軒町遺跡、鳥取県広瀬寺遺跡<sup>註5</sup>などがある。このことから、石台遺跡のこの地区は12～13世紀の遺跡であると思われる。

ところで、遺跡の性格を考えてみると中世前半の輸入陶磁器が多く出土していることからこの馬橋川周辺にはそれらを使用できる身分の人が住んでいたと推定できる。鳥根県においてこれらの出土例が国庁<sup>註6</sup>、四工寺<sup>註7</sup>、国分寺<sup>註8</sup>、國分尼寺<sup>註9</sup>など官衙、寺院に多いこと、あるいは從来から言われているようにこの時期の輸入陶磁器が上層階級の人々だけに使用されていたとすれば、到底、一般庶民の居館とは考えられないであろう。<sup>註10</sup>

この地に関しては文献においても垣間見ることができる。出雲大社千家文書「山雲国杵築大社御三月会相撲舞頭役結審事」のなかに文永八年（1271年）11月、津田郷（石台遺跡が所在する現在の東西両津田町も含まれている。）の地頭秋鹿二郎入道女子という名がみられ、その女子の津田郷における地名田地は廿六丁八反小であることが記され、かなり広範囲であったことがわかる。また現在、地名に「沼、深田、溜池」などが残り、現存する津田町周辺の多くの溜池も古くから存在していると思われ、13世紀においてこの地区では稻作を中心とした農業がかなり発達しており、秋鹿二郎入道は比較的裕福な土豪であったと考えられる。さらには「土居敷、堀之内、垣之内」などという中世土豪の居館を連想するような地名が残ることなどを考え合わせると、秋鹿次郎二郎入道、あるいはこれに匹敵するような経済力豊かな在地領主の館がこの馬橋川北岸の丘陵裾部あたりにあったのでは

ないかと想定できる。

山代二子塚古墳をはじめとして多くの首長墓的な大形古墳が大橋川水系に築造されてい  
る<sup>註13</sup>ことからも分かるように、大橋川の支流である馬橋川は、古代から宍道湖、中海をつなぐ水運の要衝の一端を補っていたと思われる。中世においても、魚、米などの収穫物の他に東播系の鹽、畿内産の瓦器椀、輸入陶磁器など他地方から搬入品などを運ぶ水路としても盛んに活用され、「舟津田」という地名が示すように河港としての役割を果たしていた所があり、上記したような在地領主はこれになんらかの関わりがあったとも考えられる。

遺跡の年代的位置付けは出土遺物の殆どが中世のものなので以下に述べるようにそれらに基づき設定した。個々の割合を出すと次のような結果になった。土師質土器（皿、坏、塊）96%、土鍋1%、国産陶器1%、輸入陶磁器2%。これらをみても土師質土器の占める割合がずば抜けて大きいことがわかる。

本遺跡出土の上師質土器は煮沸具として土鍋、供膳具としての皿、坏、塊にわけることができる。そのうち、皿、坏は無台のもの、台付きのものの2形態に分けられる。

土鍋類は細片ばかりなので全形を窺えるものはなかった。前章で形態の特徴を列举したが、いずれも大きな差異は認められず、その違いが用途によるものか時代によるものかは判別できなかった。前章に付加してさらに以下のように3タイプに細分してみた。

#### A類（第13図1・2・4・6・7 第14図1・3・11）

口縁部は「く」の字状に屈曲し、体部は丸身を帯びる。口端部はヨコナデにより平らにするが、とくに14-3、11はシャープな平坦面をもつ。整形には刷毛目調整が施しており、外面には縦および横方向にやや斜行状に、内面には上に横方向に刷毛目を入れる。蓋受部は平坦、またはやや膨らみ気味。

#### B類（第13図3・5・第14図2・4）

口縁部、体部、口端部とともにA類と同様だが蓋受部がややくぼむ。刷毛目調整は縦の付着が分厚いため詳細は不明だが第13図5のように縦方向に施すものもある。内面は横方向に入る。

#### C類（第14図5～7）

口縁部は「く」の字状だが、体部はやや垂直気味に立つ。外面は縦方向に、内面は横方向に刷毛目調整を施す。蓋受部はやや膨らむ。

皿、坏、塊のうち小皿は一般に「かわらけ」あるいは「灯明皿」と呼ばれているものである。しかし、実際には灯明皿として使用されていた痕跡、すなわち二次焼成を受けた形跡が認められるものは小皿の総数のうち21%に過ぎない。また台付きのなかにも第23図5、

第24図7のように煤の付着したものもある。以上のことから多くは日常の食器具として使用され、その一部が灯明皿または灯台のようなものに転用されていたと考えられる。

また第19図1など便宜上、坏形土器にしてはいるものの皿形の要素も持ち合わせており、これらを除いても10cm以上の中皿、大皿に相当する土師質土器がないということも特筆しておくる。

その他、特異な例として内黒でヘラ磨きが施されているもの(第19図5、第25図11、14)と内外面にヘラ磨きが施されてはいるものの炭素を吸収せず黒色になつてないもの(第20図10)もある。

これら土師質土器の年代的位置付けするのは層位的にも不明瞭であるし、器種も多種多様にわたっているので容易ではない。また、地域差も著しく比較検討するのは極めて難しい。ただ比較的遺物構成も似ている山口県秋根遺跡の編年的型式分類にあてはめてみると、IV 2～V 1に相当すると思われる皿、坏、塊がみられ、時期が平安末期～鎌倉期にわたると推定できる。今後、良好な資料の増加を待って改めて検討したい。

次に器形の判明するもので、皿、坏、塊のうち無台のものに関して別図のとおり統計処理を行った。個数が限られており、明確な数字はでていないが、全体の概略だけは次のように把握できた。口径別個体数表においては10cm未満の皿形土器は、とくに7～8cmの小皿に集中しており、全体の占有率は21%と30%、合計51%となり半数を占めている。一方、坏、塊の部類では14～15cmにややまとまっており、それぞれ全体の12%、11%、合計23%という結果がでた。器高・口径の指数表からみると小皿類では器高1.5～2.5cm、口径7～9cmのものが最も多いが、坏、塊類にはまとまりがなく、ばらつく。この統計表の結果、この時代において口径がほぼ統一され、規格化されてきたと考えられる。一方土師質の坏、塊などやや大形品の占有率が低いのは、供膳具としての機能を充分に果たしえる製品が他にあり、それらの器種は主に須恵質土器、陶磁器であったと思われる。

瓦器は周知のとおり、内外面にヘラみがきを施し、全面に炭素を吸着させ、器表は黒色または銀色、断面は灰白色を成すものである。時期的には11世紀には少量だが既に姿を現しており、12～13世紀には錢貨の流通とともに量産されるが14世紀以降には「六古窯」の確立化とともに次第に消長していく。

近年においては、畿内産の瓦器塊に関して詳細な研究が進められ、楠葉型、和泉型、大和型、丹波型、紀伊型にみられるように地域によって異なる型体の存在が示されている。<sup>註14</sup>中国地方でもいくつかの出土例が挙げられているが、とくに岡山県南部では本遺跡出土と同様な和泉型のものが多く出土している。<sup>註15</sup>この和泉型の特徴は一般には楠葉型が比較的丁

寧なつくりに対してやや難で、体部外面の指頭圧痕が多く、暗文も太いとされている。石台遺跡出土の碗はこの和泉型の特徴を兼ね備えており、尾上実氏の「南河内の瓦器碗」の註<sup>16</sup>編年を参考にするとⅢ期に相当すると思われる。

瓦器の出土分布をみてみると瀬戸内沿岸を中心に比較的水上交通の便の良好な所に集中しており、淀川水系で生産された瓦器が河川や大海を利用してここ石台遺跡まで運ばれ、何らかの交易があったことが伺える。山陰地方では今まで出土していなかったが、本例の出土によって少なくともこの付近まで流通していたことが判明した。

国産陶器に関しては産地不明のものが多く、本遺跡で明確な産地が判明したものは備前こね鉢と魚住窯の須恵質壺のみであった。そのうち備前にては山陰でも既に数例の報告が成されているのでここでは魚住窯についての概要を若干述べてみたい。播磨地方の須恵質系の窯の分布は大別すると東播系と西播系の二通りに分けられる。魚住窯はいわゆる「東播系窯跡」の範疇に属し、神戸市の神出窯と並び、平安末期から鎌倉期における中世陶器の代表的なもので、瀬戸内海地域を中心にこの製品が広く流通している。石台遺跡出土の甕は口頭部が破損しているためその形状は不明であるが、くびれ部に平行条線の叩き目を入れた後ヨコナデを施していること、胎土が軟質の上、輕石状で吸水性をもち、器壁が薄く、外面調整は平行条線の叩き目であるという特徴から魚住窯のものと判断した。時期は12世紀中頃ないしは13世紀前半のものではないかと思われる。また松江市大草町天満谷遺跡からは12世紀後半と思われる魚住窯の鉢が出土している。<sup>註<sup>17</sup></sup>

石台遺跡には本文で説明したように魚住窯のものとは異なる須恵質土器もみられる。最近、天満谷遺跡などでも、体部外面が格子目文で、内面には刷毛目、または同心円状の叩き目の後などで消す調整をもつ須恵質土器が数点出土している。<sup>註<sup>18</sup></sup>中国地方でも岡山県南西部、北東部で生産される格子目文の叩きが特徴である亀山焼、勝間田焼の例が報告されて<sup>註<sup>19</sup></sup>いる。しかし、これらとも若干様相が異なっており石台遺跡の産地不明の土器も含め、在地産の可能性が考えられる。

このように石台遺跡では12世紀には、撒入土器とは別に在地生産の土器も使用されていると考えられる。ところが富田川河床遺跡においては16世紀以降、輸入陶磁器、備前、瀬戸などが依然多く出土するのに対し、在地土器の割合はほとんどない。富田川河床遺跡の例だけで比較検討するにはやや問題があると思われるが、上記したような須恵質土器が在地のものとすれば、これらの生産は富田川河床遺跡を参考にすると、石台遺跡の存続期間（12～13世紀）と16世紀の間に消長していったと思われる。<sup>註<sup>20</sup></sup>

本遺跡から出土した輸入陶磁器には碗、皿、壺があり、その多くは白磁碗である。なか

でも口縁部を玉縁状に肥厚させた碗A類のタイプが多くみられる。これはやや幅広の高台をもち、削り出しの浅い碗b類に伴うと思われる。県内においてこの時期における輸入陶磁器は比較する明確な資料がなく、セット関係も明らかではないが、これを「大宰府出土の輸入陶磁器について」の型式分類<sup>註2</sup>に相対するとIV類に相当すると思われる。同じくa類は内底見込みを輪状にかきとり、c類は細高で直立した高台をもつ。これらはそれぞれⅣ類、V類に相当すると思われ、いずれも12世紀代の所産と考えられる。その他には時代がやや下るが13世紀代と思われる蓮弁文をもつ龍泉窯系産の青磁碗なども出土しており、およそして鎌倉期を中心とした輸入磁器といえよう。褐釉四耳壺も概述したように神原経塚、高田山寺ノ峰経塚同様12世紀の輸入品と考えられるが、いずれも経塚の資料で、生活遺跡からの出土例は島根県ではみられない。

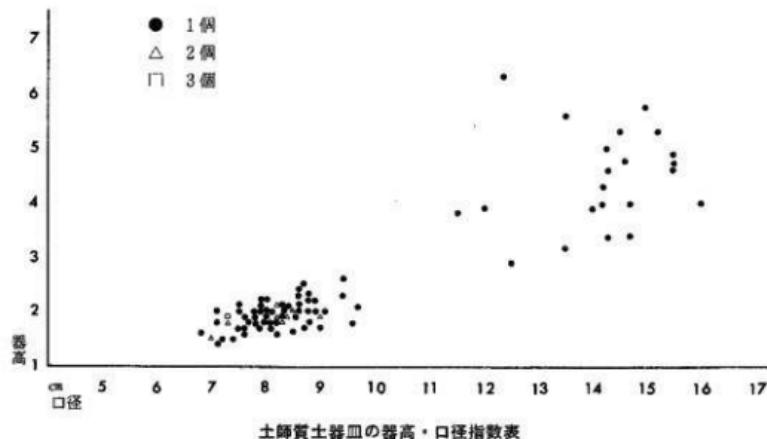
本稿ではこのような輸入陶磁器は有力豪族によって使用されたと考えた。しかし、輸入陶磁器は民衆の日用品としてかなり使用されていたという報告<sup>註3</sup>もあり一概に本例を有力者と結びつけるには決定的な根拠を欠くといわざるをえない。今後、輸入陶磁器の流入経路についてはもちろん、それらを使用した人々の性格についても検討されるべきであろう。

近年、島根県においても宮川川河床という代表的な遺跡をはじめとし、徐々に中世の遺跡にも目を向けられるようになった。これらは中世後半からのものがほとんどで中世史全般の解明にはなっていない。今後、新資料が増加し、この空白時期を埋めることによって、島根県の中世史の全貌が明らかにされることが待たれる。

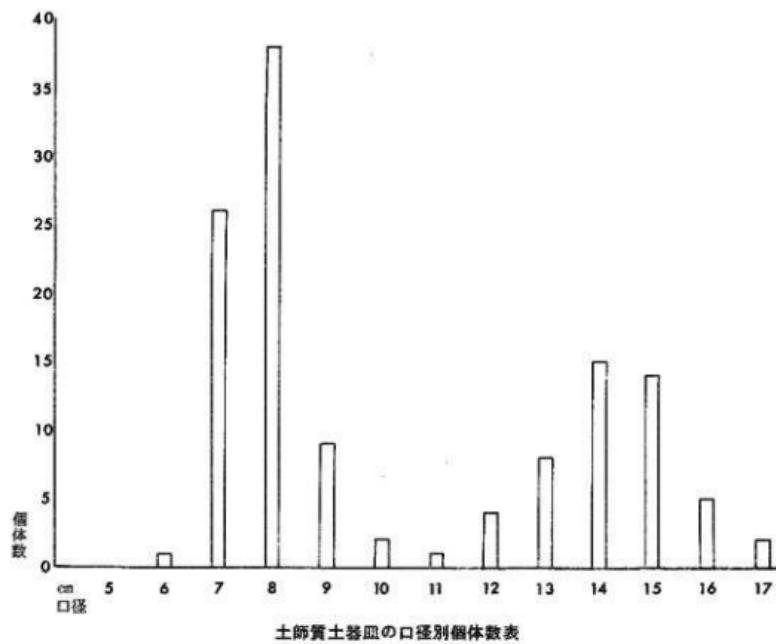
#### 註

- 『旭川放水路（百間川）改修工事に伴う発掘調査Ⅱ』岡山県埋蔵文化財発掘調査46 岡山県教育委員会 昭和56年
- 『三蔵窯遺跡』『岩田古墳群』岡山県山陽町教育委員会 昭和51年
- 『沖の店遺跡』『山陽自動車建設に伴う発掘調査』岡山県埋蔵文化財発掘調査42 岡山県教育委員会 昭和56年
- 『秋根遺跡』下関教育委員会 昭和52年
- 『草戸千軒』1～9巻 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所
- 『広瀬庵寺跡発掘調査概報』倉吉市教育委員会 昭和50年

- 7 「出雲國跡発掘調査概報」松江市教育委員会 昭和45年
- 8 「島根県松江市山代町所在・四正寺跡」 風土記の丘地内遺跡発掘調査報告IV 島根県教育委員会 昭和60年
- 9 前島巳基「出雲國分寺跡」「八雲立つ風土記の丘周辺の文化財」島根県教育委員会 昭和50年
- 10 前島巳基「出雲國分寺尼寺」「八雲立つ風上記の丘周辺の文化財」島根県教育委員会 昭和50年
- 11 「新修島根県史」史料編1（古代・中世） 昭和39年
- 12 「津田・占志原郷土誌」 津田町公民館 昭和57年
- 13 渡辺貞幸「松江市山代二子塚古墳をめぐる諸問題」『山陰文化研究紀要』第23号 島根大学 昭和58年
- 14 橋本久和「中世土器の地域色と流通—淀川地域を中心として—」『考古学研究』第23巻第4号 昭和55年
- 15 註1と同じ
- 16 尾上実「南河内の瓦器窯」『考古学論叢』藤沢一夫先生占希記念論集 昭和58年
- 17 「魚住古窯跡群」兵庫県教育委員会 昭和58年
- 18 天満谷遺跡（松江市大草町）広江耕史氏の教示による。
- 19 この他に島根県では在地底と思われる中世須恵質土器の出土例がある。以下参照  
村上 勇「山陰の中世の焼き物に関する覚え書」『松江考古』第2号 松江考古学講話会 昭和54年  
松江市教育委員会「出雲国造跡発掘調査報告」昭和55年  
松江市教育委員会「別所遺跡」「齋沢遺跡A遺跡他発掘調査報告」昭和59年
- 20 「白間川原尾島遺跡2」「旭川放水路（白間川）改修工事に伴う発掘調査V」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告56 岡山県教育委員会 昭和59年
- 21 村上勇、三宅博士氏の教示による。
- 22 「富田川河床遺跡発掘調査報告」広瀬町教育委員会 昭和52年  
桑原英二「まぼろしの戦国城下町」昭和49年
- 23 横田賢次郎・森田勉「大宰府出土の輸入陶磁器について—型式分類と編年を中心にして」『九州歴史資料館研究論集』4集 九州歴史資料館 昭和53年
- 24 安田龍太郎「中世における日常土器類の組み合わせと問題点—西日本を中心にして—」『考古論集』慶祝松崎寿和先生六十三歳論文集 松崎寿和先生退官記念事業会編 昭和48年によると「多量の中世土器を出土していて、かなり大きな集落であったとされる倉敷市酒津一水江遺跡では、磁器の出土は報告されていない。これに対して、小規模の漁村らしい集落跡である同市の広江浜遺跡ではかなりの磁器の出土があり、海浜の集落においては、輸入磁器が想像以上に民衆の日常品となっていたのではないか」との報告がある。



土師質土器皿の器高・口径指標表



土師質土器皿の口径別個体数表



# 土器・陶磁器観察表

P	番号	器種	法量cm	形態の特徴	胎土・焼成	手法の特徴	出土地点	備考
10	8-1	縄文上器			胎土 2~4mmの砂粒を多く含む。色調 外面 黒褐色 内面 黒色 焼成 やや良好	表面に大い沈線を直線状に施す。	P区地山山腹	
10	2	縄文上器		波状口縁を呈す。	胎土 1~3mmの砂粒を多く含む。色調 外面 从褐色 内面 " 焼成 やや良好	表面と底部に曲線の波状文を施す。	C区東黒褐色粘質土下層	
10	3	縄文上器			胎土 1~2mmの砂粒を多く含む。色調 外面 黑褐色 内面 黑褐色 焼成 やや良好	表面に渦巻状の沈線を施す。	C区西地山腹	
10	4	縄文上器			胎土 2mmの砂粒を多く含む。色調 外山 黄灰褐色 内山 "	表面とも朱微文。口部に刻印を施す。	C区東黒褐色粘質土下層	
11	9-1	弥生土器 甕	口径 31.8	腹部は「く」の字状に屈曲し、口縁端部はやや肥厚する。	胎土 1mm前後の小砂粒を多く含む。色調 淡灰褐色 良好	P区縫部内外面ともナフ。颈部に指捺压痕を有する貼り付け穴がめぐる。	C区東黒褐色粘質土下層	
11	2	弥生土器 甕	口径 28.5	腹部は「く」の字状に屈曲し、口縁端部はやや肥厚する。	胎土 0.5mm前後の小砂粒を多く含む。色調 黑褐色 焼成 良好	山脚部内外面ともナフ。颈部に指捺压痕を有する貼り付け穴がめぐる。	C区東黒褐色粘質土下層	
11	3	弥生土器 甕	口径 17.7	腹部は「く」の字状に屈曲し、口縁端部はやや肥厚する。	胎土 1mm以下の小砂粒を多く含む。色調 白灰色 良好	口縫部内外面ともナフ。颈部に指捺压痕を有する貼り付け穴がめぐる。	A区黒褐色粘質土	
11	4	弥生土器 甕	口径 19.0	腹部は「く」の字状に屈曲し、口縁端部はやや肥厚する。	胎土 1mm前後の小砂粒を多く含む。色調 白灰色 良好	口縫部内外面ともナフ。E区黒褐色粘質土下層		
11	5	弥生土器 甕	口径 23.9	口縫部が大きく開き、口縁端部は肥厚して平坦面をもつ。	胎土 1mm前後の小砂粒を多く含む。色調 黑褐色 良好	P区黒褐色粘質土下層		
11	6	弥生土器 甕	口径 31.9	口縫部が大きく開き、口縁端部は肥厚して平坦面をもつ。	胎土 1mm以下の微砂粒を多く含む。色調 黄灰褐色 良好	P区砂礫層		
11	7	弥生土器 甕	口径 28.6	口縫部が大きく開き、口縁端部は肥厚して平坦面をもつ。	胎土 1mm前後の小砂粒を多く含む。色調 黑褐色 良好	P区縫部内外面ともナフ。口縫部外側に2本単位の斜格子文、内側に貼り付け穴舟形沈線文と横隔板状文を施す。	C区東黒褐色粘質土下層	
11	8	弥生土器 甕	口径 22.5	口縫部が大きく開き、口縁端部は肥厚して平坦面をもつ。	胎土 1mm前後の小砂粒を多く含む。色調 白灰色~灰色 良好	P区縫部内外面ともナフ。口縫部外側に4本単位の横隔板状文。内側には3本単位の横隔板状文。	D区黒褐色粘質土下層	
11	9	弥生土器 甕	口径 26.3	口縫部は削頭型に大きく開き、口縁端部は肥厚して幅広い平坦面をもつ。	胎土 1mm前後の小砂粒を多く含む。色調 白灰色~灰色 良好	P区縫部外側に刻文のG33の凹線を施す。内側に押花を加えた貼り付け次第、斜格子文をめぐらす。	E区砂礫層下層	

P	標図 番号	器種	法身印	形態の特徴	胎土・焼成	手法の特徴	出土地点	備考
11	9-10	弥生土器	口径 27.1	縁部はゆるく外反する。	胎土 1mm前後の小砂粒を多く含む。色調 淡灰褐色 焼成 良好	内外面ともナデ。口縁部に1条の凹凸を施す。	E区東黒褐色粘質土下層	
11	11	弥生土器	口径 31.9	縁部は「く」の字状に曲曲する。	胎土 1mm前後の小砂粒を2~3mmの砂粒を若干含む。色調 淡灰褐色 焼成 良好	内外面ともナデ。口縁部に1条の凹凸を施す。	C区東黒褐色粘質土下層	
11	12	弥生土器	口径 36.0	手縫状の体部で、口縁部はやや肥厚する。	胎土 1~2mm前後の小砂粒を多く含む。色調 淡灰褐色 焼成 良好	内外面ともナデ。口縁部に斜面を施す。下層	C区東黒褐色粘質土下層	
11	13	弥生土器	口径 27.5	手縫状の体部で、口縁部はやや肥厚する。	胎土 1mm前後の小砂粒を多く含む。色調 淡灰褐色 焼成 良好	内外面ともナデ。口縁部に斜面を施す。胎土を貼り付ける。	A区東黒褐色粘質土	
11	14	弥生土器	口径	縁部は筒状を呈す。	胎土 1mm以下の微砂粒を若干含む。色調 淡灰茶褐色 焼成 良好	内外面ともナデ。口縁部に貼り付け突起を2条をめぐらす。	B区東黒褐色粘質土	
11	15	弥生土器	口径 14.3	口縁部が肥厚する。	胎土 0.5mm前後の微砂粒を若干含む。色調 淡灰褐色 焼成 やや不良	口縁部内外面ともナデ。胎部外面に2条の手縫状の溝を施す。	C区東黒褐色粘質土下層	
11	16	弥生土器	口径 11.4	口縁部は「く」の字状に曲曲する。	胎土 1mm前後の小砂粒を多く含む。色調 白灰色 焼成 やや不良	内外面ともナデ。	C区東黒褐色粘質土下層	
12	10-1	須 環	口径 9.8 底高 3.3 腹厚 1.0 受部径 12.0	大井戸から口部にかけてゆるやかに広がる。かえりは幅部より多い。	胎土 微砂粒を含む。色調 外山 墓灰褐色 内面 灰色 断面 灰色 焼成 良好	天井部外側はへラ削り放し後回転ナデ。その他は内外面とも回転ナデ。つまみは貼り付け。	B区西地山山	
12	2	須 環	口径 11.9 底高 2.1	擬宝珠状のつまみがつくと想われる。天井部は平坦。	胎土 密度 色調 焼成 良好	天井部外側はへラ削り。天井部内面は一定方向に回転せながらのナデ。その他は回転ナデ。つまみは貼り付け。	C区東黒褐色粘質土下層	
12	3	須 環	口径 8.3 底高 0.7 腹厚 0.7 受部径 10.1 立上り径 13.2 高さ 10.1	たちあがりはやや外反気味にひき、輪部を丸くあきめる。受部は扁平にひける。体部は丸足を帯び、底高。	胎土 微砂粒を含む。色調 外山 暗灰褐色 内面 暗灰褐色 断面 内部は一部あづき色 焼成 良好	底部外側は手持ちへラ削り。その他は内外面とも回転ナデ。体部外側に一部押き目が残る。	F区黒褐色粘質土中層	指標山城が残る。
12	4	須 环	口径 11.0 底高 0.6 腹厚 0.6 受部径 14.0 立ち上り径 13.2 高さ 10.1	たちあがりは内傾しない。受部はやや上方にひける。立上り径 13.2cm。高さ 10.1cm。	胎土 微砂粒をわざかに含む。色調 内面 明灰褐色 断面 暗灰褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。	E区黒褐色粘質土下層	
12	5	須 环	口径 11.8 底高 0.6 腹厚 0.6 受部径 14.0	たちあがりは内傾し難い。受部は水平にひける。	胎土 微砂粒を含む。色調 明灰褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。	C区東黒褐色粘質土下層	
12	6	須 环	口径 11.6 底高 0.9	口縁部は強く外反する。輪部は丸い。体部は内房気味に立ち上がり、中程で外方方に開く。	胎土 3mm以下の砂粒を若干含む。色調 内面、断面 もや灰褐色 焼成 やや良好	内外面とも回転ナデ。	C区東黒褐色粘質土下層	
12	7	須 环 合 环	口径 15.5 底高 4.0 腹厚 0.7 高さ 10.0	「ハ」の字伏の低い高台が付く。体部は内房気味に立ち上がり、中程で外方方に開く。	胎土 微砂粒を含む。色調 明灰褐色 焼成 良好	底部外側は回転糾引り壁を施す。その他は内外面とも回転ナデ。高台は貼り付け。	C区西地山城粘質土下層	

P	標識番号	種類	法量 cm	形態の特徴	胎土・焼成	手法の特徴	出土始点	備考
12	10-8	高台環	底厚 0.8 高台径 9.4	やや外縁気味の低い高台が付く。太めの高台が付く。	胎土 1~2mmの小砂粒を含む。 色調 白灰色 焼成 良好	底部外面は回転糸切り痕を残す。その他は内外面とも回転ナダ。高台は貼り付け。	D区西端山面	
12	9	高台環	底厚 1.0 高台径 8.0	「ハ」の字状の低い高台が付く。体部は直線的にやや上方へ立ち上がる。	胎土 微砂粒を含む。 色調 灰色 焼成 良好	底部外面は回転糸切り痕を残す。その他は内外面とも回転ナダ。高台は貼り付け。	B区端山面	
12	10	灰釉陶器	底厚 0.7 高台径 7.5	はは直線的な低い高台が付く。体部は内高気味に立ち上がる。	胎土 砂粒を多く含む。 色調 白 外面 明灰褐色 内面 うぐいす色 焼成 良好	底部外面には回転糸切り痕を残す。 体部外面には回転ナダ。内面は調整不規則。高台は貼り付け。	E区東端灰釉土下層	
12	11	高台環	底厚 0.9 高台径 9.0	直立気味の低い高台が付く。	胎土 微砂粒を含む。 色調 内外面とも灰色 外面 白灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナダ。高台は貼り付け。	C区南黒褐色粘土下層	
12	12	第西高台環	底厚 0.7 高台径 9.6	直立気味の低い高台が付く。	胎土 微砂粒を含む。 色調 体部外面は黑色 焼成 良好	底部外面は回転糸切り痕を残す。	K区地山西	
12	13	高台環	底厚 0.6 高台径 8.6	直立気味の低い高台が付く。	胎土 砂粒を含む。 色調 灰褐色 焼成 良好	底部外面は回転糸切り痕を残す。内面は回転ナダ。高台は貼り付け。	F区地山内	
12	14	擴張長頸瓶	底厚 10.0	やや外縁気味の低い高台が付く。	胎土 微砂粒を含む。 色調 灰褐色 焼成 良好	底部外面は回転糸切り痕を残す。 外縁はナダ。内面は回転ナダ。高台は貼り付け。	E区黒褐色粘土下層	
12	15	擴張車輪	底厚 0.8 底削径 6.5	底部は平底。	胎土 ほとんど微砂粒を含む。底削部は底削。	底部外面は回転糸切り痕を残す。外縁は上輪ナダ。内面は回転ナダのち小輪による一定方向のナダ。	E区黒褐色粘土上層	
12	16	擴張車輪	底厚 9.4	底部は平底。	胎土 微砂粒を含む。 色調 内外面 喧褐色 断面 灰色 焼成 やや良好	底部外面は回転糸切り痕を残す。外縁は回転ナダ。内面は回転ナダのち小輪による一定方向のナダ。	D区地山内	
12	17	擴張錐形	底厚 22.8	体部は内湾気味に立ち上がり、口部部が窄まる。	胎土 清 色調 青灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナダ。	A区深褐色粘土上	
12	18	擴張錐形	底厚 1.1 高台径 12.6	体部は斜上方に直線的に開く。 底削部は「ハ」の字状の高台が付く。高台の底削部はやや凹む。	胎土 4mmの石英質のものを含む。 微砂粒をまばらに含む。 色調 内外面 灰色 焼成 良好	底部外面は回転ヘラ削り、一部に格子状の叩き目を残す。内面はヨコ方向の回転ユビナダ。高台は貼り付け。	C区東黒褐色粘土上層	
12	19-1	擴張錐形	口径 25.0 底厚 0.9	体部は丸味をもち、口部部では「く」の字状に外反する。口部部に段をもつ。	胎土 1mmの石英質のものを含む。 外砂粒はほぼみられない。 色調 内外面 喧褐色 断面 灰色 焼成 良好	底部外面上半部は回転ナダ。下半部はヨコ方向の回転ナダのちヨコ方向のナダ。内面は回転ナダ。	C区東黒褐色粘土中層	粘土層さじ痕を有す。
14	2	擴張錐形	底厚 1.0	体部は丸味をもち、口部部では「く」の字状に大きく屈曲する。	胎土 清 色調 灰褐色 焼成 良好	底部外面の一端にカキ目が残る。その他は内外面ともに回転ナダ。	A区深褐色粘土上	粘土層さじ痕を有す。

P	地図 番号	器 種	法 量cm	形 態	部 位	特 徴	加 土	成 分	手 法	特 徴	出 土 地 点	備 考
14	II-3	箱	口径 底高 厚さ	30.5 8.7 1.6	口縁部はやや外傾す る。口縁部には段状 もつ。	胎土 石粉等1mm以 下の微砂粒を主と し、中に含む。 色調 外面 明灰色 内面 暗灰色 焼成 良好	胎土 石粉等1mm以 下の微砂粒を主と し、中に含む。 色調 外面 明灰色 内面 暗灰色 焼成 良好	口縁部は内外面とも に回転ナデ。 口縁部と側面の境目 に叩き目痕が残る。	C区東黒褐色粘質土 下層			
14	4	箱	高 底 厚	4.3 9.0	平底の浅い近縁より やや内窓気味に上ち 上がる。	胎土 3mmの砂粒を 主とし、中に含む。 色調 内外面 断面 ともに灰色 焼成 良好	胎土 3mmの砂粒を 主とし、中に含む。 色調 内外面 断面 ともに灰色 焼成 良好	体部外面はへら削り。 内面は回転ナデ。	B区東黒褐色粘質土 下層			
14	5	箱	高 底 厚	3.0 10.0	平底の底盤より外方 に向立ち上がる。	胎土 1mm前後の小 砂粒を含む。 色調 内外面 断面 ともに灰色 焼成 良好	胎土 1mm前後の小 砂粒を含む。 色調 内外面 断面 ともに灰色 焼成 良好	体部外面は回転ナデ。 内面は回転ナデのち 不整方向のナデ。	C区東黒褐色粘質土 下層			
14	6	箱	口径 底高 厚さ	14.1 4.6 0.6	体部は内窓気味に立 ち上がり、口縁部で やや外反する。	胎土 密 色調 外面 明灰色 内面 暗灰色 焼成 良好	胎土 密 色調 外面 明灰色 内面 暗灰色 焼成 良好	体部内外面とも回転 ナデ。	E区黒褐色粘質土下 層砂層層			
14	7	つまみ	つまみ径 厚	2.6×2.6	宝珠状を呈す。	胎土 砂粒を多く 含む。 色調 暗灰色 焼成 良好	胎土 砂粒を多く 含む。 色調 暗灰色 焼成 良好	外面は回転ナデ。	F区黒褐色粘質土下 層			
14	8	つまみ	つまみ径 厚	2.6×2.6	宝珠状を呈す。	胎土 微砂粒を多く 含む。 色調 茶がかった灰色 やや良好	胎土 微砂粒を多く 含む。 色調 茶がかった灰色 やや良好	外面は回転ナデ。	C区東黒褐色粘質土 下層			
14	9	つまみ	つまみ径 厚	4.0×3.9	輪状を呈す。	胎土 砂粒を多く 含む。 色調 明灰色 焼成 良好	胎土 砂粒を多く 含む。 色調 明灰色 焼成 良好	外側は回転ナデ。 内面は不整方向のナ デ。	E区砂質層下層			
14	10	肥	予			胎土 砂粒を多く 含む。 色調 暗灰色 焼成 良好	胎土 砂粒を多く 含む。 色調 暗灰色 焼成 良好	企削にてへら削り調整 を施す。	C区西黒褐色粘質土 下層			
16	12-1	円 筒	口径 底高 厚	12.2 2.0 8.4	脚部は櫛型を呈し、 口縁部は「く」の字 状に短く突出する。 脚部上位には四枚は 付け、波状文を入れ る。	胎土 小砂粒が混入 する。 色調 底部は暗灰色。 脚部はオーバーカ ラを呈す。 焼成 良好	胎土 小砂粒が混入 する。 色調 底部は暗灰色。 脚部はオーバーカ ラを呈す。 焼成 良好	脚部内外面とも回転 ナデ調整。脚部外側の 一部に斜行状の凹凸 日痕が残る。底部外 面は底くくり成り高 台形につくる。	C区西北腰張灰黑 褐色粘質土 輸入陶器 輪高層上層			
16	2	筒	底高厚 高内径	12.3 1.2	体部は斜上方に立ち 上がる。	胎土 0.5mm程度の 微砂粒を含む。 色調 外面 黒灰色 内面 暗灰色 焼成 やや良好	胎土 0.5mm程度の 微砂粒を含む。 色調 外面 黑灰色 内面 暗灰色 焼成 やや良好	体部外面はナデ調整。 「丁」の字状に立ら上 がる。底部内面には切 口目痕がある。底部外 面は底くくり成り高 台形に付ける。後削 ナデ。	H区東黒褐色粘質土 上層	須恵器 底面内面に 油膜状のもの が付着。		
16	3	筒	口径 底高 厚	27.8 7.4 15.6	平底の底盤より立ち 上がる。	胎土 微砂粒をわざ かに含む。 色調 良好	胎土 微砂粒をわざ かに含む。 色調 良好	内外面ともに回転ナ デを施す。 底部外面は未調整。	E区黒褐色粘質土下 層	須恵器		
16	4	備前こね棒	口径 厚	30.0	体部は外傾し、片口 とする。	胎土 1mm以上の小 砂粒少々と微砂粒 を多く含む。 色調 茶灰て一面茶 色燒成 良好	胎土 1mm以上の小 砂粒少々と微砂粒 を多く含む。 色調 茶灰て一面茶 色燒成 良好	内外面ともに回転ナ デ調整。口縁部中央に 花綿状の溝を入れる。	C区東黒褐色粘質土 下層			
16	5	筒	最大脚距	20.6		胎土 微砂粒をわざ かに含む。 色調 淡黄灰～茶 色燒成 良好	胎土 微砂粒をわざ かに含む。 色調 淡黄灰～茶 色燒成 良好	体部外面にはへら削 り調整。 内面は解説が著しく 不明。	C区西黒褐色粘質土 下層			
16	6	筒	口径	39.6	口縁部はゆるやかに 外反する。	胎土 1mm前後の小 砂粒と微砂粒を少 々含む。 色調 茶色～黒褐色 焼成 良好	胎土 1mm前後の小 砂粒と微砂粒を少 々含む。 色調 茶色～黒褐色 焼成 良好	底部外面には格子状 の叩き目跡がある。内 面はコリナデを施し たのち紙方式の削毛 目を入れる。	D区黒褐色粘質土下 層	須恵器		

P	標図 番号	種 類	法 量 cm	形態の特徴	胎 土・焼 成	手 法の特徴	出 土 場 所	備 考
16	12-7	魚 住 器 具	42.0		胎土 表 面 を含む。重い。 色調 赤色～暗青灰 色 焼成 良好	標部外側は堅硬の半 行条綱目で、内面 はヨコナメを1カテ 方向のナガ。側面外 面は平行な横引き口 のうち縦方向のナゲ 仕上げ。	A区焼灰褐色砂質粘 土上	
17	13-1	土師質土器 下 削	11径 44.6	口縁部は「く」の字 状に外反する。体部 は内面気味に立ち上 がる。	胎土 上 1mm以上的小 砂粒少々と微砂粒 を多く含む。 色調 赤褐色～灰褐色 焼成 良好	口縁部はヨコナメ。 口縁部内面は横方向 の刷毛目。 その他山の外面とも 縦方向は斜格子状 の刷毛目。	A区黒褐色粘土上	
17	2	土師質土器 下 削	11径 39.7	口縁部は「く」の字 状に外反する。体部 は内面気味に立ち上 がる。	胎土 上 1mm前後の小 砂粒と微砂粒を多 く含む。 色調 外面 赤褐色 内面 灰褐色 焼成 良好	外面 体部は縦方向 の刷毛目。 内面 口縁部は横の ちから方向の刷毛目。 体部は横方向の刷 毛目。	C区砂褐色 外向に煤付 着。	
17	3	土師質土器 下 削	11径 38.5	口縁部は「く」の字 状に外反する。体部 は内面気味に立ち上 がる。	胎土 上 微砂粒を多く 含む。 色調 黑色～茶褐色 焼成 良好	外側は凹凸不 規則。 内面はヨコナメ。	C区西北部都張区黒 褐色粘土上	外側に煤が 厚く付着。
17	4	土師質土器 上 削	11径 38.9	口縁部は「く」の字 状に外反する。体部 は内面気味に立ち上 がる。	胎土 上 1mm以上の小 砂粒を少々含む。 質多く含む。 色調 黒褐色～灰褐色 焼成 良好	外側 1mm前後の小 砂粒と微砂粒を多 く含む。 内面 1mm前後の小 砂粒と微砂粒を多 く含む。 質多く含む。 色調 黒褐色～灰褐色 焼成 良好	E区砂褐色 外側に煤付 着。	
17	5	土師質土器 下 削	11径 35.2	口縁部は「く」の字 状に外反する。体部 は内面気味に立ち上 がる。	胎土 上 微砂粒を多く 含む。 質多く含む。 色調 黑色～茶褐色 焼成 良好	外側 凹凸不規 則。 内面 胎土下半部は 横方向の刷毛目。 胎土上半部は斜方 方向の刷毛目。下半部 は斜方向の刷毛目。	C区西北部都張区黒 褐色粘土上	外側に煤が 厚く付着。
17	6	土師質土器 上 削	11径 36.0	口縁部は「く」の字 状に外反する。体部 は内面気味に立ち上 がる。	胎土 上 微砂粒を多く 含む。 色調 茶褐色～灰褐色 焼成 良好	外側 口縁部はヨコナ メ。 内面 口縁部は横の ちから方向の刷毛目。 体部上半部は横方 方向の刷毛目。下半部 は斜格子状の刷毛目。	C区西北部都張区黒 褐色粘土上	外側に煤付 着。
17	7	土師質土器 土 削	11径 32.6	口縁部は「く」の字 状に外反する。体部 は内面気味に立ち上 がる。	胎土 上 微砂粒を多く 含む。 色調 黑色～茶褐色 焼成 良好	外側 口縁部はヨコナ メ。 内面 口縁部は横の ちから方向の刷毛目。 体部上半部は横方 方向の刷毛目。下半部 は斜方向の刷毛目。	C区西北部都張区黒 褐色粘土上	外側に煤が 厚く付着。
18	14-1	土師質土器 下 削	11径 32.3	口縁部は「く」の字 状に外反する。体部 は内面気味に立ち上 がる。	胎土 上 1mm前後の小 砂粒と微砂粒を多 く含む。 色調 茶褐色～灰褐色 焼成 良好	外側 口縁部はヨコナ メ。 内面 口縁部は横の ちから方向の刷毛目。 体部は横方向の刷 毛目。	C区西北部都張区黒 褐色粘土上	外側に煤付 着。
18	2	土師質土器 下 削	11径 33.2	口縁部は「く」の字 状に外反する。体部 は内面気味に立ち上 がる。	胎土 上 1mm前後の小 砂粒と微砂粒を多 く含む。 色調 茶褐色～灰褐色 焼成 良好	外側 口縁部はヨコナ メ。 内面 口縁部は横の ちから方向の刷毛目。 体部は横方向の刷 毛目。		外側に煤付 着。
18	3	土師質土器 土 削	11径 32.0	口縁部は「く」の字 状に外反する。体部 は内面気味に立ち上 がる。	胎土 上 微砂粒を少々 含む。 色調 黑色～茶褐色 焼成 良好	外側 くびれ部は横 方向の刷毛目。体部 は斜方向の刷毛目。 内面 口縁部は横方向 の刷毛目。体部は横 方向の刷毛目。	C区西北部都張区黒 褐色粘土上	外側に煤付 着。
18	4	土師質土器 土 削	11径 30.2	口縁部は「く」の字 状に外反する。体部 は内面気味に立ち上 がる。	胎土 上 微砂粒を多く 含む。 色調 黑色～茶褐色 焼成 良好	外側 口縁部はヨコナ メ。 体部は横方 向のち一帯斜方 方向の刷毛目。 内面 横方向の刷毛 目。	A区焼灰褐色砂質粘 土上	外側に煤付 着。

P	押固 番号	基 礎	法 量 km	形 態 の 特 徴	地 上 ・ 構 成	手 法 の 特 徴	出 土 地 点	備 考
18	14-5	上脚質土器 底 盤	口径 17.6	口縁部は「く」の字 状に外反する。体部 はやや垂れ気味に立 ち上がる。	粘土、1 mm前後の小 砂粒と微砂粒を少 多く含む。 色調 外面 淡褐色 で一部黒褐色へ混 色調 内面 白灰色に赤 褐色がかかる。 機成 良好	外面 口縁部はヨコ ナデ。全体は楕円 形の刷毛目。 内面 口縁部は横方 向の刷毛目。体部は楕方 向の刷毛目。	D区黒褐色粘質土下 層	外面に媒材 着。
18	6	土脚質土器 底 盤	口径 28.0	口縁部は「く」の字 状に外反する。体部 はやや垂れ気味に立 ち上がる。	粘土、1 mm前後の小 砂粒と微砂粒を少 々含む。黒褐色を少 なく含む。 色調 外面 黑褐色し た黒色。 内面 基本色。 機成 良好	外面 口縁部はヨコ ナデ。くびれ部は 楕円方向の刷毛目 のうちヨコナデ。体部 は楕円形の刷毛目。 内面 楕円方向の刷毛 目。	E区砂礫層	
18	7	土脚質土器 底 盤	口径 26.2	口縁部は「く」の字 状に外反する。体部 はやや垂れ気味に立 ち上がる。	粘土、4 mm前後の砂 粒少々と2 mm前後の 砂粒を多く含む。 色調 黑褐色～褐色 機成 良好	外面 口縁部は斜方 向のうち楕円方向の刷 毛目。 内面 口縁部は直状 のもので楕円方向に 偏くなる。	F区砂礫層	外面に媒 材厚く付着。
18	8	土脚質土器 底 盤	口径 22.4	体部は内湾気味に立 ち上がり、口縁部で 短く外反する。	粘土 磨砂粒を多く含む 色調 外面 黑褐色 内面 黑褐色 機成 やや不良	全面に回転ナデを施 す。	D区黒褐色粘質土 F 層	外面に媒 材着。
18	9	土脚質土器 底 盤	口径 22.1	体部は内湾気味に立 ち上がり、口縁部で 短く外反する。	粘土 磨砂粒を少々含 む。 色調 外面 黑褐色 内面 黑褐色～灰褐色 機成 良好	全面に回転ナデを施 す。	E区黒褐色粘質土上 層	外面に媒材 着。
18	10	土脚質土器 底 盤	口径 17.7	体部は内湾気味に立 ち上がり、口縁部で 短く外反する。	粘土 磨砂粒を少々含む 色調 外面 青灰色 内面 黑褐色 機成 良好	体部内面は回転ナデ。 口縫部外面はヨコ ナデ。	D区黒褐色粘質土下 層	
18	11	土脚質土器 底 盤	口径 24.2	口縁部は「く」の字 状に外反する。体部 はやや内湾気味に立 ち上がる。	粘土、2 mmと5 mm前 後の砂粒少々と黄 砂粒を多く含む。 色調 外面 黑灰色 内面 黑褐色 機成 良好	外面 ヨコナデ。 内面 口縫部はヨコ ナデ。体部は斜方 向の刷毛目。	E区黒褐色粘質土中 層	外面に媒 材厚く付着。
18	12	土脚質土器 變形土器	口径 22.6	口縁部は「く」の字 状にゆるやかに外反 する。体部はやや垂 れ気味に立ち上がる。	粘土 1 mm前後の小 砂粒と微砂粒を少 々含む。 色調 淡灰褐色 機成 良好	内外面ともにヨコナ デを施す。 外面上に2箇の回転狀 のものを入れる。	E区砂礫層下層	口端部媒材 着。
18	13	瓦 器	口径 15.1	体部は内湾気味に立 ち上がり、底部を丸 くおさめる。	粘土 磨砂粒を 少々含む。 色調 黑褐色 機成 不良	内面はハラ磨き。 外面上には指痕開裂が 明瞭に残る。	F区黒褐色粘質土下 層	
19	15-1	土脚質土器 底 盤	口径 7.6	体部は外向きに広が る。口縁部はやや肥 厚する。底部がぐく 中央部が凸状を呈す。 やや上げ底欠味であ る。	粘土 やや粗い。磨 砂粒を含み、1 mm 程度の小砂粒も少 量含む。 色調 高褐色 機成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は静止系切り。	E区黒褐色粘質土下 層	
19	2	上脚質土器 底 盤	口径 7.2	体部は外向きに広が る。口縁部はやや肥 厚する。底部がぐく 中央部が凸状を呈す。 やや上げ底欠味であ る。	粘土 やや粗い。磨 砂粒と1 mm程度の小 砂粒を少々含む。 色調 茶褐色 機成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は静止系切り。	E区黒褐色粘質土上 層	外面に指痕 圧痕が残る。

P	鉢内 番号	基 種	基 量 (kg)	形 態の特 徴	植 土・成 長	手 法の特 徴	出 土地 点	備 考	
19	15- 3	上部質土器 皿形土器	口径 基高	7.2 1.6	体部は外向きに広がる。 口端部はやや肥厚する。 底部は厚く、中央部が凸状を呈す。	粘土。粗砂粒を多く含む。 色調 深灰色 地成 良好	内外面とも回転ナガ。 底部は静止系切り。	C区東褐色粘質土下層	内面に媒材有。
19	4	土質質土器 皿形土器	口径 基高	7.3 1.6	体部は外向きに広がる。 口端部はやや肥厚する。 底部は厚く、中央部が凸状を呈す。 上げ底気孔。	粘土。粗い。粗砂粒を多量に含む。 色調 茶褐色 地成 良好	内外面とも回転ナガ。 底部は静止系切り。	C区東褐色粘質土下層	
19	5	土質質土器 皿形土器	口径 基高	7.3 1.8	体部は外向きに広がる。 底部は厚く、中央部が凸状を呈す。 上げ底気孔。	粘土。粗い。粗砂粒を多量に含む。 色調 茶褐色 地成 良好	内外面とも回転ナガ。 底部は静止系切り。	C区東褐色粘質土下層	内面に媒材有。
19	6	上部質土器 皿形土器	口径 基高	7.3 1.5	体部は近「ハ」の字状に立ち上がり。 器底が低い。	粘土 1mm前後の小砂粒少く、粗砂粒を多く含む。 色調 茶褐色 地成 良好	内外面とも回転ナガ。 底部は回転系切り。	C区東褐色粘質土下層	
19	7	土質質土器 皿形土器	口径 基高	7.4 1.5	体部は近「ハ」の字状に立ち上がり。 口端部はやや肥厚する。 器高が低い。	粘土 1mm未満の小砂粒を多量に含む。 色調 茶褐色 地成 良好	内外面とも回転ナガ。 底部は回転系切り。	E区黒褐色粘質土器高	内面に媒材有。
19	8	土質質土器 皿形土器	口径 基高	7.5 1.5	体部は近「ハ」の字状に立ち上がり。 口端部はやや肥厚する。	粘土 粗砂粒を多く含む。 色調 淡灰色 地成 良好	内外面とも回転ナガ。 底部は回転系切り。	D区黒褐色粘質土下層	
19	9	土質質土器 皿形土器	口径 基高	7.6 2.0	体部は近「ハ」の字状に立ち上がり、や丸身を帯びる。	粘土 粗い。0.5mm程の粗砂粒を含む。 色調 茶褐色 地成 良好	内外面とも回転ナガ。 底部は回転系切り。	E区黒褐色粘質土上層	内面に媒材有。
19	10	土質質土器 皿形土器	口径 基高	7.6 2.0	体部は近「ハ」の字状に立ち上がり、や丸身を帯びる。	粘土 粗い。0.5mm程の粗砂粒を多量に含む。 色調 淡黄色 地成 良好	内外面とも回転ナガ。 底部は回転系切り。	E区黒褐色粘質土下層	
19	11	土質質土器 皿形土器	口径 基高	7.9 1.9	体部は近「ハ」の字状に立ち上がり、や丸身を帯びる。	粘土 1mm前後の小砂粒を多く含む。 色調 茶褐色 地成 良好	内外面とも回転ナガ。 底部は回転系切り。	E区黒褐色粘質土下層	内面に媒材有。
19	12	上部質土器 皿形土器	口径 基高	7.9 1.7	体部は近「ハ」の字状に立ち上がり、や丸身を帯びる。	粘土 粗砂粒を含む。 色調 明茶褐色 地成 良好	内外面とも回転ナガ。 底部は回転系切り。	C区東黒褐色粘質土下層	
19	13	土質質土器 皿形土器	口径 基高	7.9 1.7	体部は近「ハ」の字状に立ち上がり、や丸身を帯びる。	粘土 やや粗い。 色調 茶褐色 地成 良好	内外面とも回転ナガ。 底部は回転系切り。	C区東黒褐色粘質土下層	
19	14	上部質土器 皿形土器	口径 基高	7.8 1.6	体部は斜上方に倒く。	粘土 粗好。1mm未満の粗砂粒を少々含む。 色調 茶褐色 地成 良好	内外面とも回転ナガ。 底部は回転系切り。	A区茶褐色粘質土	
19	15	土質質土器 皿形土器	口径 基高	7.7 —	体部は斜上方に立ち上がる。	粘土 糙で粗い。 0.5~2mm程度の粗砂粒を多量に含む。 色調 深灰色~明茶褐色 地成 良好	内外面とも回転ナガ。 による凹凸が明顯。	E区茶褐色粘質土上層	
19	16	上部質土器 皿形土器	口径 基高	7.5 1.7	体部は斜上方に立ち上がる。	粘土 粘り。 赤みを帯びた 色調 赤褐色 地成 良好	内外面とも回転ナガ。 による凹凸が明顯。	C区東黒褐色粘質土下層	

P	井戸番号	基 構	法量 (ml)	形態の特徴	胎 土・焼成	手 法の特徴	出 土 地 点	備 考
19	15-17	土師質上器 皿形土器	口径 7.7 器高 1.6	体部は斜上方に大きく開き、口端部を丸くおさめる。	胎土 微砂粒を多く含む。 色調 外面 赤褐色 ～淡灰色 内面 淡灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。底部は回転糸切り。	E区黒褐色粘質土下層	内面に焼付有。
19	18	土師質上器 皿形土器	口径 7.7 器高 2.0	体部は斜上方に大きく開き、口端部を丸くおさめる。	胎土 微砂粒を含む。 色調 淡灰色～淡赤褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。底部は回転糸切り。	F区砂質層	内面に焼付有。
19	19	土師質上器 皿形土器	口径 7.1 器高 2.1	体部は斜上方に大きく開き、口端部を丸くおさめる。	胎土 1mm前後の小砂粒少々含む。 色調 淡灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。底部は回転糸切り。	C区東黒褐色粘質土下層	内面に焼付有。
19	20	土師質上器 皿形土器	口径 7.9 器高 2.3	体部は斜上方に大きく開き、口端部を丸くおさめる。	胎土 微砂粒を多く含む。 色調 淡灰褐色 焼成 やや不良	内外面とも回転ナデ。底部は回転糸切り。	F区黒褐色粘質土下層	
19	21	土師質上器 皿形土器	口径 7.7 器高 1.8	体部は斜上方に立ち上がり。口端部はわずかに屈曲する。	胎土 やや粗い。微砂粒を含む。 色調 赤褐色 (多少灰黑色も含む) 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。底部は回転糸切り。 底面内面は回転ナデ。 後一定方向へのナデ。 底部は回転糸切り。	C区西黒褐色粘質土上層	
19	22	土師質上器 皿形土器	口径 8.1 器高 2.0	体部は内凹気味に立ち上がり。斜上方に開く。口端部はわずかに屈曲する。	胎土 密。1mm程度の小砂粒を少量含む。 色調 赤褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。底部は回転糸切り。	A区黒褐色粘質土	
19	23	土師質上器 皿形土器	口径 7.6 器高 1.9	体部は半円形を呈す。底部外面は凹む。	胎土 粘重。微砂粒を少々含む。 色調 灰色 焼成 良好	口縁部外面はヨコナタ。体部外面下半部は指ナデ仕上げ。底部外面に指痕压痕がある。	F区黒褐色粘質土下層	
19	24	土師質上器 皿形土器	口径 7.8 器高 2.0	体部は半円形を呈す。底部外面は凹む。	胎土 密。微砂粒を含む。 色調 淡茶灰色～淡緑灰色 焼成 良好	口縁部外面はヨコナタ。体部外面下半部は指ナデ仕上げ。底部外に指痕压痕がある。	C区黒褐色粘質土下層	
20	16-1	土師質上器 皿形土器	口径 8.0 器高 2.1	体部は斜上方に開く。底部が厚く、中央部は凸状を呈す。	胎土 1mm前後の小砂粒を多く含む。 色調 茶褐色 焼成 やや良好	内外面とも回転ナデ。底部は回転糸切り。	B区東黒褐色粘質土	
20	2	土師質上器 皿形土器	口径 8.9 器高 2.1	体部は斜上方に開く。底部が厚く、中央部は凸状を呈す。	胎土 0.5mm前後の小砂粒を多く含む。 色調 茶褐色。内面の一部灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。底部は回転糸切り。	C区東黒褐色粘質土下層	
20	3	土師質上器 皿形土器	口径 8.1 器高 1.8	体部は斜上方に開く。底部が厚く、中央部は凸状を呈す。	胎土 密。粘重。茶褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。底部は回転糸切り。	C区黒褐色粘質土	内面に焼付有。
20	4	土師質上器 皿形土器	口径 8.4 器高 1.7	体部は斜上方に開く。底部が厚く、中央部は凸状を呈す。	胎土 粗い。特に外側に石炭粒等1mm前後の小砂粒を多く含む。 色調 外面 赤褐色 内面 淡褐色 焼成 やや良好	内外面とも回転ナデ。底部は回転糸切り。	C区西黒褐色粘質土下層	口縁付近に煤付のもの有り。
20	5	土師質上器 皿形土器	口径 8.8 器高 2.0	体部は斜上方に大きく開く。底部が厚く、中央部は凸状を呈す。	胎土 1mm未満の微砂粒を含む。 色調 外面 灰色～茶褐色 内面 赤褐色 焼成 やや良好	内外面とも回転ナデ。底部は回転糸切り。	C区西黒褐色粘質土下層	

P	井戸番号	器種	底面cm	形態の特徴	加土・焼成	手法の特徴	出土場所	備考
20	16-6	上端質土器 直形土器	口径 底高	8.7 1.9	体部は斜上方に大きく開く。底部が最も中央部は凸状を呈す。	粘土、微砂粒を多く含む。 色調 灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナガ。 底部は回転糸切り。	C区西黒褐色粘質土下層
20	7	土端質土器 直形土器	口径 底高	8.9 1.9	体部は斜上方に大きく開く。底部が最も中央部は凸状を呈す。	粘土、微砂粒を多く含む。 色調 淡灰色～赤褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナガ。 底部は回転糸切り。	C区東黒褐色粘質土下層
20	8	上端質土器 直形土器	口径 底高	8.1 2.1	体部はやや内窪気味に斜上方にのびる。	粘土、微砂粒を多く含む。 色調 淡茶色 焼成 良好	内外面とも回転ナガ。 底部は回転糸切り。	A区黒褐色粘質土一般埋付層
20	9	土端質土器 直形土器	口径 底高	8.1 2.0	体部はやや内窪気味に斜上方にのびる。	粘土、微砂粒を多く含む。 色調 淡い赤褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナガ。 底部は回転糸切り。	指印圧痕がある。
20	10	土端質土器 直形土器	口径 底高	8.4 1.8	体部は下凹形を呈す。	粘土、微砂粒を多く含む。 色調 淡灰褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナガ。 底部は回転糸切り。	C区東黒褐色粘質土下層
20	11	上端質土器 直形土器	口径 底高	8.3 2.0	体部は半円形を呈す。	粘土、微砂粒を多く含む。 色調 淡茶灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナガ。 底部は回転糸切り。	C区黒褐色粘質土下層
20	12	土端質土器 直形土器	口径 底高	8.4 2.0	体部は半円形を呈す。	粘土、1mm程度の小砂粒少々と微砂粒を含む。 色調 淡灰茶色 焼成 良好	内外面とも回転ナガ。 底部は回転糸切り。	F区黒褐色粘質土下層
20	13	土端質土器 直形土器	口径 底高	8.4 2.1	体部は半円形を呈す。	粘土、微砂粒を多く含む。 色調 灰白色 焼成 良好でかたい	内外面とも回転ナガ。 底部は回転糸切り。	A区暗灰褐色粘土
20	14	土端質土器 直形土器	口径 底高	8.4 1.9	体部は半円形を呈す。	粘土、やや粗い。微砂粒と1mm程度の砂粒を含む。 色調 淡茶灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナガ。 底部は回転糸切り。	F区砂礫層
20	15	土端質土器 直形土器	口径 底高	8.6 2.2	体部はやや内窪気味に斜上方にのびる。口端部は丸い。	粘土、粗い。1~3mm程度の小砂粒を含む。 色調 淡茶～淡赤褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナガ。 底部は回転糸切り。	A区黒褐色粘質土
20	16	土端質土器 直形土器	口径 底高	8.5 2.1	体部はやや内窪気味に斜上方にのびる。口端部は丸い。	粘土、微砂粒を多く含む。 色調 暗褐色かかった黃土色 焼成 非好	内外面とも回転ナガ。 底部は回転糸切り。	A区黒褐色粘質土
20	17	土端質土器 直形土器	口径 底高	8.7 2.1	体部はやや直線的に斜上方にのびる。口端部は丸い。	粘土、粗い。2mm未満の小砂粒を多量に含む。 色調 淡茶褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナガ。 底部は回転糸切り。	C区西黒褐色粘質土下層
20	18	土端質土器 直形土器	口径 底高	8.2 1.7	体部はやや直線的に斜上方にのびる。口端部は丸い。	粘土、粗い。1mm未満の微砂粒を多量に含む。 色調 淡茶灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナガ。 底部は回転糸切り。	E区砂礫層下層
20	19	上端質土器 直形土器	口径 底高	8.7 2.1	体部はやや直線的に斜上方にのびる。口端部は丸い。	粘土、やや粗い。2mm未満の微砂粒を多量に含む。 色調 淡茶をおびた灰褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナガ。 底部は回転糸切り。	F区黒褐色粘質土上層

P	番号	種類	法貫cm	形態の特徴	胎土・焼成	手法の特徴	出土地点	備考
20	16-20	土師質土器 直形土器	口径 8.9 器高 2.0	体部はやや直線的に斜上方にのびる。 口縁部は丸い。	胎土 上 1mm前後の小 砂粒少々と微砂粒 多く含む。 色調 灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	表様	
20	21	土師質土器 直形土器	口径 9.2 器高 1.9	体部は半円形を呈す。 口縁部はわずかばかり外反する。	胎土 やや粗い。微 砂粒を含む。 色調 外面 緑褐色と明褐色 内面 灰色と緑茶色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	C区東黒褐色粘質土 下層	
20	22	土師質土器 直形土器	口径 8.5 器高 1.8	体部は半円形を呈す。 口縁部はわずかばかり外反する。	胎土 微砂粒を含む。 色調 灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	A区東褐色粘質土上 層	口部の一部に縫合跡
20	23	土師質土器 直形土器	口径 8.2 器高 2.1	体部は半円形を呈す。 口縁部はわずかばかり外反する。	胎土 上 1mm程度の小 砂粒を多量に含み 表面がざらつく。 色調 外面 灰色 内面 灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	F区黒褐色粘質土中 層	
21	24	土師質土器 直形土器	口径 8.6 器高 2.0	体部は半円形を呈す。 口縁部はわずかばかり外反する。	胎土 微砂粒を少々 含む。 色調 淡茶褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	C区東黒褐色粘質土 下層	
21	17-1	土師質土器 直形土器	口径 8.9 器高 2.2	体部は半円形を呈す。 口縁部はわずかばかり外反する。	胎土 微砂粒を多く 含む。 色調 灰褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	E区砂塵層	
21	2	土師質土器 直形土器	口径 9.0 器高 2.1	体部は半円形を呈す。 口縁部はわずかばかり外反する。	胎土 微砂粒を多く 含む。 色調 灰茶褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。	B区東黒褐色粘質土 中層	
21	3	土師質土器 直形土器	口径 8.9 器高 2.5	体部は逆「八」の字 状に直線的にのびる。 口縁部はやや粗い。	胎土 微砂粒をわず かに含む。 色調 淡茶色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	B区東黒褐色粘質土上 層	
21	4	土師質土器 直形土器	口径 8.1 器高 2.2	底面より内湾気味に 立ち上がり、斜上方に 聞く。	胎土 微砂粒を多く 含む。 色調 灰褐色で外面 の一帯に緑色あり。 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。	C区西黒褐色粘質土 下層	
21	5	土師質土器 直形土器	口径 8.2 器高 2.3	底面より内湾気味に 立ち上がり、斜上方に 大きく聞く。	胎土 上 1mm前後の小 砂粒を多く含む。 色調 淡茶褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	C区黒褐色粘質土下 層	
21	6	土師質土器 直形土器	口径 8.9 器高 2.3	体部はやや内湾気味 に斜上方に大きく述 べく。	胎土 砂利、石灰、 貝殻等1mm以下の 小砂粒を多く含む。 色調 淡茶灰色で内 外面とも砂利が赤 褐色。 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	D区東黒褐色粘質土 上層	
21	7	土師質土器 直形土器	口径 8.9 器高 2.4	体部はやや内湾気味 に斜上方に大きく述 べく。	胎土 上 1mm前後の小 砂粒少々と微砂粒 多く含む。 色調 淡茶褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	A区黒褐色粘質土上 層	
21	8	土師質土器 直形土器	口径 8.4 器高 1.6	体部は外方向に広が る。口縁部はやや外 反する。	胎土 微砂粒を多く 含む。 色調 灰褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。	A区東褐色粘質土	
21	9	土師質土器 直形土器	口径 8.4 器高 1.8	底面から逆「八」の 字状に立ち上がる。	胎土 微砂粒を少々 含む。 色調 淡茶色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	A区黒褐色粘質土	

P	番号	器種	法量 (ml)	形態の特徴	胎土・焼成	手法の特徴	出土地点	備考
21	17-30	上部質土器 直形土器	口径 8.7 器高 2.1	底部よりやや内凹気 味に立ち上がり、外 方向にゆるやかに広 がる。	胎土 滲砂粒を多く 含む。 色調 茶褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	A区黒褐色質土	
21	11	土師質土器 直形土器	口径 8.9 器高 2.0	底部よりやや内凹気 味に立ち上がり、外 方向にゆるやかに広 がる。	胎土 滲砂粒を多く 含む。 色調 淡茶色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	D区黒褐色質土	
21	12	土師質土器 直形土器	口径 8.9 器高 2.1	底部よりやや直線的 に斜上方に立ち上り る。口縁部で外反す る。	胎土 やや粗い。 滲砂粒を含む。 色調 黄褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	F区沙塵層	内面に指痕 付属あり。
21	13	土師質土器 直形土器	口径 9.0 器高 1.8	底部より斜上方に如 く立ち上がる。 底部は丸く、中央部は 凸状になる。 口縁部は強く上げて いる。	胎土 やや粗い。 滲砂粒を含む。 色調 黄褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。 下層	C区東黒褐色質土	
21	14	土師質土器 直形土器	口径 9.2 器高 2.4	底部より斜上方に直 線的に立ち上る。 底部は厚く、中央部は 凸状になる。 口縁部はやや外反す る。	胎土 細い。滲砂粒を 少量含む。 色調 外面 黄褐色 内面 淡茶色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	F区沙塵層	
21	15	土師質土器 直形土器	口径 9.2 器高 1.9	半円形の体部を呈す。 口縁部は丸い。	胎土 1mm前後の小 砂粒わずかと被膜 粒多く含む。 色調 淡茶褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	C区西黒褐色質土	
21	16	土師質土器 直形土器	口径 9.0 器高 2.2	半円形の体部を呈す。 口縁部は丸い。	胎土 滲砂粒を多量 に含む。 色調 淡茶灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	F区黒褐色質土	
21	17	土師質土器 直形土器	口径 9.1 器高 2.1	半円形の体部を呈す。 底部はやや上昇直線 味。	胎土 1mm以下の細 砂粒を多く含む。 色調 淡茶灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。 下層	C区東黒褐色質土	内面に擦付 着。
21	18	土師質土器 直形土器	口径 9.1 器高 2.3	体部は斜上方にやや 直線気味にのびる。	胎土 1mm前後の小 砂粒少々含む。 色調 白灰色で所々 に赤褐色混じる。 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	F区黒褐色質土中 層	
21	19	上部質土器 直形土器	口径 9.4 器高 2.0	半円形の体部を呈す。 底部はやや上げ直線 味。	胎土 やや粗い。滲 砂粒を多く含む。 色調 外面 淡茶色 内面 暗茶色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	A区黒褐色質土	内面に擦付 着。
21	20	土師質土器 直形土器	口径 9.3 器高 2.0	体部は各方向に直線 気味に大きく開く。	胎土 滲砂粒を多く 含む。 色調 灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	A区黒褐色質土上	
21	21	土師質土器 直形土器	口径 9.8 器高 1.9	体部は各方面に直線 気味に大きく述べ く。	胎土 1mm以下の細 砂粒を多く含む。 色調 赤褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	F区黒褐色質土中 層	
21	22	土師質土器 直形土器	口径 9.1 器高 2.2	体部は斜上方に直線 的におびる。口縁部 は絞りに仕上げる。	胎土 滲砂粒をわざ かに含む。 色調 赤褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	A区黒褐色質土上	
21	23	土師質土器 直形土器	口径 9.6 器高 2.6	体部は「人」字の字 状にゆるやかに立ち 上がる。口縁部は丸 く仕上げる。	胎土 滲砂粒を多く 含む。 色調 淡茶褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	E区地山	

P	検査 番号	基 礎	法 量 cm	形 態 の 特 徴	地 土 ・ 構 成	手 法 の 特 徴	出 土 地 点	備 考
21	17-24	土質斜土器 環形土器	口径 高さ 2.4 2.3	体部は外方向にむかってゆるやかに広がり、口縁部で外反する。	粘土 塑性砂粒を少々含む。 色調 赤灰色～黒灰 色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	F区黒褐色粘質土上 層	
22	18-1	土質質土器 環形土器	口径 高さ 3.8 3.2	底部は平底で、体部は逆「人」の字状に立ち上がる。	粘土 粗、1mm前後的小砂粒を多量に含む。 色調 白灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 C区東黒褐色粘質土上 層		
22	2	土質質土器 環形土器	口径 高さ 14.6 3.4	底部は平底で、体部は逆「人」の字状に立ち上がる。	粘土 粗、1mm前後的小砂粒を多量に含む。 色調 暗灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 F区黒褐色粘質土中 層		
22	3	土質質土器 環形土器	口径 高さ 14.9 4.1	底部は平底で、体部は逆「人」の字状に立ち上がる。	粘土 1mm前後的小砂粒少々と微砂粒を多く含む。 色調 淡灰褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	F区地山面	
22	4	土質質土器 環形土器	口径 高さ 15.8 4.6	底部は平底で、体部は逆「人」の字状に立ち上がる。	粘土 やや粗い。 色調 淡黄土色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	F区黒褐色粘質土上 層	
22	5	土質質土器 環形土器	口径 高さ 14.8 4.8	底部は平底で、体部は逆「人」の字状に立ち上がる。	粘土 やや粗い。小砂粒を含む。 色調 淡黄土色～灰 色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	F区地山面	
22	6	土質質土器 環形土器	口径 高さ 14.5 4.6	底部は平底で、体部は逆「人」の字状に立ち上がる。	粘土 粗。微砂粒をわずかに含む。 色調 淡灰褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	C区東黒褐色粘質土上 層	指紋圧痕が 残る。
22	7	土質質土器 環形土器	口径 高さ 15.4	底部は平底で、体部は逆「人」の字状に立ち上がる。	粘土 粗。微砂粒をわずかに含む。 色調 淡灰褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。	F区砂質層	
22	8	土質質土器 環形土器	口径 高さ 16.8 4.4	半底の位置よりやや内周気孔に立ち上がり、口縁部で外反する。	粘土 塑性砂粒を少々含む。 色調 淡灰褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	F区地山面	
22	9	土質質土器 環形土器	口径 高さ 15.4	体部は丸身を帯び、口縁部で強く縮曲する。	粘土 塑性砂粒を少々含む。 色調 淡灰褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。	A区黒褐色粘質土上	
22	10	土質質土器 環形土器	口径 高さ 16.7	体部は丸身を帯び、口縁部で強く縮曲する。	粘土 塑性砂粒を少々含む。 色調 赤褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。	F区砂質層	
22	11	土質質土器 環形土器	口径 高さ 17.0	体部は丸身を帯び、口縁部でやや外反する。	粘土 粗、淡灰褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。	A区黒褐色粘質土	
22	12	土質質土器 環形土器	口径 高さ 16.3	体部は丸身を帯び、口縁部でやや外反する。	粘土 粗砂粒を少々含む。 色調 淡灰褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。	E区黒褐色粘質土上 層	
23	19-1	土質質土器 環形土器	口径 高さ 12.7 2.9	半円形の体部で、底部は丸状を呈し、やや上げ蒸気孔。	粘土 やや粗い。 塑性砂粒を多く含む。 色調 淡灰褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	E区地山面	内面の崩壊 が著しい。
23	2	土質質土器 環形土器	口径 高さ 14.8 3.4	平底の底部より逆「人」の字状に直線的にのびる。	粘土 1mm前後的小砂粒少々と塑性砂粒を多く含む。 色調 赤褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。	F区黒褐色粘質土上 層	

P	標 四 標 号	種 種	法 量 kg	形 狽 の 特 徴	地 土・機 成	手 法 の 特 徴	出 土 地 点	備 考
23	19 - 3	土質質土器 环 形 上 器	口径 14.5 器高 4.0	底部の延部より逆 「へ」の字状に直線 的にのびる。	胎上 1 mm前後の小 砂粒を少々含む。 色調 淡茶色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	F区堆山面	
23	4	土質質土器 环 形 上 器	口径 15.9 器高 4.9	底部よりやや内湾気 味に斜上方にのびる。 底部は上げ底。	胎上 粘砂粒を多く 含む。 色調 淡茶色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	A区堆灰褐色砂質上 器	
23	5	土質質土器 环 形 上 器	口径 15.5 器高 4.9	底部よりやや内湾気 味に斜上方にのびる。	胎上 粘砂粒を多く 含む。 色調 淡茶色 焼成 不良	外側は回転ナデ。底 部は回転糸切り。 内面は内面にヘラ磨 きを乱暴に施す。	E区砂質斜	風化が少し い。
23	6	土質質土器 环 形 上 器	口径 15.1	体部はやや内湾気味 に斜上方に立ち上 がる。	胎上 粘砂粒を多く 含む。 色調 淡茶色 焼成 やや良好	内外面とも回転ナデ。	E区黑褐色粘質下 器	
23	7	土質質土器 环 形 上 器	口径 14.4	体部はやや内湾気味 に斜上方に立ち上 がる。	胎上 粘砂粒を少々含む。 色調 淡茶色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	A区堆灰褐色砂質粘 土器	
23	8	土質質土器 环 形 上 器	口径 16.4 器高 4.0	底部は平底で、斜上 方にゆるやかに立ち 上がる。	胎上 1 mm以下の砂 粒を多く含む。 色調 白灰含む。 色調 淡茶色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	C区灰褐色粘質上 下器	
23	9	土質質土器 环 形 上 器	口径 13.9 器高 3.9	底部は平底で、斜上 方にゆるやかに立ち 上がる。	胎上 粘砂粒を多く 含む。 色調 淡茶色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	E区灰褐色粘質下 器	
23	10	土質質土器 环 形 上 器	口径 14.4 器高 4.3	底部は平底で、斜上 方にゆるやかに立ち 上がる。	胎上 2 mm程度の砂 粒を含む。 色調 淡茶色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	F区黑褐色粘土下 器	
23	11	土質質土器 环 形 上 器	口径 15.4 器高 5.3	体部は内湾気味に外 方に大きく開く。 底部は島台状をなす。 口縁部はやや弧い。	胎上 1 mm程度の砂 粒を少々含む。 色調 淡茶褐色 焼成 やや不良	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	A区黑褐色粘質上	
23	12	土質質土器 环 形 上 器	口径 14.4	体部は内湾気味に、 外方向に大きく開く。	胎上 粘砂粒を多く 含む。 色調 淡茶色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。	B区西灰褐色粘質土	
23	13	土質質土器 环 形 上 器	口径 16.0 器高 5.7	体部は内湾気味に外 方に大きく開く。 底部は島台状をなす。 口縁部はやや弧い。	胎上 1 mm前後の小 砂粒を多く含む。 色調 白灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	E区黑褐色粘質上 下器	内外面に炭 化物付着。
24	20 - 1	土質質土器 环 形 上 器	口径 14.1	体部は半球形を呈す。 口縁部はやや弧い。	胎上 粘砂粒を少々 含む。 色調 白灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。	E区黑褐色粘質下 器	
24	2	土質質土器 环 形 上 器	口径 13.7 器高 5.6	底部は平底なし。体 部は半球形を呈す。 口縁部はやや弧い。	胎上 やや弧い。1 mm程度の砂粒を多 少含む。 色調 淡茶色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	A区黑褐色粘質上	
24	3	土質質土器 灰 形 上 器	底周径 5.0	底部は平底をなし。 体部は半球形を呈す。	胎上 粘砂粒を含む。 色調 淡茶色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	A区黑褐色粘質上	

P	得点番号	種類	法面高cm	形態の特徴	地土・焼成	手法の特徴	出土地点	備考
24	20 - 4	上部質上器 燒形土器	口径 13.4	体部は半球形を呈す が口端部はやや外方 に向く。	胎土 磨砂粒が多く 含む。 色調 灰褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。	F区砂質層	
24	5	上部質上器 燒形土器	口径 13.5	体部は半球形を呈す。	胎土 磨砂粒と 5mm程度の砂粒 を含む。 色調 淡黄色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。	A区東端色質層	
24	6	上部質上器 燒形土器	口径 12.4 器高 6.4	体部は半球形を呈す が、口端部はやや内 向外。 底面内面は凹む。	胎土 磨砂粒多く 含む。 色調 淡茶灰色 焼成 やや不良	内外面とも回転ナデ。E区黒褐色粘質土下 層		
24	7	上部質上器 燒形土器	口径 15.1	体部はやや直線気味 に傾斜する。	胎土 磨砂粒を少量 含む。 色調 淡灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。A区暗褐色砂質粘 土層		
24	8	上部質上器 燒形土器	口径 15.7	体部はやや直線気味 に傾斜し、口端部を 丸くおさめる。	胎土 磨砂粒を わずかに含む。 色調 淡灰褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。F区地山西		
24	9	上部質上器 燒形土器	口径 15.5	体部はやや直線気味 に傾斜し、口端部を 丸くおさめる。	胎土 磨砂粒を多量 に含む。 色調 淡灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。F区黒褐色粘質土下 層		
24	10	上部質上器 燒形土器	口径 15.3	体部はやや直線気味 に傾斜し、口端部を 丸くおさめる。	胎土 磨砂粒を少量 含む。 器身 合わせ 色調 淡茶灰色～暗 茶色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 内部は内裏でへう壓 きを施す。	A区黒褐色粘質土十 字層	
24	11	上部質上器 燒形土器	底部径 5.2	底面は平底で、内溝 気味に立ち上がる。	胎土 I mm前後の小 砂粒わずかと微砂 粒を多く含む。 色調 淡灰褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転余切り。	C区西北壁柱區黑 褐色粘質土十 字層	
24	12	上部質上器 燒形土器	底部径 5.8	底面は平底で、内溝 気味に立ち上がる。	胎土 I mm前後の小 砂粒少々と微砂 粒を多く含む。 色調 淡灰褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転余切り。	E区砂質層下層	
25, 24	1	上部質上器 燒形土器	口径 11.7 器高 3.8	半底の底面より斜 方にゆるやかに立ち 上がる。	胎土 磨砂粒がは とんど認められな い。 色調 淡赤褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転余切り。	D区黒褐色粘質土上 層	
25	2	上部質上器 燒形土器	口径 12.3 器高 4.1	半底の底面より斜 方にゆるやかに立ち 上がる。	胎土 磨砂粒を多量 に含み 2～3mmの 砂粒も含む。 色調 淡黃土色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転余切り。	C区西端褐色粘質土上 層	
25	3	上部質上器 燒形土器	口径 14.6 器高 5.3	半底の底面より斜 方にゆるやかに立ち 上がる。	胎土 磨砂粒を含む。 色調 淡系灰 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転余切り。	C区東端褐色粘質土 下層	
25	4	上部質上器 燒形土器	口径 14.4	半底の底面より斜 方にゆるやかに立ち 上がる。	胎土 磨砂粒を少々 と含む。 色調 淡赤褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。	E区地山西	
25	5	上部質上器 燒形土器	口径 16.8	体部は丸みを帯び、 口端部はやや肥厚す る。	胎土 磨砂粒を多く 含む。 色調 淡灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。	C区東端褐色粘質土 下層	

P	番号	部 種	生 長 高	形 狽 の 特 徵	地 土・ 植 成	手 法 の 特 徴	出 土 地 点	備 考
25	21 - 6	土師質土器 焼 形 土 器	口径 14.2	体部は丸みを帯び、 口端部はやや肥厚す る。	粘土。微砂粒をわず かに含む。 色調 淡茶色～褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。A区灰灰褐色砂質粘 土器		
25	7	土師質土器 焼 形 土 器	口径 14.6	体部は丸みを帯び、 口端部はやや肥厚す る。	粘土。微砂粒を多く 含む。 色調 白灰色 焼成 良好	C区内黒褐色粘質土 下層		
25	8	土師質土器 焼 形 土 器	口径 15.3	体部は内溝気味に立 ち上がり、外上方に大き く開く。  口端部がややふくら む。	粘土。1mm前後の小 砂粒を多く含む。 色調 淡灰褐色 焼成 良好	A区灰灰褐色砂質粘 土器		
25	9	土師質土器 焼 形 土 器	口径 17.1	内溝気味に立ち上り り、外上方に大き く開く。	粘土。微砂粒を多く 含む。 色調 淡灰褐色 焼成 良好	C区東北側区黒褐色 粘質土下層		
25	10	土師質土器 焼 形 土 器	口径 15.7	体部は内溝気味に立 ち上がり、斜上方に のびる。口端部がや や内側に屈曲しう る。	粘土。微砂粒を多く 含む。 色調 淡灰褐色～暗灰 色 焼成 良好	B区黒褐色粘質土 器		
25	11	土師質土器 焼 形 土 器	口径 16.0	体部は内溝気味に立 ち上がり、斜上方に のびる。口端部がや や内側に屈曲しう る。	粘土。1mm前後の小 砂粒を多く含む。 石英粒を含む。 色調 淡茶灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。C区西地山面		
25	12	土師質土器 焼 形 土 器	口径 17.4	体部は直線的に斜上 方にのびる。	粘土。1mm前後の小 砂粒少々と微砂 粒を多く含む。 色調 淡灰褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。F区黒褐色粘質土下 層		
25	13	土師質土器 焼 形 土 器	口径 17.9	体部は直線的に斜上 方にのびる。	粘土。1mm前後の小 砂粒を少しと微砂 粒を多く含む。 色調 淡茶灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。E区黒褐色粘質土上 層		
25	14	土師質土器 焼 形 土 器	口径 13.0	体部は直線的に斜上 方にのびる。口端部 を半切にする。	粘土。微砂粒を多く 含む。 色調 赤褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。F区地山面		
26	22 - 1	土師質土器 焼付粗形土 器	底径深 5.3 底面高 4.2	脚部が長い。	粘土。微砂粒を多く含 む。 色調 淡灰褐色～灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底面は回転糸切り。	E区黒褐色粘質土下 層	
26	2	土師質土器 焼付粗形土 器	底径深 4.8 底面高 3.8	脚部が長い。	粘土。1mm前後の小 砂粒と微砂粒を多 く含む。 色調 灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底面は回転糸切り。	C区西北壁松張区黒 褐色粘質土上	
26	3	土師質土器 焼付粗形土 器	底径深 5.6 底面高 4.2	脚部が長い。	粘土。微砂粒を多量 に含む。 色調 淡茶灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底面は回転糸切り。	A区暗灰褐色砂質粘 土	
26	4	土師質土器 焼付粗形土 器	底径深 5.6 底面高 4.0	脚部が長い。	粘土。微砂粒を多く 含む。 色調 赤褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底面は回転糸切り。	C区西壁褐色粘質土 下層	
26	5	土師質土器 焼付粗形土 器	口径 9.4 底面高 5.4 底面深 6.6	脚部が長い。 底部は浅く、外方向 に直線的に開く。	粘土。微砂粒をわざ かに含む。 色調 暗褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底面は回転糸切り。	A区黑褐色粘質土	

P	番号	器種	底盤 cm	形態の特徴	胎土・焼成	手法の特徴	出土地点	備考
26	22-6	十脚質土器 輪付環形土器	口径 8.3 脚部高 6.0 底盤径 7.5	脚部が長い。 底部は丸く、外方向に底盤気味に聞く。	胎土：2 mm程度の砂粒を多量に含む。 色調：赤褐色 焼成：良好	内外面とも回転ナデ。底部は回転糸切り。	D区黒褐色粘質土	
26	7	上脚質土器 輪付環形土器	口径 7.2 脚部高 3.8 底盤径 6.0	脚部が短い。 底部は浅く、外方向に底盤気味に聞く。	胎土：微砂粒を多く含む。 色調：淡灰色 焼成：良好	内外面とも回転ナデ。底部は回転糸切り。	E区黒褐色粘質土下層	
26	8	十脚質土器 輪付環形土器	底盤径 5.7 脚部高 3.5	脚部が短い。	胎土：1 mm前後の小砂粒多く含む。 色調：灰褐色 焼成：良好	内外面とも回転ナデ。底部は回転糸切り。	D区黒褐色粘質土下層	
26	9	上脚質土器 輪付環形土器	底盤径 6.3 脚部高 4.0	脚部が細長い。	胎土：微砂粒を多く含む。 色調：茶色 焼成：良好	内外面とも回転ナデ。底部は回転糸切り。	C区東黒褐色粘質土下層	
26	10	十脚質土器 輪付環形土器	底盤径 6.5 脚部高 4.1	脚部が細長い。	胎土：やや粗い。1 mm前後の小砂粒と微砂粒を多く含む。 色調：淡茶褐色で内面黒色 焼成：良好	内外面とも回転ナデ。底部は回転糸切り。	A区黒褐色粘質土	
26	11	上脚質土器 輪付環形土器	底盤径 7.0 脚部高 4.3	脚部が細長い。 底部は直線的に斜行する。	胎土：微砂粒を多く含む。 色調：淡茶褐色一部淡灰色 焼成：良好	内外面とも回転ナデ。底部は回転糸切り。	A区黒褐色粘質土	
26	12	上脚質土器 輪付環形土器	底盤径 6.4 脚部高 4.0	脚部が無長い。 底部は直線的に斜行する。	胎土：微砂粒を多く含む。 色調：灰褐色一部黒色 焼成：良好	内外面とも回転ナデ。底部は回転糸切り。	C区東黒褐色粘質土下層	
26	13	土脚質土器 輪付環形土器	底盤径 6.8 脚部高 4.0	脚部が細長い。环槽は直線的に斜行する。	胎土：微砂粒を多量に含み、2-3 mm程度の砂粒を少々含む。 色調：明茶灰色 焼成：良好	内外面とも回転ナデ。底部は回転糸切り。	E区砂礫層	
26	14	上脚質土器 輪付環形土器	底盤径 5.9 脚部高 3.7	脚部が細長い。环槽は直線的に斜行する。	胎土：1 mm前後の小砂粒少々と微砂粒を含む。 色調：淡灰色 焼成：良好	内外面とも回転ナデ。底部は回転糸切り。	A区黒褐色粘質土	
26	15	上脚質土器 輪付環形土器	口径 8.4 底盤径 7.0 脚部高 4.4	脚部は細長い。环槽は内向気味に聞く。	胎土：やや粗い。1 mm未満の微砂粒を含む。 色調：淡茶灰色 焼成：良好	内外面とも回転ナデ。底部は回転糸切り。	D区黒褐色粘質土中層	
26	16	十脚質土器 輪付環形土器	底盤径 8.4 脚部高 4.8	脚部は太くて長い。环槽はやや内向気味に聞く。	胎土：1 mm前後の小砂粒少々と微砂粒を多く含む。 石类：黄土を含む。 色調：灰褐色 焼成：良好	内外面とも回転ナデ。底部は回転糸切り。	A区黒褐色粘質土	
27-1	1	土脚質土器 輪付環形土器	底盤径 5.9 脚部高 3.0	脚部は短い。	胎土：1 mm前後の小砂粒少々と微砂粒を多く含む。 石类：黄土を含む。 色調：淡茶色 焼成：良好	内外面とも回転ナデ。底部は回転糸切り。	C区西黒褐色粘質土	
27	2	十脚質土器 輪付環形土器	底盤径 5.8 脚部高 3.0	脚部は短い。	胎土：微砂粒を少々含む。 色調：淡茶色 焼成：良好	内外面とも回転ナデ。底部は回転糸切り。	B区生褐色粘質土上層	

P	番号 番号	器種	法量 cm	形態の特徴	胎土・焼成	手法の特徴	出土地点	備考
27	23-3	上脚質土器 脚付环形土器	底部径 6.5 脚部高 3.4	脚部は短い。	胎土 濃紺粒を少々含む。 色調 黒褐色～墨色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。底部は回転糸切り。	A区黒褐色粘質土上 層	
27	4	上脚質土器 脚付环形土器	底部径 6.2 脚部高 3.5	脚部は短く太い。	胎土 細砂粒を多く含む。 色調 黄褐色がかった白灰色 焼成 良好	内外面とも均斬ナデ。底部は回転糸切り。	E区黒褐色粘質土下 層	
27	5	土師質土器 脚付环形土器	口径 8.2 底高 5.3 底部径 6.8 脚部高 3.7	脚部は短く太い。半 月形の跡部をもつ。	胎土 やや粗い。素 燒粒を含む。 色調 淡灰色 焼成 良好	内外面とも均斬ナデ。 底部は回転糸切り。	F区黒褐色粘質土中 層	内側に媒材 有。
27	6	上脚質土器 脚付环形土器	底部径 6.1 脚部高 3.3	脚部は短く太い。 底部は丸身をもつ。	胎土 1cm以下の微 細粒を多く含む。 色調 淡茶灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	C区西北壁強区黒 褐色粘質土	
27	7	土師質土器 脚付环形土器	底部径 5.8 脚部高 3.5	脚部は短く太い。	胎土 細砂粒を多く含む。 色調 白灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	E区黒褐色粘質土中 層	
27	8	上脚質土器 脚付环形土器	底部径 5.7 脚部高 3.0	脚部は短く太い。	胎土 1cm以下の微 細粒を多く含む。 色調 白灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	C区西北壁強区黒 褐色粘質土上 層	
27	9	上脚質土器 脚付环形土器	底部径 5.7 脚部高 2.7	脚部は短く太い。	胎土 微砂粒を少々含む。 色調 黄褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	A区黒褐色粘質土上 層	
27	10	上脚質土器 脚付环形土器	底部径 5.1 脚部高 2.8	脚部は短く太い。 底部は半月形を呈す。	胎土 やや粗い。1 cm程度の小砂粒を 含む。 色調 淡茶灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	F区黒褐色粘質土中 層	
27	11	土師質土器 脚付环形土器	底部径 7.4 脚部高 3.0	脚部は短く太い。 底部は半月形を呈す。	胎土 細砂粒を多く 含む。 色調 淡灰色 焼成 良好	内外面とも均斬ナデ。 底部は回転糸切り。	C区西北壁強区黒 褐色粘質土	
27	12	土師質土器 脚付环形土器	底部径 6.9 脚部高 3.8	脚部は短く太い。 底部は半月形を呈す。	胎土 細。微砂粒を 少々含む。 色調 淡茶灰色～褐 色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	A区黒褐色粘質土	
27	13	土師質土器 脚付环形土器	口径 8.0 脚部高 4.3 底部径 3.0	脚部は短く太い。 底部は半月形を呈す。	胎土 細砂粒を多く 含む。 色調 淡茶灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	F区黒褐色粘質土下 層	
27	14	上脚質土器 脚付环形土器	口径 9.6 脚部高 3.6 底部径 6.6	つづみ形を呈す。脚 部は短く、やや内側 気味に開く。	胎土 粗。1cm程 度の小砂粒を多く 含み、5mm程の 砂粒も含む。 色調 淡茶色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	C区西北壁強区 黒褐色粘質土	
27	15	土师質土器 脚付环形土器	L径 7.9 脚部高 3.0 底部径 5.1	つづみ形を呈す。脚 部は短い。 底部は半球形をなす。	胎土 細。微砂粒を 少々含む。 色調 淡茶色～褐 色 焼成 良好	内外面とも均斬ナデ。 底部は回転糸切り。	A区黒褐色粘質土上 層	
27	16	土师質土器 脚付环形土器	底部径 4.6 脚部高 2.1	つづみ形を呈す。 くびれ部は不明瞭。	胎土 微砂粒を多く 含む。 色調 淡茶色～灰 色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	E区黒褐色粘質土下 層	

P	標識番号	器種	法重 kg	形態の特徴	胎土・焼成 手法の特徴	出土 地点	備考
27	23-17	土師質土器 脚付环形土器	底面径 4.9 脚部高 2.3	つづみ形を呈す。	胎土、微砂粒を多く含む 色調 淡茶灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ 底部は回転糸切り。	E区黒褐色粘土下層
28	24-1	土師質土器 脚付环形土器	底面径 8.1 脚部高 3.5	つづみ形を呈し、太い脚部をもつ。	胎土、微砂粒を含む。 色調 淡茶灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ 底部は回転糸切り。	E区黒褐色粘土下層
28	2	土師質土器 脚付环形土器	底面径 7.3 脚部高 3.2	つづみ形を呈し、太い脚部をもつ。	胎土、小砂粒少々と 微砂粒多く含む。 色調 淡茶灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ 底部は回転糸切り。	C区内黒褐色粘土上 下層
28	3	土師質土器 脚付环形土器	底面径 6.7 脚部高 3.3	つづみ形を呈し、太い脚部をもつ。 底部は直線的に聞く。	胎土、微砂粒を多く含む。 色調 白灰色～灰褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	F区黒褐色粘土構
28	4	土師質土器 脚付环形土器	底面径 7.6 脚部高 3.6	つづみ形に近く、脚部は太い。 环形は直線的に聞く。	胎土、薄い、0.5mm程度の微砂粒少々と 砂粒を多量に含む。 色調 灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	E区砂礫層
28	5	土師質土器 脚付环形土器	底面径 7.3 脚部高 2.9	つづみ形を呈し、脚部は太い。	胎土、微砂粒を多く含む。 色調 淡灰褐色～暗褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	D区砂礫地
28	6	土師質土器 脚付环形土器	底面径 7.7 脚部高 3.7	つづみ形を呈し、脚部は太い。	胎土、1mm前後の小 砂粒と微砂粒を 多く含む。 色調 淡茶灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	C区灰褐色粘土下層 粘土下層
28	7	土師質土器 脚付环形土器	底面径 7.3 脚部高 3.2	つづみ形を呈し、脚部は太い。 环形はやや内湾気味に聞く。	胎土、1mm前後の小 砂粒少々と微砂粒 を多く含む。 色調 淡灰褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	A区黒褐色粘土上 内部に灰付 着。
28	8	土師質土器 脚付环形土器	底面径 7.5 脚部高 3.3	つづみ形を呈し、脚部は太い。 环形はやや内湾気味に聞く。	胎土、1mm前後の小 砂粒少々と微砂粒 を多く含む。 色調 淡灰褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	C区東黒褐色粘土 下層
28	9	土師質土器 脚付环形土器	底面径 7.7 脚部高 3.5	つづみ形を呈し、脚部は太い。 环形はやや内湾気味に聞く。	胎土、1mm前後の小 砂粒と微砂粒を 多く含む。 色調 淡灰褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	F区黒褐色粘土上 下層
28	10	土師質土器 脚付环形土器	底面径 7.7 脚部高 3.9	つづみ形を呈し、脚部は太い。 环形はほぼ直線的に聞く。	胎土、1mm前後の小 砂粒を多く含む。 色調 淡茶色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	E区黒褐色粘土上 層
28	11	土師質土器 脚付环形土器	底面径 4.7 脚部高 4.2	つづみ形を呈し、脚部は太い。 环形はほぼ直線的に聞く。	胎土、微砂粒を多量 に含む。 色調 淡茶色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は回転糸切り。	C区東黒褐色粘土上 下層
29	25-1	土師質土器 高台付环形 土器	高台径 4.3 高台高 1.0	断面正三角形状の太い低い高台が付く。	胎土、微砂粒を多量 に含む。 色調 淡茶色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は糸切りによる 切り離し。高台は貼 り付け。	D区砂礫層
29	2	土師質土器、高台付环形 土器	高台径 5.1 高台高 0.7	断面正三角形状の太い低い高台が付く。	胎土、1mm前後の小 砂粒少々と微砂粒 を多量に含む。 色調 淡茶色 焼成 良好	内外面とも回転ナデ。 底部は糸切りによる 切り離し。高台は貼 り付け。	E区暗灰褐色砂質粘 土上

P	検査番号	基準	法量 kg	形態の特徴	胎土・焼成	手法の特徴	出土地点	備考
29	25-3	上加賀土器 高台付环形 土器	口径 0.9 高台径 3.1 高台高 0.6	断面正三角形状の太めの低い高台が付く。 环部は瘦く、部上方にまっすぐ伸びる。	胎土：薄。わずかに微砂粒を含む。 色調：淡灰色。 焼成：良好。	内外面とも回転ナデ。 底部は手切りによる切り離し。高台は貼り付け。	E区地山面	
29	4	上加賀土器 高台付环形 土器	高台径 4.9 高台高 0.6	断面正三角形状の太めの低い高台が付く。	胎土：2~3mm程度の砂粒と微粉粒を多量に含む。 色調：淡赤褐色。 焼成：良好。	内外面とも回転ナデ。	B区内地山面	
29	5	上加賀土器 高台付环形 土器	口径 11.0 高台径 3.8 高台高 5.4 高台高 0.7	「へ」の字状の低めの高台が付く。 体部は丸身を複びる。	胎土：1mm前後の小砂粒を多く含む。 色調：淡灰褐色。	内外面とも回転ナデ。 底部は手切りによる切り離し。高台は貼り付け。	C区東側褐色粘質土下層	
29	6	土師質土器 高台付环形 土器	高台径 0.7 高台高 0.6	「へ」の字状の低めの高台が付く。	胎土：微砂粒を多量に含む。 色調：淡灰色~淡黄。	内外面とも回転ナデ。 底部は回転手切りによる切り離し。高台は貼り付け。	D区北壁	
29	7	土師質土器 高台付环形 土器	高台径 6.8 高台高 0.9	「へ」の字状の低めの高台が付く。	胎土：わずかに微砂粒を含む。	内外面とも回転ナデ。 底部は手切りによる切り離し。高台は貼り付けのち削除ナデ。	B区西端褐色粘質土	
29	8	上加賀土器 高台付环形 土器	高台径 7.5 高台高 1.0	「へ」の字状の低めの高台が付く。	胎土：1mm前後の小砂粒を含む。 色調：淡赤褐色。	内外面とも回転ナデ。 底部は手切りによる切り離し。高台は貼り付け。	F区黒褐色粘質土下層	
29	9	上加賀土器 高台付环形 土器	高台径 7.5 高台高 0.9	「へ」の字状の低めの高台が付く。	胎土：薄。微砂粒をわずかに含む。 色調：灰褐色。	内外面とも回転ナデ。 底部は回転手切りにより切り離し。高台は貼り付け。	F区砂礫層	
29	10	土師質土器 高台付环形 土器	高台径 6.3 高台高 0.5	「へ」の字状の低めの高台が付く。 环部は内窓状に立ち上がる。	胎土：微砂粒を多く含む。 色調：淡色。	内外面とも回転ナデ。 底部は手切りによる切り離し。高台は貼り付け。	C区内地山面	
29	11	土師質土器 高台付环形 土器	高台径 6.9 高台高 0.7	「へ」の字状の低めの高台が付く。	胎土：1mm以下の小砂粒を多量に含む。 色調：淡灰色~褐色。	外表面回転ナデ。 内部でうら書きを施す。底面は手切りによる切り離し。高台は貼り付けのち回転ナデ。	F区砂礫層	
29	12	土師質土器 高台付环形 土器	口径 9.4 高台径 3.1 高台高 5.9 高台高 1.8	「へ」の字状の鉗頭状の高台が付く。 环部は直線的に斜行する。	胎土：薄。砂粒はほとんど認められない。 色調：淡褐色。	内外面とも回転ナデ。	D区東側褐色粘質土下層	
29	13	土師質土器 高台付环形 土器	高台径 7.0 高台高 1.8	「へ」の字状の鉗頭状の高台が付く。 环部は直線的に斜行する。	胎土：微砂粒を多量に含む。 色調：淡茶褐色。	内外面とも回転ナデ。	E区地山面	
29	14	上加賀土器 高台付环形 土器	高台径 5.2 高台高 0.9	細長い高台が外向きに付く。 环部は逆「へ」の字状に大きく開く。	胎土：微砂粒を多量に含む。 色調：淡茶褐色。	内外面とも回転ナデ。	C区黒褐色粘質土下層	
29	15	土師質土器 高台付环形 土器	高台径 8.0 高台高 2.0	細長い高台が外向きに付く。 环部は逆「へ」の字状に大きく開く。	胎土：微砂粒を多量に含む。 色調：淡茶褐色~淡灰色。	内外面とも回転ナデ。 底面は手切りによる切り離し。高台は貼り付け。	E区黒褐色粘質土F層	
29	16	上加賀土器 高台付环形 土器		环部は内窓気味に立ち上がる。	胎土：薄い。1mm程度の石英粒を多く含む。 色調：淡茶褐色。	内外面とも回転ナデ。 底部は手切りによる切り離し。高台は貼り付け。	C区西端褐色粘質土下層	

P	機器番号	器種	法量 km	形態の特徴	施工・造成	手法の特徴	出土地點	備考
29	25-17	土耕質上器 高台付地形 土器		環部は内高気味に立ち上がる。	粘土。2mm程度の砂粒を少々と微砂粒を含む。 色調 淡赤褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナダ。底部は糸切りによる切り離し。高台は貼り付け。	D区西地山面	
29	18	土耕質上器 高台付地形 土器	西台径 8.0 西台高 1.1	「ハ」の字状に大きく聞く高台を付ける。	粘土。1mm程度の砂粒を少々含む。 色調 淡茶色 焼成 良好	内外面とも回転ナダ。底部は糸切りによる切り離し。高台は貼り付け。	C区砂礫層下層	
29	19	土耕質上器 高台付地形 土器	高台径 7.7 高台高 1.1	「ハ」の字状に大きく聞く高台を付ける。	粘土。粗い。1mm前後の小砂粒を多量に含む。 色調 淡茶色 焼成 良好	内外面とも回転ナダ。底部は糸切りによる切り離し。高台は貼り付け。	C区砂礫層	
29	20	土耕質上器 高台付地形 土器	高台径 9.5 高台高 1.6	「ハ」の字状に大きく聞く高台を付ける。	粘土。1~2mm程度の砂粒を含む。 色調 淡茶灰色で一部灰黒色と赤褐色 焼成 良好	内外面とも回転ナダ。底部は糸切りによる切り離し。高台は貼り付け。	D区西地山面	
29	21	土耕質上器 高台付地形 土器		「ハ」の字状に大きく聞く高台を付ける。	粘土。粗い。微砂粒を多量に含む。表面はざらつく。 色調 淡茶色 焼成 良好		D区西地山面	
29	22	土耕質上器 高台付地形 土器		環部はやや内高気味に立ち上がる。	粘土。2~4mm程度の砂粒を少々と微砂粒を多量に含む。 色調 淡赤褐色 焼成 良好		D区西地山面	
29	23	土耕質上器 高台付地形 土器	西台径 9.0 西台高 1.9	「ハ」の字状に大きく聞く高台を付ける。 環部はやや内高気味に立ち上がる。	粘土。粗い。微砂粒をわずかに含む程度。 色調 淡茶灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナダ。底部は糸切りによる切り離し。高台は貼り付け。	C区西地山面 黒褐色粘質土下層	
29	24	土耕質上器 高台付地形 土器		環部はゆるやかに立ち上がる。	粘土。粗い。1mm前後の砂粒を多量に含む。 色調 淡茶色 焼成 良好	外側 回転ナダ。 内側でへら書きを施す。 高台は貼り付け。	D区里褐色粘質土下層	
29	25	土耕質上器 高台付地形 土器		細長い高台が外向きに行く。	粘土。1mm前後の小砂粒を含む。 色調 淡茶色で一部灰黒色 焼成 良好	内外面とも回転ナダ。底部は糸切りによる切り離し。高台は貼り付け。	D区地山面	
29	26	土耕質上器 高台付地形 土器		環部は逆「ハ」の字状に大きく広がる。	粘土。微砂粒を多く含む。 色調 淡褐色で一部淡茶灰色 焼成 良好	内外面とも回転ナダ。底部は糸切りによる切り離し。高台は貼り付け。	E区黒褐色粘質土下層	
29	27	土耕質上器 高台付地形 土器	口径 15.4	環部は逆「ハ」の字状に大きく広がる。	粘土。微砂粒を少量と1mm程度の小砂粒を含む。 色調 淡茶色 焼成 良好	内外面とも回転ナダ。底部内面回転ナダ。	E区黒褐色粘質土下層	
29	28	土耕質上器 高台付地形 土器		環部は逆「ハ」の字状に大きく広がる。	粘土。内面に多量の微砂粒を含む。 色調 淡茶灰色 焼成 良好	环部内外面回転ナダ。底部外面回転ナダ。	D区東地山面	
29	29	土耕質上器 高台付地形 土器	口径 15.3	環部は逆「ハ」の字状に大きく広がる。	粘土。微砂粒を多く含む。 色調 灰白色 焼成 良好	内外面とも回転ナダ。底部は層巣が著しく調整不明。	E区黒褐色粘質土	

P	標	種	法	形	態	の	特	性	土・質	手	方	の	特	出	土	地	点	備
36	26-1	白 磁	口径 14.0	分厚い玉縁をもつ。	碗上 黒い微砂粒を含む。 釉調 とび色帯びた 焼成 良好 堅緻						C 区北壁板張区黒褐色粘質土下層							
36	2	白 磁	口径 14.8	分厚い玉縁をもつ。	磁土 黒い微砂粒を含む。 釉調 黄灰色 焼成 良好 堅緻						C 区北壁板張区黒褐色粘質土下層	内外面ともに小さな貫入あり。						
36	3	白 磁	口径 11.8	分厚い玉縁をもち、 体部は斜上方に直線的にのびる。	磁土 黒い微砂粒を含む。 釉調 とび色帯びた 焼成 良好 堅緻						E 区黒褐色粘質土外表面にはヘラ削りの痕跡がみられる。							
36	4	白 磁	口径 15.6	分厚い玉縁をもつ。	磁土 黒い微砂粒を含む。 釉調 とび色帯びた 焼成 良好 堅緻						A 区黒褐色粘質土							
36	5	白 磁	口径 16.0	分厚い玉縁をもち、 体部は斜上方にのびる。	磁土 黒い微砂粒を含む。 釉調 灰白色 焼成 良好 堅緻						D 区黒褐色粘質土外表面にはヘラ削りの痕跡がみられる。							
36	6	白 磁	口径 16.2	分厚い玉縁をもち、 体部は斜上方にのびる。	磁土 黒い微砂粒を含む。 釉調 とび色帯びた 焼成 良好 堅緻						B 区黒褐色粘質土外表面にはヘラ削りの痕跡がみられる。層	外面上に大きな貫入あり。						
36	7	白 磁	口径 16.2	分厚い玉縁をもち、 体部は斜上方にのびる。	磁土 やわらか 黄褐色をわずかに含む。 釉調 黄灰色 焼成 灰白色 堅緻						E 区砂礫層	内外面に貫入あり。						
36	8	白 磁	口径 16.4	分厚い玉縁をもち、 体部は斜上方にのびる。	磁土 黒い微砂粒を含む。 釉調 とび色帯びた 焼成 良好 堅緻						E 区黒褐色粘質土下層							
36	9	白 磁	口径 17.0	分厚い玉縁をもち、 体部は斜上方にのびる。	磁土 黒い微砂粒を含む。 釉調 とび色帯びた 焼成 良好 堅緻						A 区黒褐色粘質土							
36	10	白 磁	口径 16.8	分厚い玉縁をもち、 体部は斜上方にのびる。	磁土 やや粗い。灰白色 焼成 良好 堅緻						F 区黒褐色粘質土下層	内外面ともに貫入あり。						
36	11	白 磁	口径 16.8	やや厚めの玉縁をもつ。	磁土 黒い微砂粒を含む。 釉調 とび色帯びた 焼成 良好 堅緻						E 区砂礫層下層	内外面ともに貫入あり。						
36	12	白 磁	口径 19.0	玉縁はがく、体部は 斜上方にやや内凹気味 に立ち上がる。	磁土 黒い微砂粒を含む。 釉調 とび色帯びた 焼成 良好 堅緻						E 区黒褐色粘質土下層	体面下半部には施釉されない。						
36	13	白 磁	口径 19.0	玉縁は市広で薄く、 体部はやや内凹気味 に立ち上がる。	磁土 黒い微砂粒を含む。 釉調 淡灰色 焼成 良好 堅緻						K 区黒褐色粘質土中層	外面上に貫入あり。 体面下半部には施釉されない。						
36	14	白 磁	口径 18.0	小さな玉縁をもち、 体部はやや内凹気味 に立ち上がる。	磁土 黒い微砂粒を含む。 釉調 黄味がかった 焼成 良好						F 区黒褐色粘質土下層	内外面ともに貫入あり。						

P	検査番号	器種	法面寸	形態の特徴	地土・焼成	手法の特徴	出土堆点	備考
36	26-15	白 磁 碗	口径 15.6	小さな下縁をもち、体部はやや内凹気味に立ち上がる。	磁土 黒い微砂粒をわずかに含む。 釉調 とび色を帯びた灰白色 焼成 良好	窯都 黒い微砂粒を含む。灰白色 焼成 良好	D区東黒褐色粘質土下層	内外面ともに貫入あり。
36	16	白 磁 碗	口径 14.9	体部はほぼ直線的にのび、端部は丸く仕上げる。	磁土 黒い微砂粒を含む。 釉調 とび色を帯びた灰白色 焼成 良好	窯都 黒い微砂粒を含む。灰白色 焼成 良好	E区西黒褐色粘質土	体部下半部には施釉されない。
36	17	白 磁 碗	口径 16.4	体部はほぼ直線的にのび、端部は丸く仕上げる。	磁土 黒い微砂粒を含む。 釉調 とび色を帯びた灰白色 焼成 良好	窯都 黒い微砂粒を含む。灰白色 焼成 良好	E区黒褐色粘質土下層	体部下半部に施釉されない。
36	18	白 磁 碗	口径 14.0	体部は外方向に開き、口縁部はゆるやかに外反する。	磁土 黒い微砂粒を含む。 釉調 灰褐色 焼成 良好	窯都 黒い微砂粒を含む。 釉調 灰褐色 焼成 良好	D区東山西	内面がかなり崩壊する。
36	19	白 磁 碗	口径 14.0	口縁部は「く」の字状に外反する。	磁土 黒い微砂粒を含む。 釉調 オリーブがかかった灰白色 焼成 良好	窯都 黒い微砂粒を含む。 釉調 オリーブがかかった灰白色 焼成 良好	C区西北黒褐色粘質土	
36	20	白 磁 小 形 瓶	口径 5.0	体部は丸身を帯び、口縁部が軽く屈曲する。	磁土 やや粗い。 釉調 淡白色 焼成 良好	窯都 やや粗い。 釉調 淡白色 焼成 良好	H区黒褐色粘質土下層	内外面に大きめの貫入あり。
36	21	龍泉窯系 青 磁 碗	口径 16.3	体部は内凹気味に立ち上がり、端部は丸くおさめる。	磁土 黒い微砂粒を含む。 釉調 黄褐色 焼成 良好	窯都 送達され難かい。 釉調 黄褐色 焼成 良好	C区西黒褐色粘質土	内外面に細かな貫入あり。
36	27-1	白 磁 碗	底座径 6.5	高台の外側は垂直に内面は斜めにつくる。底面内面に一条の沈線を入れる。	磁土 黒い微砂粒を多く含む。 釉調 灰白色 焼成 良好	窯都 黒い微砂粒を多く含む。 釉調 灰白色 焼成 良好	A区東黒褐色粘質土	体部下半部には施釉されない。
37	2	白 磁 碗	底座径 6.4	高台の外側は垂直に内面は斜めにつくる。底面内面に一条の沈線を入れる。	磁土 黒い微砂粒を多く含む。 釉調 灰白色 焼成 良好	窯都 黒い微砂粒を多く含む。 釉調 灰白色 焼成 良好	B区東黒褐色粘質土上層	内面に貫入あり。体部下半部には施釉されない。
37	3	白 磁 碗	底座径 6.1	底面の幅広い高台が付く。	磁土 やや粗い。 釉調 黄褐色 焼成 良好	窯都 やや粗い。 釉調 黄褐色 焼成 良好	C区西北黒褐色粘質土	内外面ともに貫入あり。高台で施釉される。
37	4	白 磁 碗	底座径 6.4	高台で直立した高台が付く。内面込込みに腹をもつ。体部は内凹気味に立ち上がる。	磁土 黒い微砂粒を含む。 釉調 黄褐色 焼成 良好	窯都 黒い微砂粒を多く含む。 釉調 黄褐色 焼成 良好	C区東黒褐色粘質土下層	高台を施釉される。
37	5	白 磁 碗	底座径 7.0	高台の外側は垂直に内面は斜めにつくる。	磁土 黒い微砂粒を多く含む。 釉調 灰白色 焼成 良好	窯都 黒い微砂粒を多く含む。 釉調 灰白色 焼成 良好	B区東黒褐色粘質土	内外面ともに細かな貫入あり。体部下部に施釉される。
37	6	越州系 青 磁 碗	底座径 4.0	底面には細くて低い高台が付く。	磁土 精選され難かい。 釉調 オリーブ色 焼成 良好	窯都 黒い微砂粒を含む。 釉調 黄褐色 焼成 良好	C区東黒褐色粘質土上下層	内外面ともに大きめの貫入がある。全周に施釉される。
37	7	白 磁 皿	底座径 3.4	底面は上げ底気味で斜上方に立ち上がる。	磁土 やや粗い。 釉調 黄褐色 焼成 良好	窯都は回転へきり。	C区西黒褐色粘質土下層	内外面ともに細かな貫入がある。施釉が苦しい。体部下半部には施釉されない。

# 石 器 一 覧 表

P	排図番号	器 種	造形状態	材 質	長さ	巾	厚さ	重さ	出 土 地 点	
36	28-1	石 墓	一部欠	黒 墓 石	2.1	1.5	0.3	(0.9)	C区東黒褐色粘質土上	
36	2	-	完 形 品	-	1.75	1.3	0.4	0.6	B区黒褐色粘質土堆山面	
36	3	-	一部欠	-	1.75	1.1	0.3	(0.4)	C区東黒褐色粘質土	
36	4	-	-	砂質砂岩	2.3	1.8	0.4	(1.3)	C区東黒褐色粘質土	
36	5	-	-	-	(1.8)	1.6	0.4	(1.0)	C区東黒褐色粘質土	
36	6	-	完 形 品	-	1.8	1.55	0.6	1.5	C区東黒褐色粘質土	
36	7	-	(未成品)	-	-	2.1	1.6	0.35	1.0	C区東黒褐色粘質土
36	8	-	-	-	-	1.5	1.5	0.4	0.6	C区西堆山面
36	9	-	(未成品)	-	-	2.0	1.3	0.4	1.2	C区東黒褐色粘質土
36	10	-	一次加工のある剖片	黒 墓 石	2.1	1.85	0.55	1.4	C区東黒褐色粘質土	
36	11	楔形石器	-	-	2.5	1.6	0.8	2.9	C区東黒褐色粘質土	
36	12	-	二次加工のある剖片	-	2.4	1.4	0.9	3.25	E区黒褐色粘質土	
36	13	-	-	-	2.35	1.9	0.8	2.8	F区黒褐色粘質土	
36	14	-	-	-	2.3	2.1	0.5	3.4	A区黒褐色粘質土	
39	29-1	-	-	-	3.4	2.2	0.9	5.4	C区東黒褐色粘質土	
39	2	石 核	-	-	2.8	2.7	1.05	7.25	C区東黒褐色粘質土	
39	3	-	-	-	4.6	2.6	1.5	14.55	C区東黒褐色粘質土	
39	4	未成品	-	-	3.1	2.1	1.0	5.85	C区西堆山面	
39	5	-	-	-	2.4	2.0	0.85	5.75	F区黒褐色粘質土	
39	6	-	-	-	3.6	1.9	0.6	3.05	E区堆山面	
39	7	-	-	-	4.0	2.5	0.9	8.1	D区溝塗黒褐色粘質土	
40	30-1	右刃に近い剖片	-	瑪 塔 石	3.7	2.6	0.6	6.9	E区黒褐色粘質土	
40	2	スクレイバー	-	黒 墓 石	3.5	3.0	0.8	8.95	E区黒褐色粘質土	
40	3	-	(未成品)	玉 磬	5.1	3.2	1.9	32.15	E区堆山面	
40	4	不定形のスクレイバー	-	黒 墓 石	5.8	3.4	1.1	20.45	C区東黒褐色粘質土	
41	31-1	打製石斧	刀 部 欠	流 破 岩	(17.9)	10.1	2.2	(450)	E区黒褐色粘質土	
41	2	-	-	-	(14.4)	8.1	3.0	(470)	C区東黒褐色粘質土	
41	3	-	頭 部 欠	細粒砂岩	(16.5)	8.5	2.7	(470)	E区黒褐色粘質土	
41	4	-	完 形 品	流 破 岩	16.3	8.0	2.7	510	A区黒褐色粘質土	
41	5	-	刀 部 欠	-	(12.4)	8.8	1.6	(265)	C区東黒褐色粘質土	
41	6	-	(未成品)	頭 部 欠	ホルゾ フェルス	(11.9)	7.8	3.0	(310)	E区堆山面
41	7	-	刀 部 欠	網粒砂岩	(8.9)	7.3	1.9	(190)	F区黒褐色粘質土	
41	8	-	刀 部 欠	ホルゾ フェルス	(8.2)	7.0	2.1	(170)	E区堆山面	
41	9	-	頭 部 欠	不 明	(12.6)	9.3	1.9	(290)	D区黒褐色粘質土	
42	32-1	-	完 形 品	-	13.9	9.1	2.4	295	C区東黒褐色粘質土	
42	2	-	刀 部 欠	ホルゾ フェルス	(8.0)	7.5	3.0	(220)	C区東黒褐色粘質土	
42	3	-	(未成品)	刀 部 欠	-	(9.4)	6.8	2.1	(220)	D区堆山面

P	推定番号	器種	遺存状態	材質	長さ	巾	厚さ	重さ	出土地點
42	32-4	打製石斧	完形品	粗粒砂岩	11.8	6.6	2.4	225	C区東黒褐色粘質土
42	5	"	頭部欠	褐色砂岩	(9.8)	7.2	2.1	(160)	C区西黒褐色粘質土
42	6	" (未成品)	刃部欠	泥岩	(7.7)	6.6	2.0	(140)	C区東黒褐色粘質土
42	7	" (未成品)	完形品	"	13.0	6.8	2.8	270	C区西黒褐色粘質土
42	8	スクレイバー	"	黑色頁岩	7.3	5.9	1.4	70	C区西地山面
42	9	"	"	"	6.0	4.7	1.55	45	F区暗灰褐色砂質土
42	10	" (未成品)	一部欠	綠色凝灰岩	(7.0)	5.0	1.6	(65)	C区東黒褐色粘質土
42	11	石製石器	完形品	粘板岩	7.5	4.3	0.8	24.7	E区地山面
43	33-1	石包丁(未成品)	"	千枚岩	10.4	6.1	1.1	85	E区黒褐色粘質土
43	2	"	破片	波紋岩	(7.0)	(6.8)	0.65	(30)	B区地山面
43	3	" (未成品)	一部欠	褐色凝灰岩	(10.1)	5.8	1.2	(80)	E区地山面上面
43	4	石鏟	刃欠	ホルソ フェルス	(9.9)	(5.2)	0.8	(40)	A区黒褐色粘質土
43	5	石劍	破片	結晶片岩	(4.5)	3.1	0.65	(15.95)	E区黒褐色粘質土
43	6	石劍	"	結晶岩	(3.0)	(2.9)	1.5	(18.4)	A区黒褐色粘質土
43	7	磨製石斧	完形品	黑雲母岩	11.2	4.6	3.1	240	A区黒褐色粘質土
43	8	"	刃部欠	細粒砂岩	(8.8)	4.9	3.3	(245)	C区東黒褐色粘質土
43	9	"	刃欠	珪質砂岩	(9.9)	6.3	3.9	(410)	F区黒褐色粘質土
43	10	磨製石斧	破片	波紋岩	(6.4)	6.1	(1.9)	(100)	C区東黒褐色粘質土
43	11	"	頭部欠	粗粒砂岩	(8.6)	4.9	3.2	(235)	E区黒褐色粘質土
43	12	"	完形品	"	13.3	6.4	5.3	720	C区東黒褐色粘質土
44	34-1	" (未成品)	"	粗粒砂岩	6.7	4.8	2.6	125	B区西地山面
44	2	柱狀片刃石斧	"	"	8.5	3.0	2.6	90	A区黒褐色粘質土
44	3	麻石	"	砂岩	7.8	5.2	2.7	160	C区西黒褐色粘質土
44	4	環狀石斧	刃欠	ホルソ フェルス	(6.3)	(4.3)	2.1	(75)	C区東黒褐色粘質土
44	5	不明	完形品	粗粒砂岩	6.4	4.3	2.1	50	E区黒褐色粘質土
44	6	石錐	刃欠	粘板岩	(6.8)	6.3	0.6	(40)	E区黒褐色粘質土
44	7	石鏟	完形品	不明	6.2	5.5	1.8	57.5	C区東黒褐色粘質土
44	8	"	"	粗粒砂岩	6.4	6.3	0.8	49.5	A区黒褐色粘質土
44	9	"	"	ホルソ フェルス	9.2	7.0	1.1	121.2	E区地山面
44	10	"	一部欠	不明	(5.9)	5.6	1.0	(42.3)	C区東黒褐色粘質土
44	11	"	完形品	珪質砂岩	5.5	5.2	1.3	53	D区溝黒褐色粘質土
44	12	"	刃欠	不明	(5.5)	(5.2)	1.0	(60)	E区黒褐色粘質土
47	35-1	鐵石	刃欠	結晶岩	(6.5)	6.4	3.5	(165)	E区黒褐色粘質土
47	2	"	一部欠	粗粒砂岩	(7.7)	4.2	3.0	(140)	F区黒褐色粘質土
47	3	"	"	波紋岩	(13.7)	(10.0)	4.5	(545)	C区東黒褐色粘質土
47	4	"	"	珪質砂岩	(6.2)	4.5	2.4	(85)	F区黒褐色粘質土
47	5	"	破片	粗粒砂岩	(5.7)	(2.6)	2.6	(65)	F区黒褐色粘質土
47	6	"	一部欠	波紋岩	(18.0)	(11.4)	8.0	(1875)	E区黒褐色粘質土
47	7	"	破片	不明	(6.3)	(6.0)	3.8	(110)	A区黒褐色粘質土

戸	井筒番号	部	種	地質状態	材質	高さ	巾	厚さ	重さ	出土地点
47	35 - 8	砥石		一部欠起	岩	(7.8)	7.8	7.0	(430)	C区東端褐色粘質土
48	36 - 1	"		另欠	"	(12.1)	(12.1)	3.4	(720)	C区東端褐色粘質土
48	2	"		"	"	(13.8)	10.5	3.1	(650)	C区東端褐色粘質土
48	3	"		片山欠	難成岩 細粒砂岩	19.0	12.4	(5.2)	(1300)	E区黒褐色粘質土
48	4	"		一部欠	細粒砂岩	(9.7)	5.1	2.6	(195)	C区東端褐色粘質土
48	5	"		破片	泥岩	(8.5)	(5.9)	6.5	(490)	E区地山面下
48	6	磨石		"	硬砂岩	(8.7)	(8.4)	(2.1)	(125)	E区黒褐色粘質土
48	7	"		"	玄武岩	(4.4)	7.6	4.9	(240)	B区西地山面
48	8	"		"	"	(6.2)	(5.3)	(1.5)	(50)	C区東端褐色粘質土
49	37 - 1	石炭		一部欠	黑雲母 安山岩	10.2	9.3	5.8	(660)	C区東端褐色粘質土
49	2	"		另欠	流紋岩	(6.9)	7.7	3.6	(250)	F区黒褐色粘質土
49	3	"		変形品	安山岩	16.6	10.4	5.6	(1230)	A区黒褐色粘質土
49	4	"		"	細粒砂岩	18.3	11.0	10.0	2800	A区黒褐色粘質土
49	5	"		另欠	安山岩	(14.9)	15.3	5.4	(1870)	A区黒褐色粘質土
50	38 - 1	管玉磨切(未成品)		一部欠	細粒砂岩	(6.8)	5.2	1.1	(50)	E区地山面
50	2	"		"	綠色細沃岩	(4.2)	(3.4)	0.5	(13.2)	F区暗灰褐色粘質土
50	3	"		"	"	(3.9)	2.2	0.8	(10.3)	A区黒褐色粘質土
50	4	管玉(未成品)	元形品	"	"	1.3	0.65	0.6	1.1	C区東端褐色粘質土
50	5	勾玉	"	玉	錐	2.7	1.5	0.7	3.38	C区東端褐色粘質土

### 註

○ 単位はcm及びm、( )を付したものは現行値を示す。

○ 材質は三島欣二氏の御教示による。

# 土 錘 計 測 表

P	辨认番号	高 度	深 度	孔 径	重 量	出 土 地 点	備 考
54	44-1	5.3	1.05	0.4	5.56	C区西黑褐色粘质土中层	完形品
54	2	5.0	1.1	0.4	6.4	C区西黑褐色粘质土中层	
54	3	5.0	1.0	0.4	4.66	C区西黑褐色粘质土中层	
54	4	4.0	0.9	0.4	3.1	C区西黑褐色粘质土	
54	5	4.2	1.1	0.35	4.9	C区西黑褐色粘质土	指领庄底
54	6	4.55	1.05	0.5	4.52	E区黑褐色粘质土下层	指领庄底
54	7	3.9	1.05	0.4	3.5	E区黑褐色粘质土下层	指领庄底
54	8	4.6	1.3	0.4	6.1	E区黑褐色粘质土下层	指领庄底
54	9	4.1	1.2	0.5	4.97	C区西黑褐色粘质土中层	指领庄底
54	10	3.5	1.0	0.5	2.6	E区黑褐色粘质土下层	
54	11	3.9	2.2	0.8	14.3	C区西黑褐色粘质土	
54	12	4.2	2.2	0.85	16.82	E区黑褐色粘质土下层	指领庄底
54	13	3.8	2.2	0.7	18.75	F区黑褐色砂质粘土	
54	14	3.3	1.5	0.4	6.56	C区东黑褐色粘质土上层	完形品 指领庄底
54	15	3.7	1.5	0.55	8.85	E区黑褐色粘质土中层	指领庄底
54	16	3.7	1.4	0.4	8.3	E区黑褐色粘质土下层	
54	17	3.45	1.65	0.4	7.7	E区黑褐色粘质土	
54	18	3.7	1.7	0.6	11.9	E区黑褐色粘质土下层	指领庄底
54	19	4.0	1.6	0.4	9.3	E区黑褐色粘质土下层	指领庄底
54	20	4.2	1.55	0.7	4.5	C区东黑褐色粘质土	
54	21	4.1	1.65	0.55	10.52	E区黑褐色粘质土下层	指领庄底
54	22	4.07	1.6	0.5	9.87	E区黑褐色粘质土下层	
54	23	4.25	1.6	0.45	8.0	C区西端山面	
54	24	4.25	1.7	0.55	11.2	F区焦灰褐色砂质粘土层	
54	25	4.2	1.8	0.55	11.5	A区黑褐色粘质土	
54	26	4.3	1.65	0.7	20.6	C区西黑褐色粘质土下层	
54	27	4.4	2.0	0.95	19.6	E区黑褐色粘土下层	完形品
54	28	4.4	2.0	0.65	16.62	C区西黑褐色粘质土下层	完形品
54	29	4.3	1.8	0.6	13.3	F区焦黑褐色粘质土下层	
54	30	4.4	1.4	0.7	8.35	F区焦黑褐色粘质土中层	
54	31	4.3	2.1	0.6	16.27	E区黑褐色粘质土下层	完形品
54	32	4.5	1.9	0.6	15.1	C区西黑褐色粘质土下层	完形品
54	33	4.3	1.6	0.7	10.2	F区焦黑褐色粘质土中层	
54	34	4.4	1.9	0.7	18.7	C区西黑褐色粘质土下层	完形品 指领庄底
54	35	4.4	1.4	0.55	8.35	C区西黑褐色粘质土下层	指领庄底
54	36	4.35	1.95	0.65	15.5	A区黑褐色粘质土	

P	地层号	长	宽	孔	径	重	量	出	土	堆	点	借	考
54	44 - 37	4.7	1.65		0.65	10.0		F 区黑褐色粘质下层					
54	38	4.6	1.6		0.6	10.0		F 区黑褐色粘质中层				完形品	
54	39	4.8	1.7		0.65	11.86		C 区西黑褐色粘质土				完形品	指痕压痕
54	40	4.8	1.3		0.6	8.5		A 区暗褐色砂质粘土					
54	41	4.7	1.75		0.4	13.5		H 区西黑褐色粘质土					
54	42	4.7	1.6		0.4	10.12		F 区黑褐色粘质上中层				指痕压痕	
54	43	4.8	1.5		0.5	8.17		F 区黑褐色粘质土中层					
54	44	4.9	1.5		0.4	9.17		F 区黑褐色粘质土中层					
54	45	4.95	1.3		0.5	8.21		F 区黑褐色粘质土中层					
54	46	4.9	1.6		0.55	10.62		F 区黑褐色粘质土中层					
54	47	4.8	1.8		0.6	11.75		F 区黑褐色粘质土中层				完形品	
54	48	4.7	1.7		0.5	12.48		F 区黑褐色粘质土中层				完形品	
54	49	5.05	1.6		0.65	10.95		F 区黑褐色粘质土中层					
54	50	4.85	1.95		0.6	15.5		A 区深褐色粘土					
54	51	5.2	2.0		0.7	19.7		F 区黑灰褐色砂质粘土层					
54	52	4.8	2.0		0.8	17.1		F 区黑褐色粘质土中层					
54	53	5.0	1.8		0.5	16.15		C 区西黑褐色粘质土中层				指痕压痕	
54	54	4.8	1.9		0.6	14.0		B IX 黑褐色粘质土					
54	55	5.0	2.05		0.65	18.5		C 区更黑褐色粘质土					
54	56	5.25	2.0		0.55	18.0		B 区西暗褐色粘质土					
54	57	5.05	1.55	0.5 × 0.55	0.55	10.75		C 区西暗山面					
54	58	5.15	1.95		0.6	18.4		F 区黑褐色粘质土中层					
54	59	4.65	2.15		0.75	18.3		C IX 暗山面					
54	60	4.9	2.15		0.8	19.9		E 区黑褐色粘质土下层					
54	61	5.0	2.1		0.6	18.37		E 区黑褐色粘质土下层					
54	62	5.0	1.8		0.7	15.53		C IX 西黑褐色粘质土					
54	63	4.95	1.55		0.55	9.5		H 区东黑褐色粘质土					
54	64	5.0	1.5		0.5	9.0		F IX 黑褐色粘质土中层					
54	65	5.25	1.7		0.55	14.05		C 区东黑褐色粘质土下层					
54	66	5.0	1.55		0.45	11.7		E IX 黑褐色粘质土下层				完形品	
54	67	5.2	1.5		0.5	11.03		F IX 黑褐色粘质土中层				指痕压痕	
54	68	5.45	1.45		0.5	9.74		F 区黑褐色粘质土中层				指痕压痕	
54	69	5.2	1.75		0.5	13.05		D IX 黑褐色粘质土					
54	70	5.0	1.4		0.5	11.55		F 区黑褐色粘质土中层					
54	71	5.2	1.95		0.65	21.52		E IX 黑褐色粘质土中层					
54	72	5.0	1.95		0.7	17.67		C 区东黑褐色粘质土下层					
54	73	5.3	1.6		0.4	11.4		F 区黑褐色粘质土中层					
54	74	5.2	1.6		0.55	11.64		F 区黑褐色粘质土中层					
54	75	5.4	1.3		0.5	7.95		F 区黑褐色粘质土中层					

P	標図番号	長さ	径	孔深	重量	出土場所	備考
54	44 - 76	5.2	2.1	0.7	20.5	A区黒褐色粘質土	
54	77	5.25	2.0	0.55	18.0	C区黒褐色粘質土	
54	78	5.05	2.45	0.65	26.0	C区西北黒褐色粘質土中層	
54	79	5.1	2.5	0.7	26.0	A区端部黒褐色砂質粘質土	
54	80	5.3	1.7	0.5	14.2	C区西北壁柱区黒褐色粘質土上	完形品 指顎左痕
54	81	5.1	1.8	0.6	15.7	C区西北壁柱区黒褐色粘質土上	完形品 指顎左痕
54	82	5.8	1.5	0.5	11.3	F区黒褐色粘質土中層消	完形品 指顎左痕
54	83	5.7	1.9	0.7	21.1	H区砂薄層	完形品 指顎左痕
54	84	5.7	1.9	0.5	19.5	F区黒褐色粘質土中層消	完形品 指顎左痕
54	85	5.7	1.9	0.7	16.2	C区西北壁柱区黒褐色粘質土	指顎左痕
54	86	5.8	1.7	0.6	13.0	A区黒褐色粘質土	
54	87	5.7	1.7	0.5	18.6	C区東黒褐色粘質土下層	
54	88	5.8	2.0	0.6	22.5	C区東黒褐色粘質土下層	指顎左痕
54	89	6.4	1.9	0.7	23.3	F区黒褐色粘質土下層	
54	90	6.5	2.2	0.7	22.5	F区黒褐色粘質土上層	
54	91	6.8	2.2	0.6	27.2	C区西北壁柱区黒褐色粘質土上	完形品 指顎左痕
54	92	6.8	1.9	0.7 × 0.8	20.6	F区黒褐色粘質土中層	
54	93	9.9	3.7	1.3	137.89	E区黒褐色粘質土下層	指顎左痕
54	94	10.1	3.3	1.1	100.3	E区黒褐色粘質土上層	

## 註

○ 単位はcm及びgである。

○『海の中道遺跡』福岡市埋蔵文化財調査報告書第87集 福岡市教育委員会 昭和57年 を参考にした。

# 種子計測表

試験番号	長さ	巾	厚さ	重さ	種別	出土地区
31 - 1	2.30	1.90	1.65	2.90	モモ	A 区
2	2.35	1.80	1.50	2.50	×	〃
3	2.50	1.95	(0.8)	1.42	×	〃
4	2.50	1.83	1.36	1.72	×	〃
5	2.40	1.65	1.30	1.20	×	〃
6	3.05	2.20	1.65	3.90	×	〃
7	2.30	1.95	1.70	3.10	×	〃
8	2.60	1.98	1.50	3.14	×	〃
9	2.62	1.88	1.36	2.35	×	〃
10	2.62	1.72	1.23	2.14	×	〃
11	2.18	1.85	1.50	1.85	×	〃
12	2.10	1.87	1.60	2.03	×	〃
13	2.38	1.92	(0.82)	1.40	×	〃
14	2.49	1.83	1.50	1.83	×	〃
15	2.70	1.80	1.31	2.45	×	〃
16	2.51	1.82	1.50	2.64	×	〃
17	2.96	(2.80)	1.80	3.20	トナ	〃
18	2.88	2.10	1.53	2.82	モモ	〃
19	2.48	0.84	(0.82)	0.18	コナラ	〃
20	(2.81)	(2.22)	(0.84)	0.55	トナ	B 区
21	(1.21)	(0.68)	(0.49)	0.06	コナラ	〃
22	2.06	1.63	(0.61)	0.69	モモ	〃
23	1.31	0.80	0.76	0.11	コナラ	C 区
24	2.70	1.89	(0.67)	1.02	モモ	〃
25	2.86	1.85	1.45	2.85	×	〃
26	2.57	1.64	1.33	1.81	×	〃
27	2.30	2.00	1.46	2.27	×	〃
28	2.30	2.01	1.61	2.72	×	〃
29	2.53	1.93	1.42	2.30	×	〃
30	0.95	(0.60)	0.68	0.07	コナラ	〃
31	(0.82)	0.70	(0.60)	0.04	〃	〃
32	0.10	(0.65)	(0.45)	0.03	〃	〃
33	(1.05)	(0.96)	(0.64)	0.06	不明	〃
34	2.70	2.22	1.69	3.95	モモ	〃
35	2.72	1.98	1.44	2.82	×	〃
36	2.42	1.82	1.40	2.05	×	〃

記載番号	長さ	巾	厚さ	重さ	種別	出土地区
31 - 37	2.09	1.94	1.47	2.02	モモ	C 区
38	2.46	2.19	(0.83)	1.65	"	"
39	2.74	1.90	(0.70)	1.09	"	"
40	2.26	1.90	1.68	2.25	"	"
41	2.65	1.76	1.29	2.20	"	"
42	2.66	1.80	1.49	2.47	"	"
43	1.04	0.56	0.53	0.08	"	"
44	2.80	2.00	1.47	2.55	"	"
45	2.30	1.84	1.51	2.32	"	"
46	1.13	0.73	0.71	0.16	エゴ	"
47	2.04	1.84	1.46	1.75	モモ	"
48	1.98	1.50	1.23	1.38	"	"
49	3.13	1.90	1.34	2.91	"	"
50	2.54	1.89	1.38	2.42	"	E 区
51	2.50	1.59	1.30	1.99	"	"
52	2.82	2.08	1.51	2.49	"	"
53	2.72	2.18	1.70	3.27	"	"
54	1.74	1.08	1.12	0.32	ドングリ	"
55	1.63	0.89	0.84	0.11	"	"
56	2.42	1.83	1.50	2.67	モモ	"
57	2.55	1.80	1.39	2.18	"	"
58	2.31	1.90	1.41	1.93	"	F 区
59	2.39	2.01	1.51	2.78	"	"
60	2.32	1.79	1.39	1.43	"	"
61	2.82	2.70	2.34	2.33	トチ	"
62	2.42	1.59	1.30	1.88	モモ	"
63	2.35	1.85	1.39	2.28	"	D 区
64	2.18	1.80	1.41	2.13	"	"
65	(1.00)	0.63	(0.60)	0.10	エゴ	"

註

○単位はcm及びg、( )を付したものは現存値を示す。

○種別は直良信夫先生の御教示による。

図 版





石台遺跡近景（上流から）



石台遺跡近景（下流から）



発掘作業風景



C区東土層図



C 区 西 土 層 図



E 区 北 土 層 図



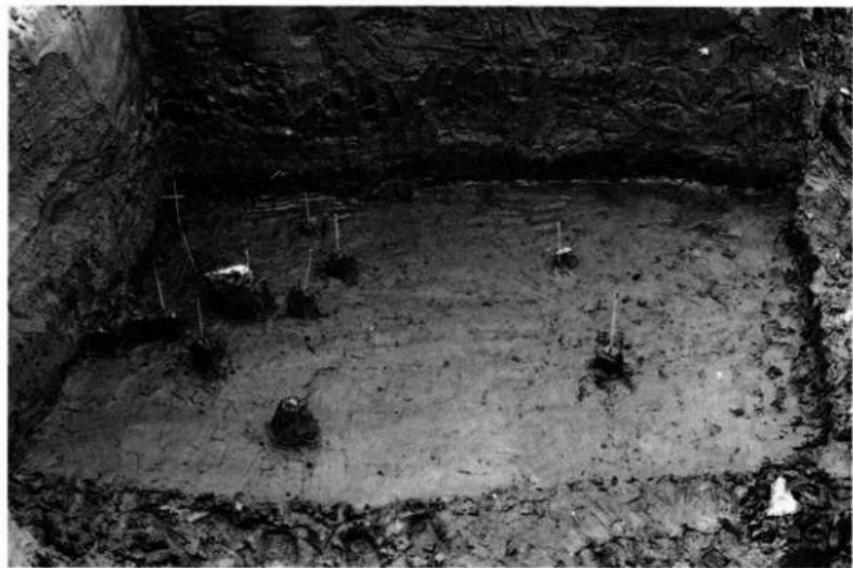
F 区 東 土 壤 図



F 区 北 土 壤 図



B区東黒褐色粘質土上層遺物出土状況



B区東黒褐色粘質土下層遺物出土状況



C区東黒褐色粘質土下層遺物出土状況



C区西黒褐色粘質土下層遺物出土状況



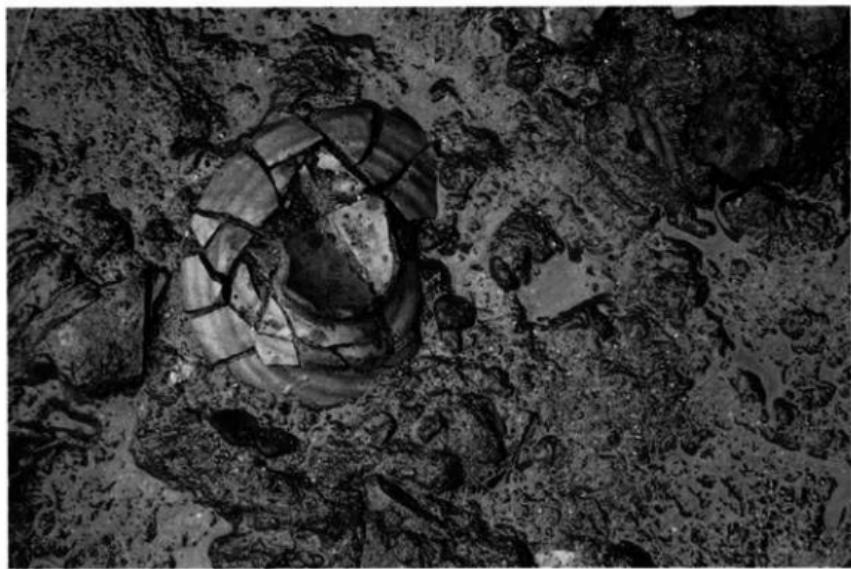
E 区地山面遺物出土状況



F 区地山面遺物出土状況



E 区黒褐色粘質土下層木製品出土状況



E 区砂礫層土質土器出土状況



E区砂礫層土質土器出土狀況



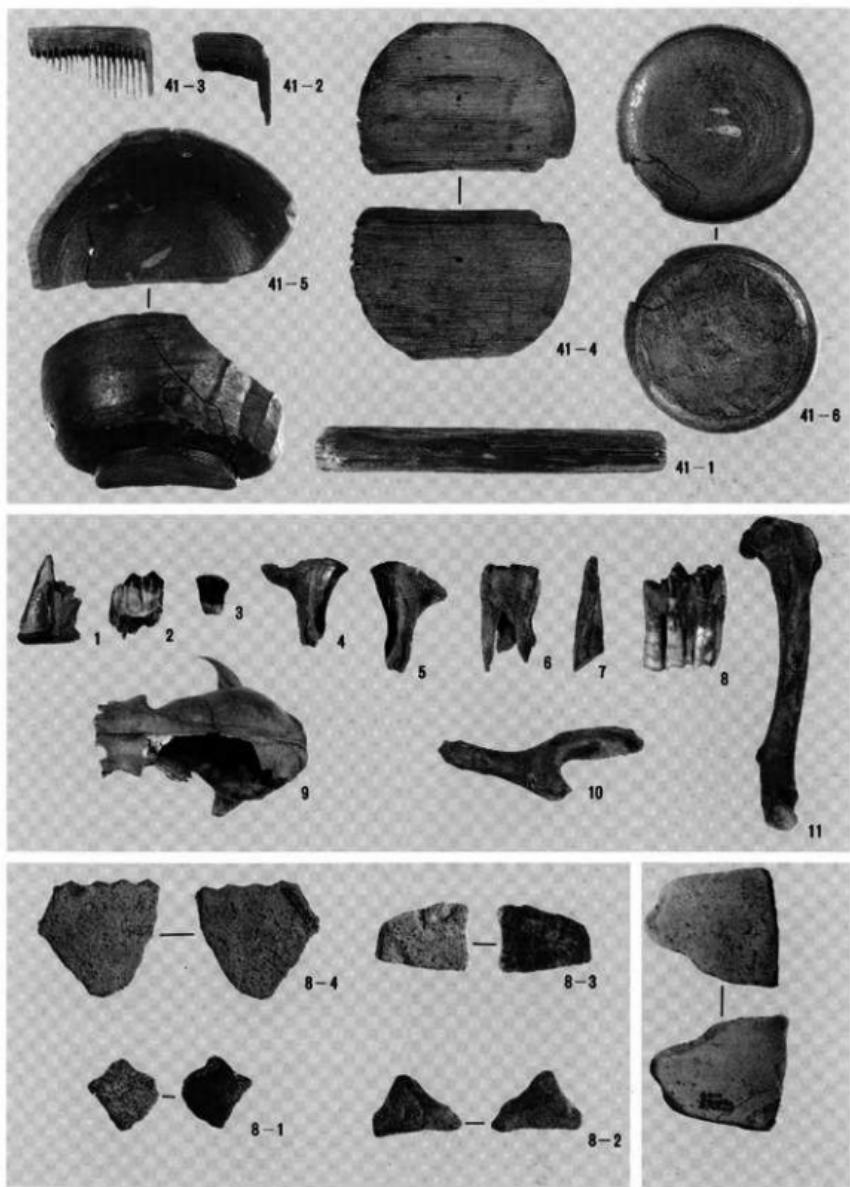
E区砂礫層大形打製石斧出土狀況



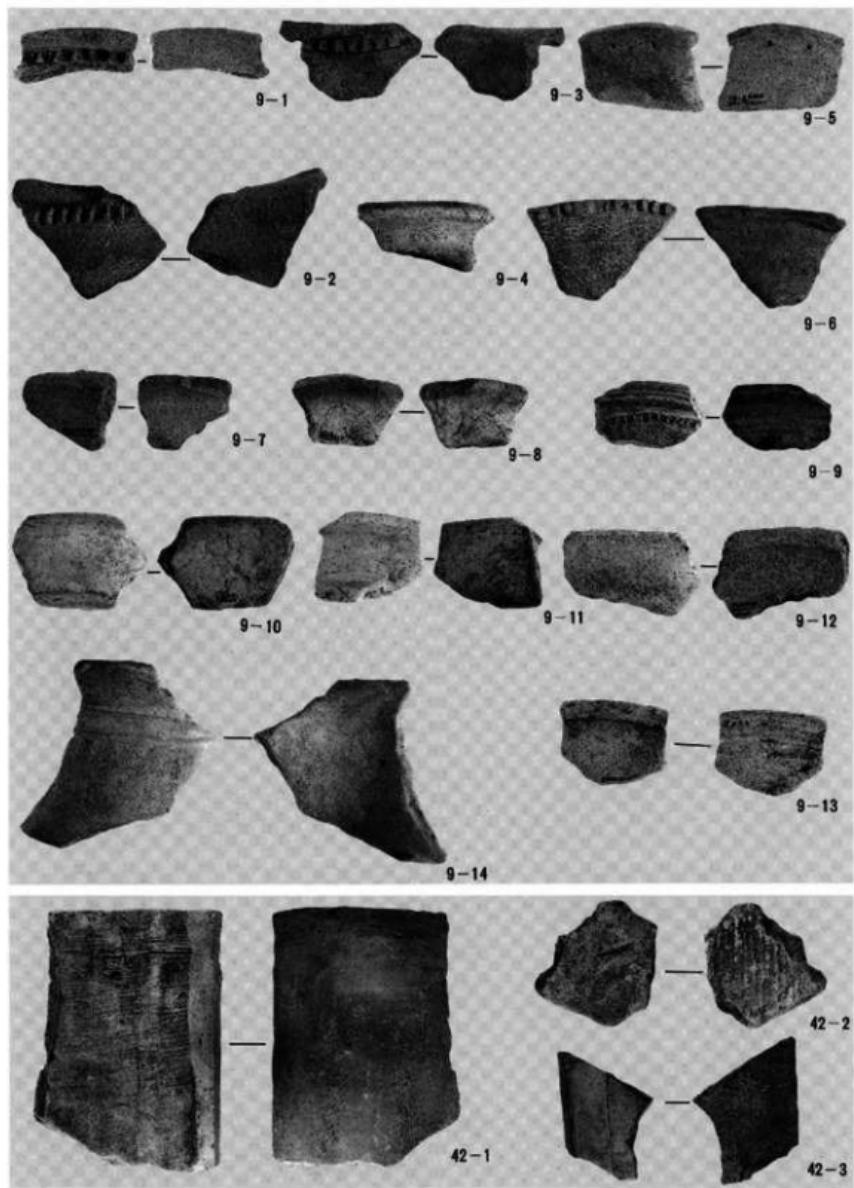
F区黑褐色粘质土下层土层器出土状况



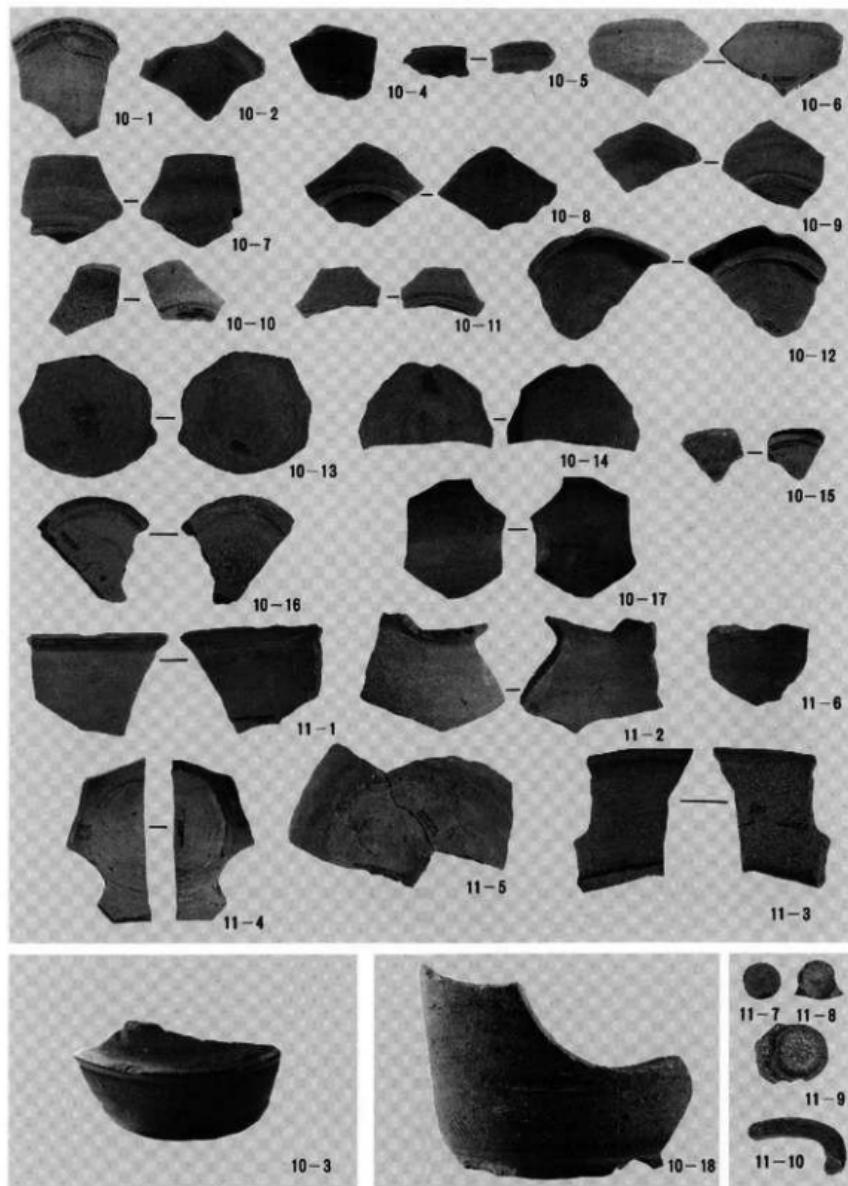
F区砂砾层陶器出土状况



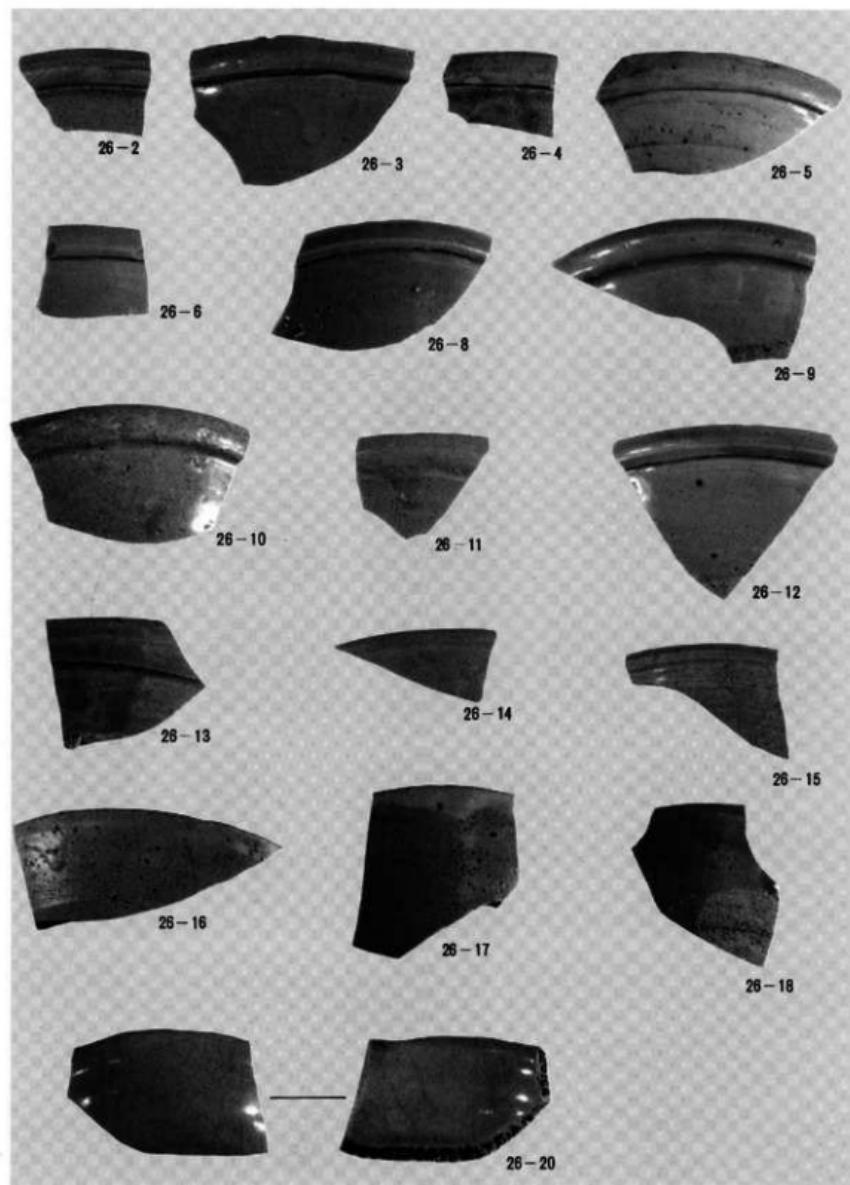
木製品・動物遺体・縄文土器・製塩土器



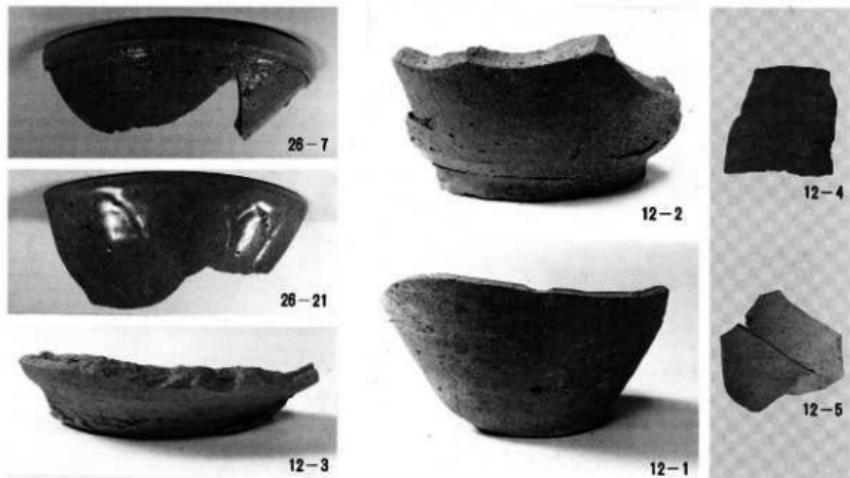
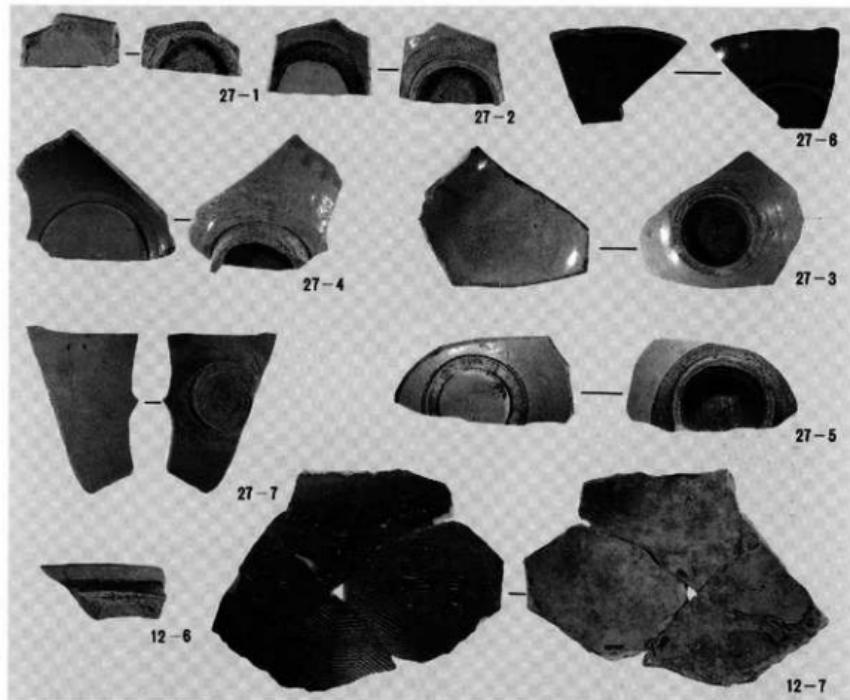
弥生土器



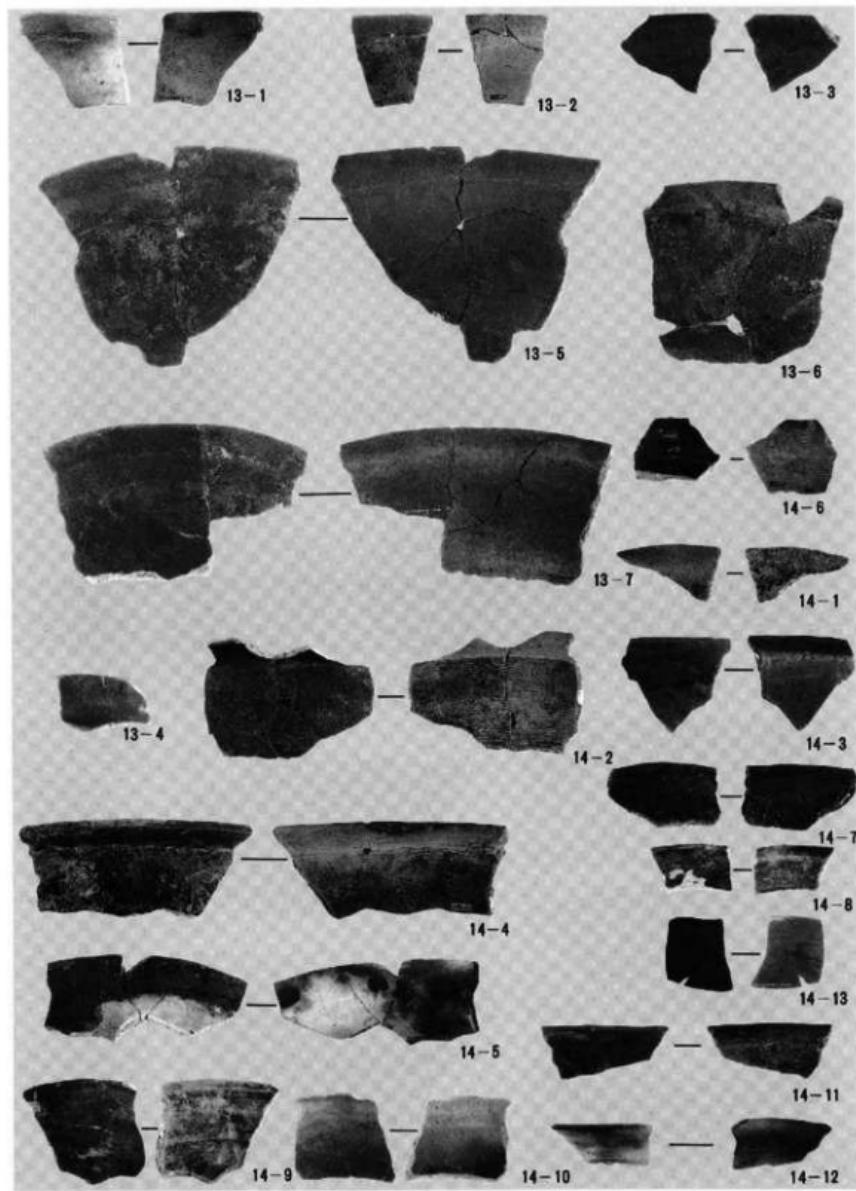
須恵器・把手・つまみ



輸入陶磁器

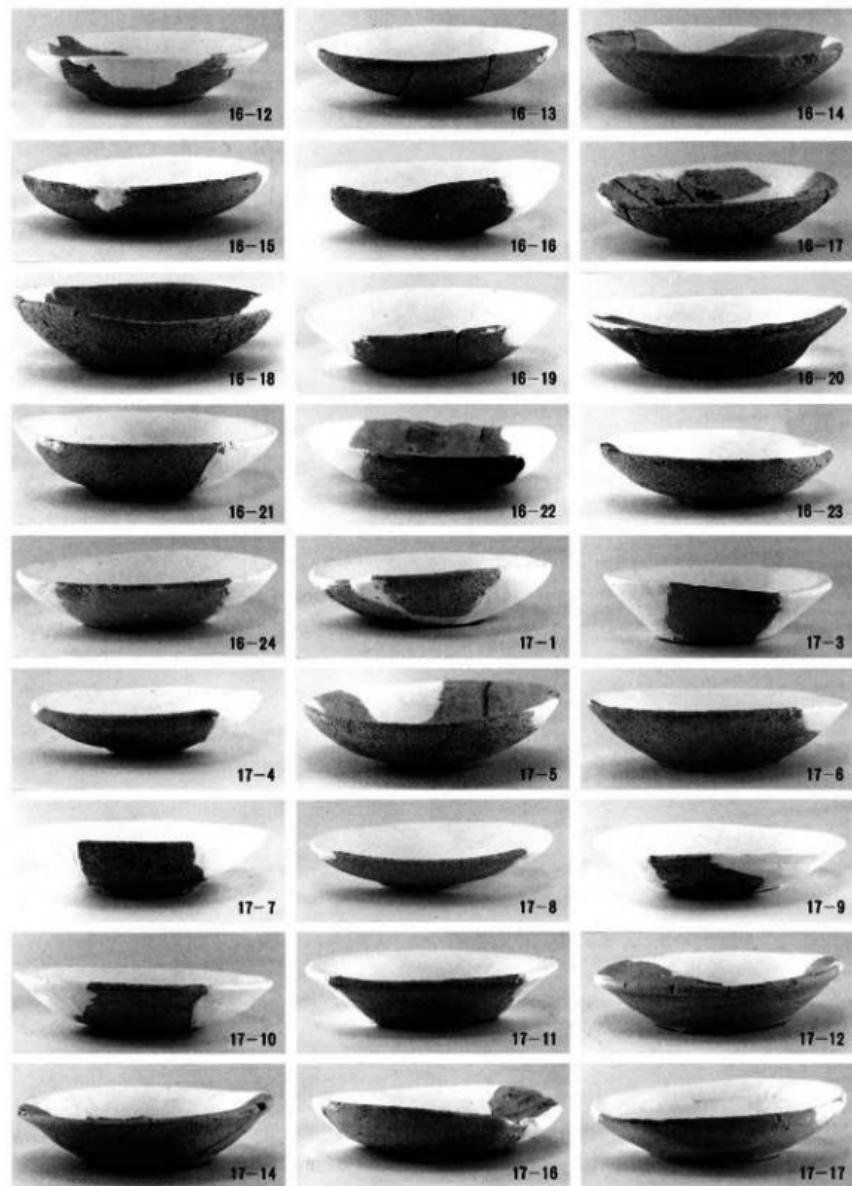


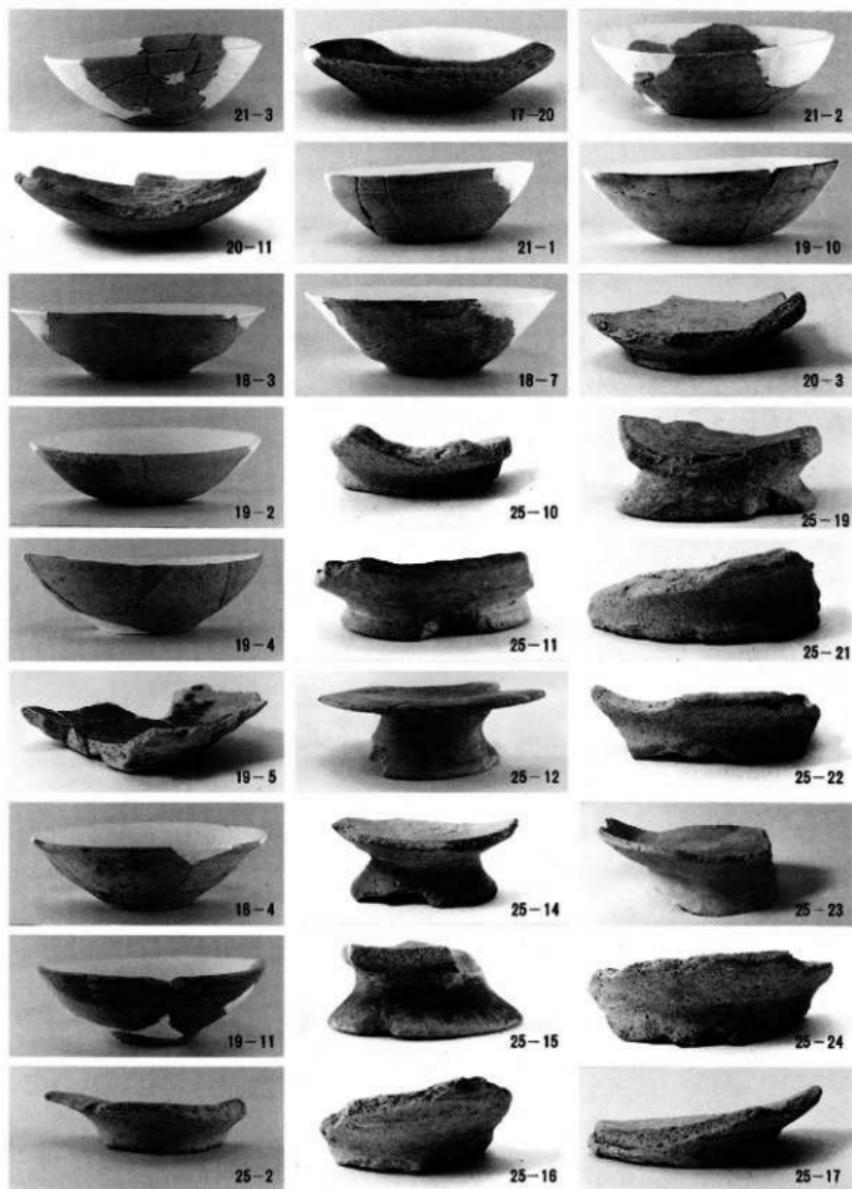
輸入陶磁器・国产陶器

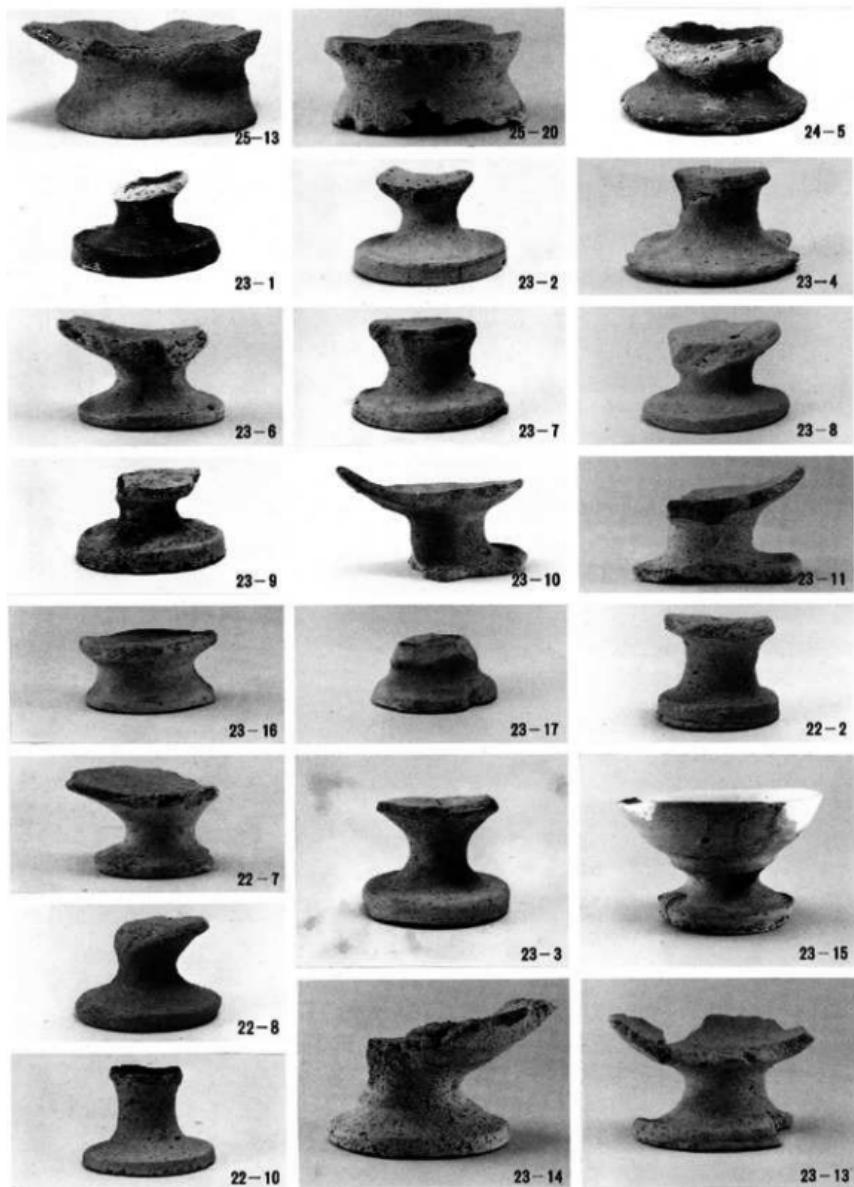


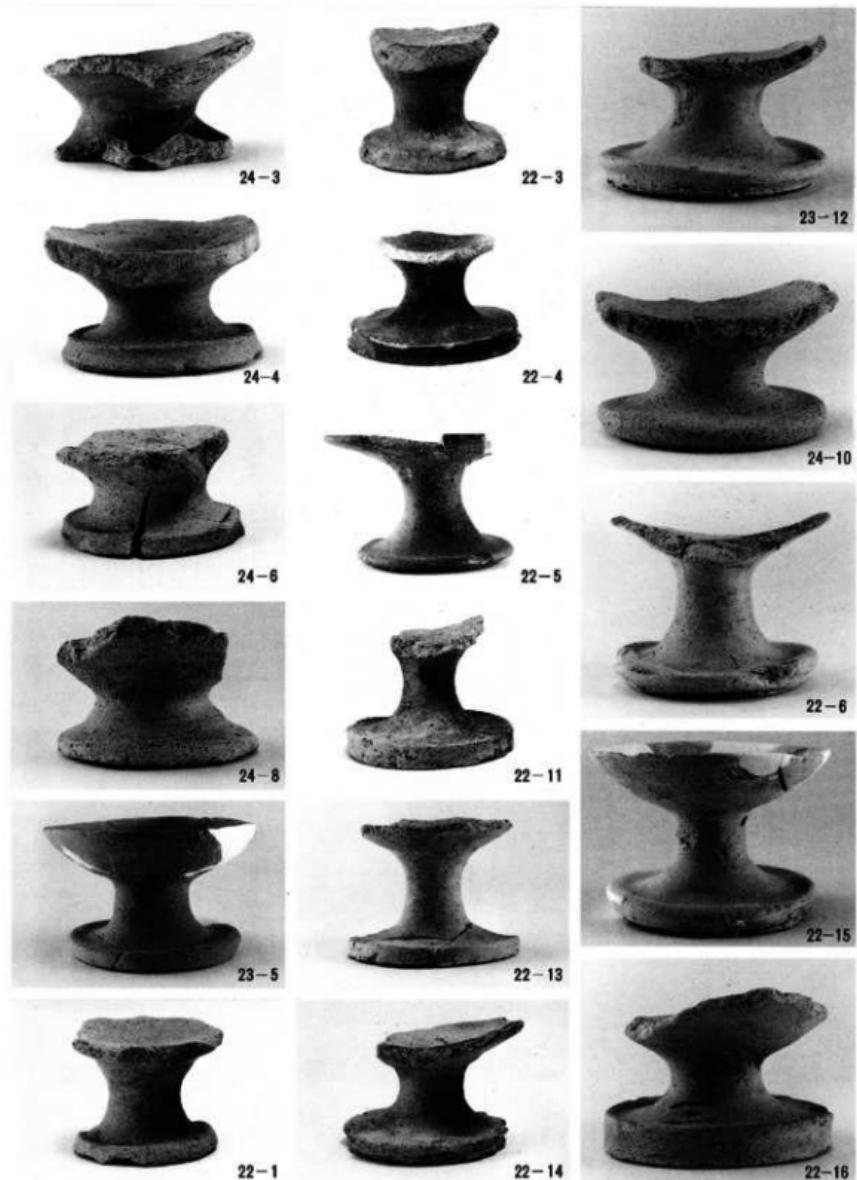
土師質土器・瓦器



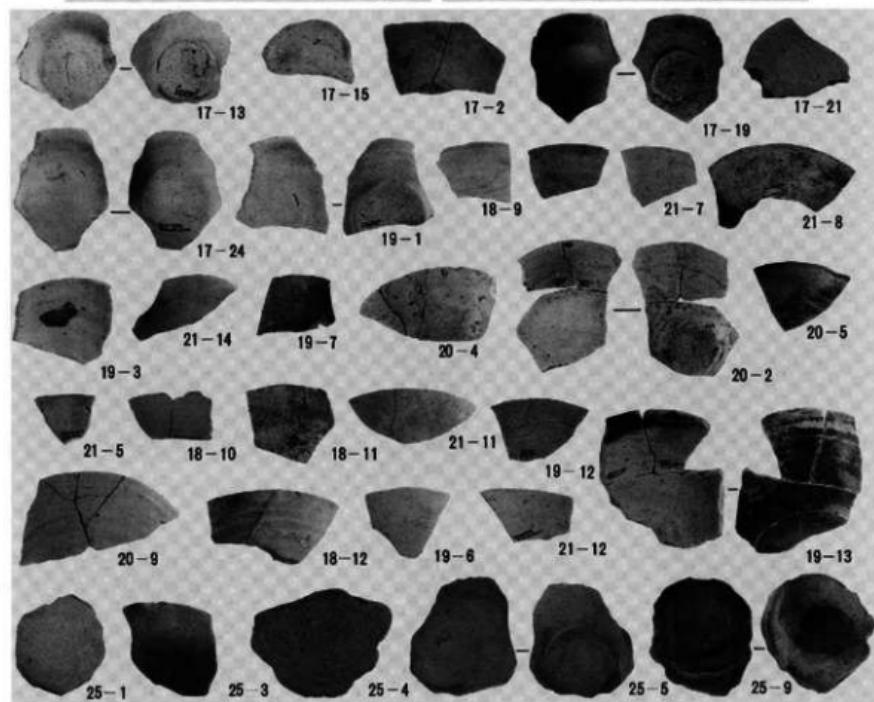




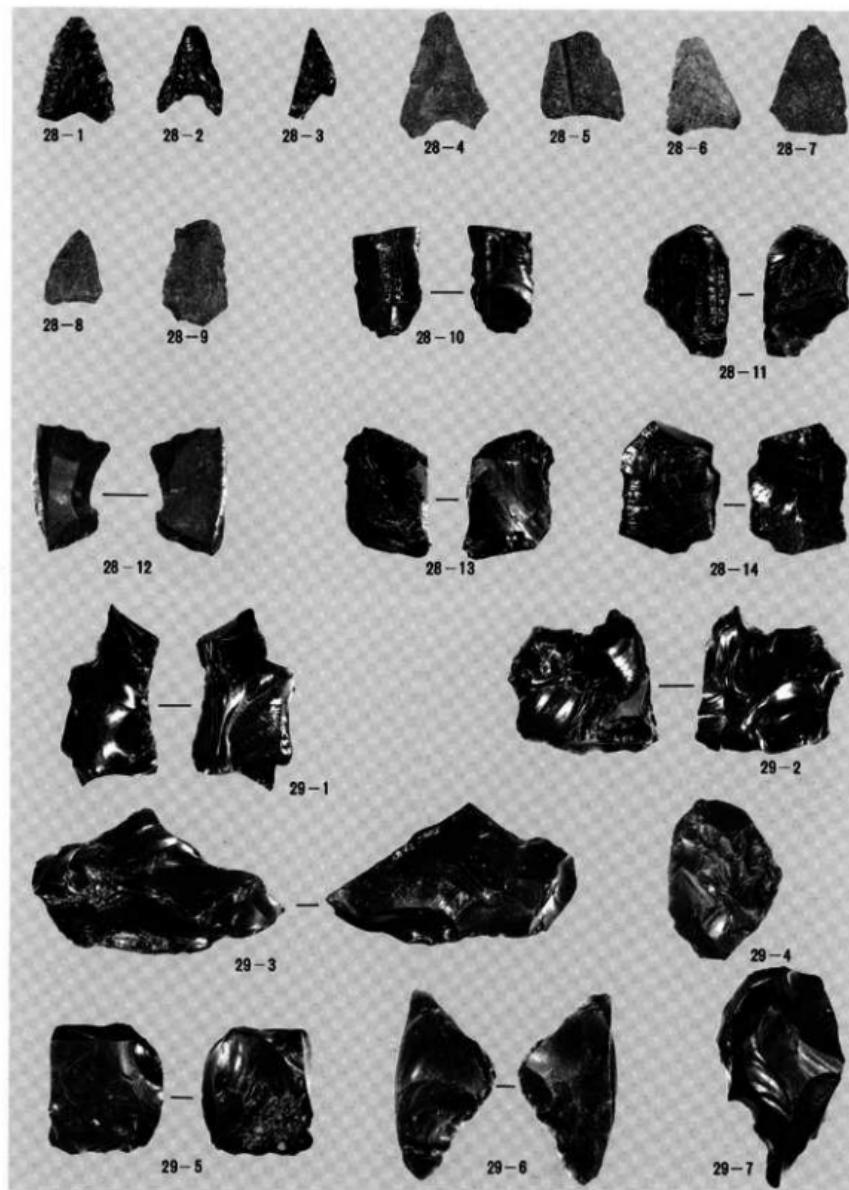


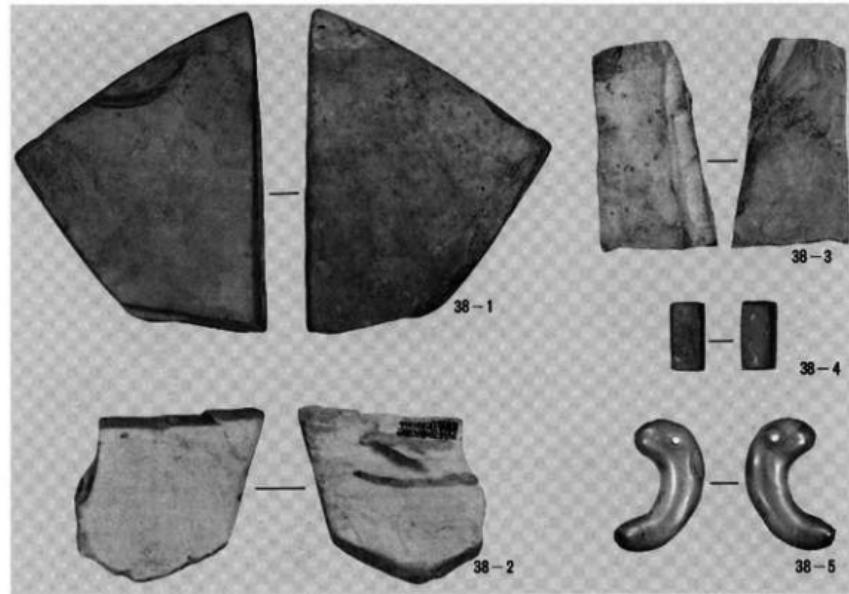
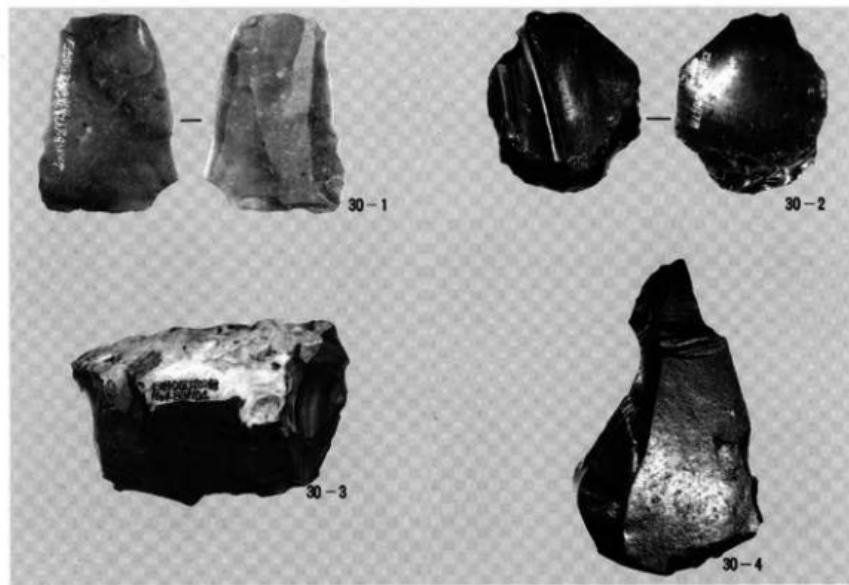


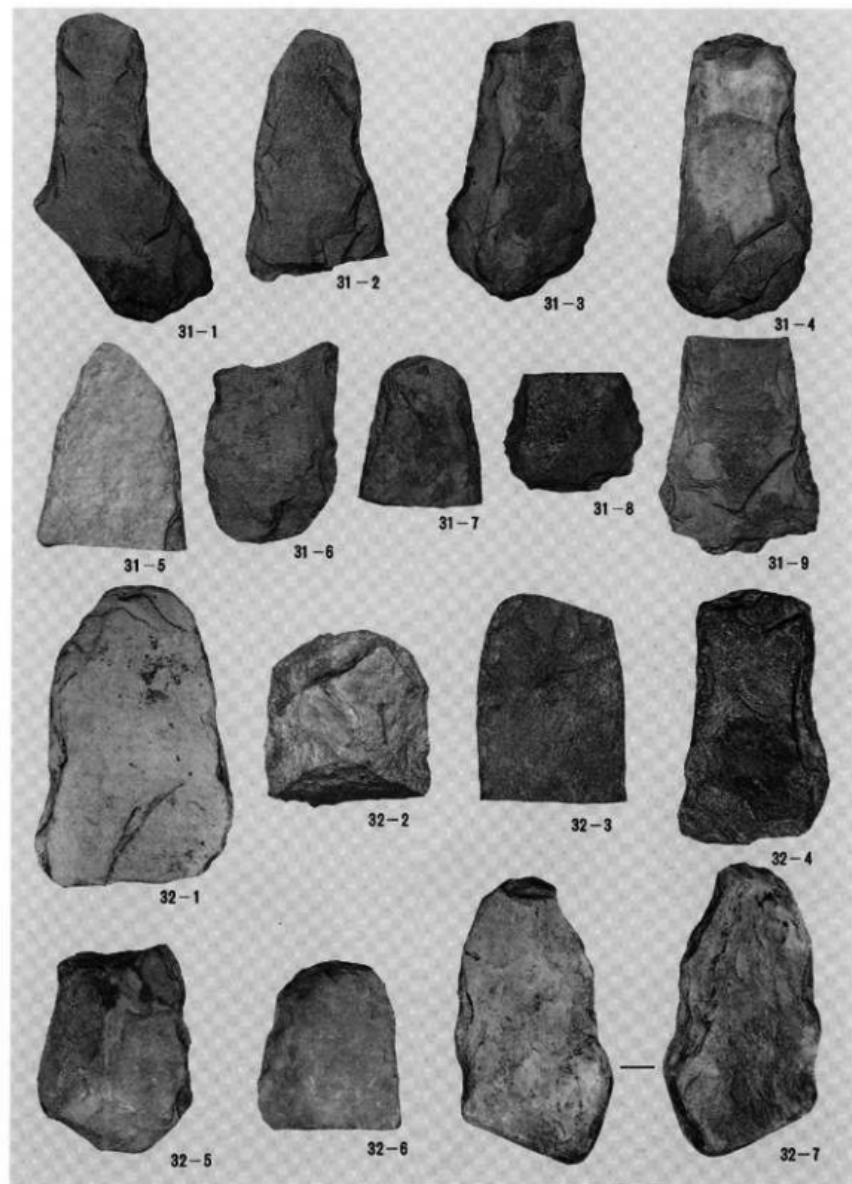
土 師 質 土 器



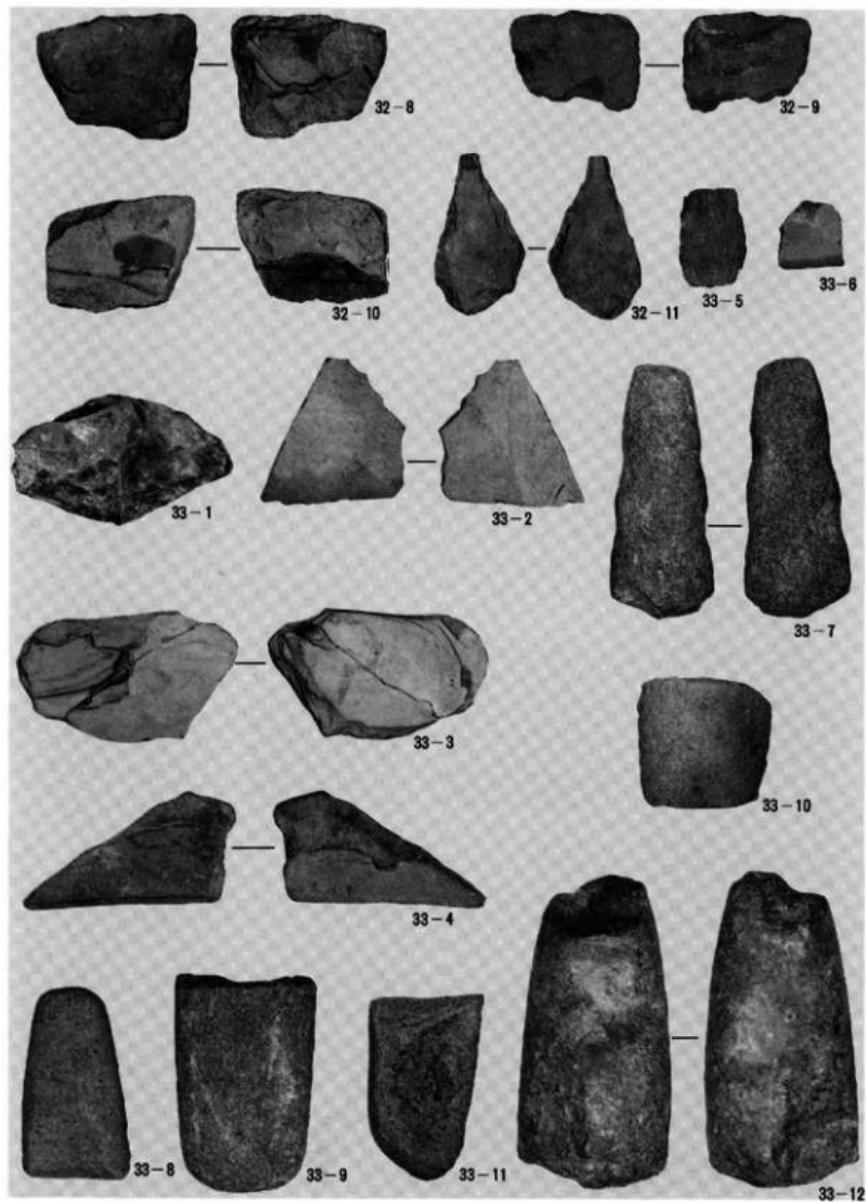
土 師 質 土 器

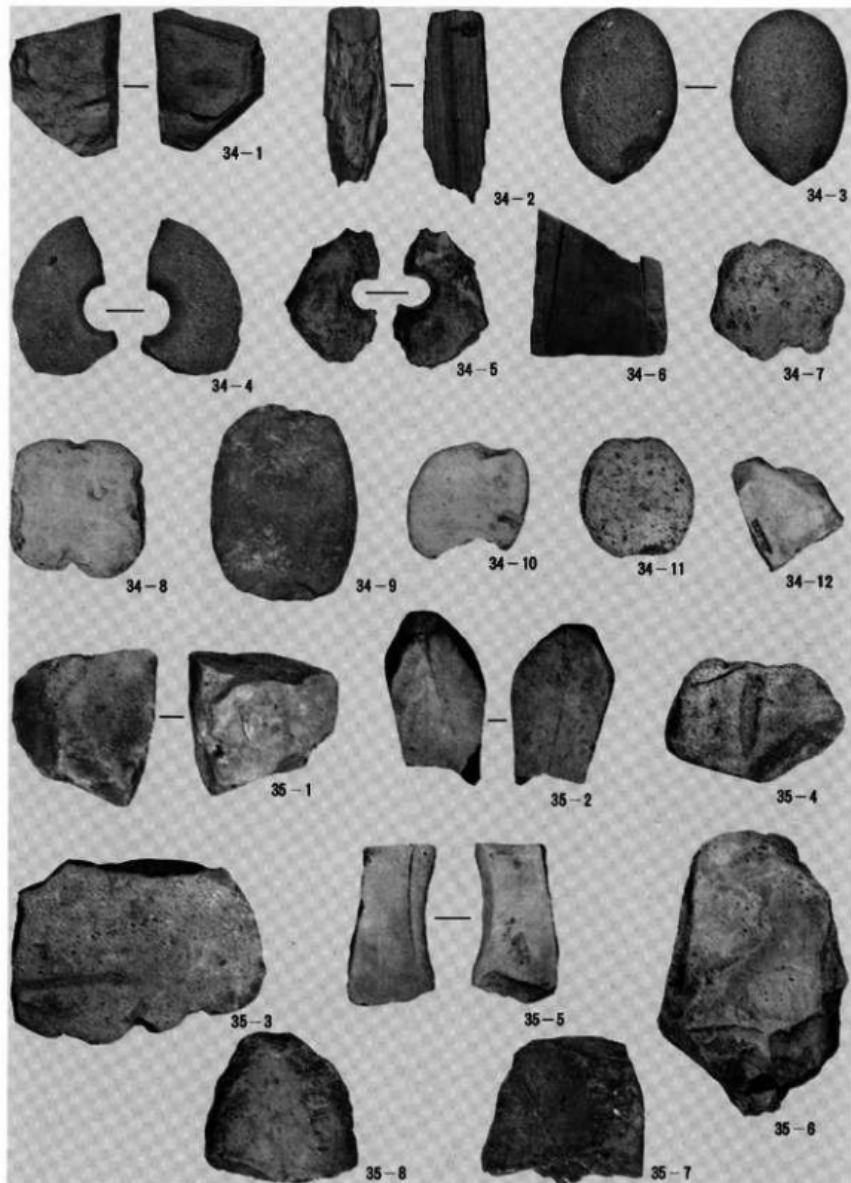




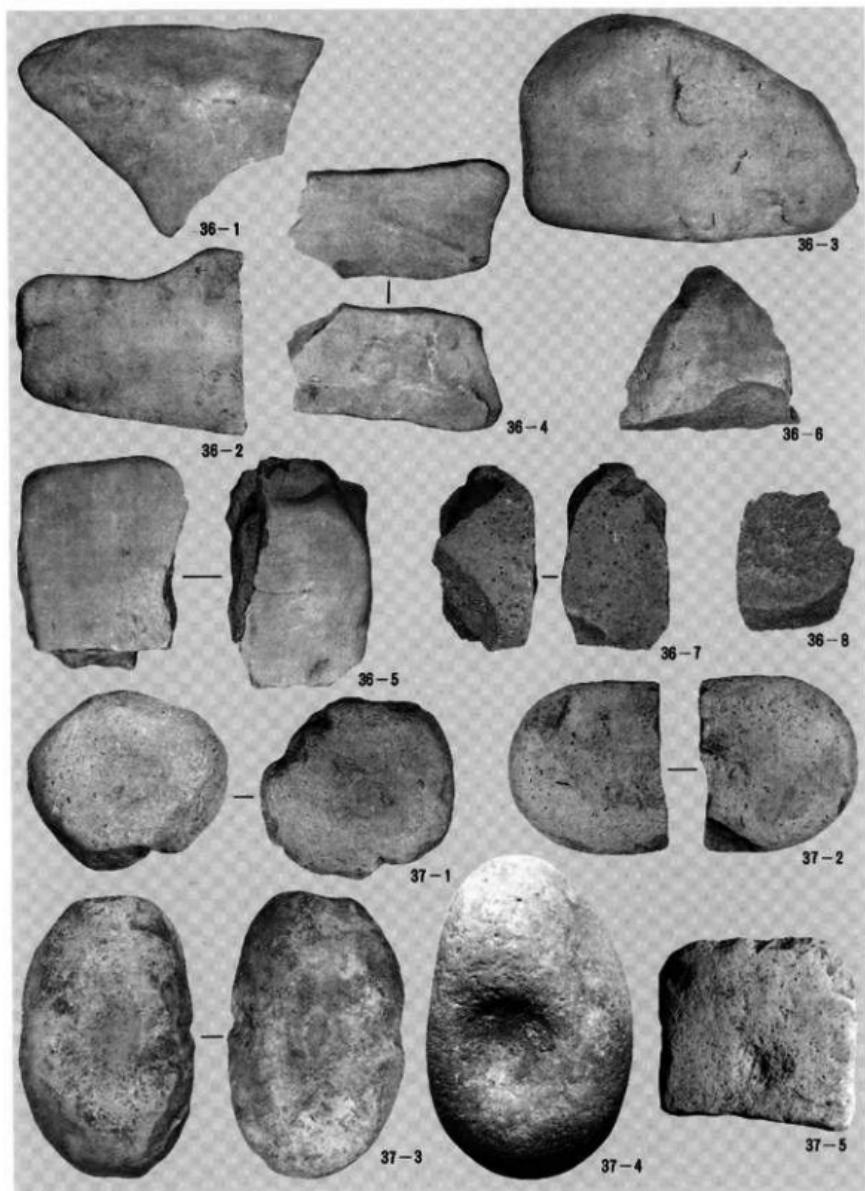


石 器

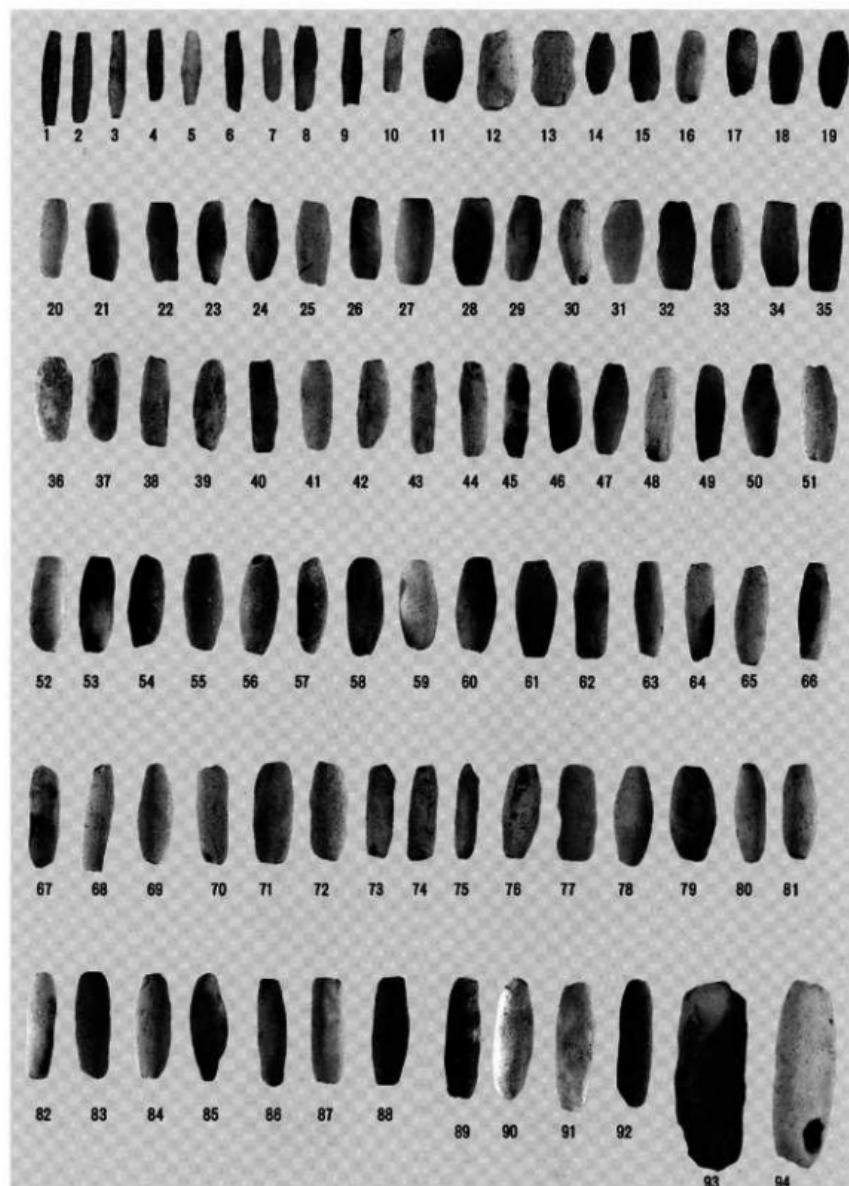


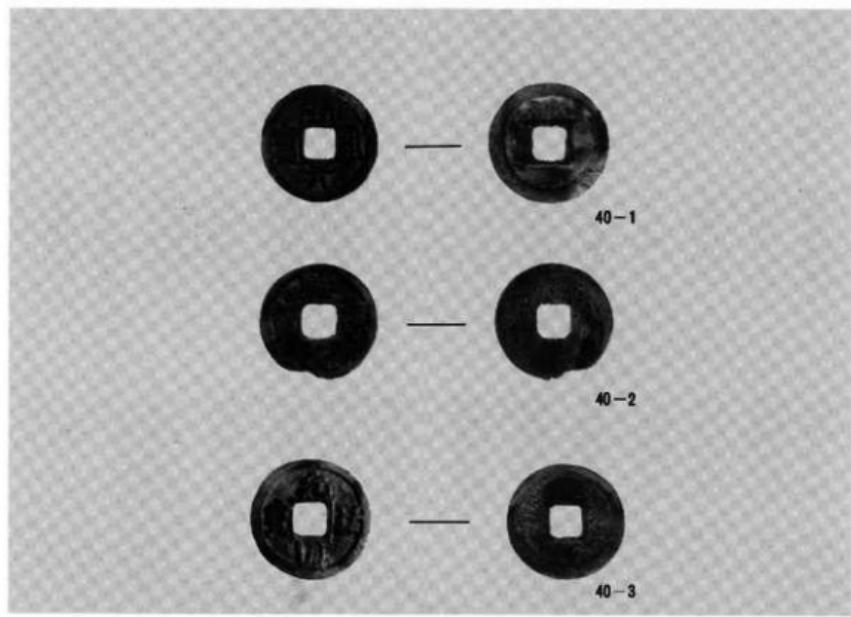
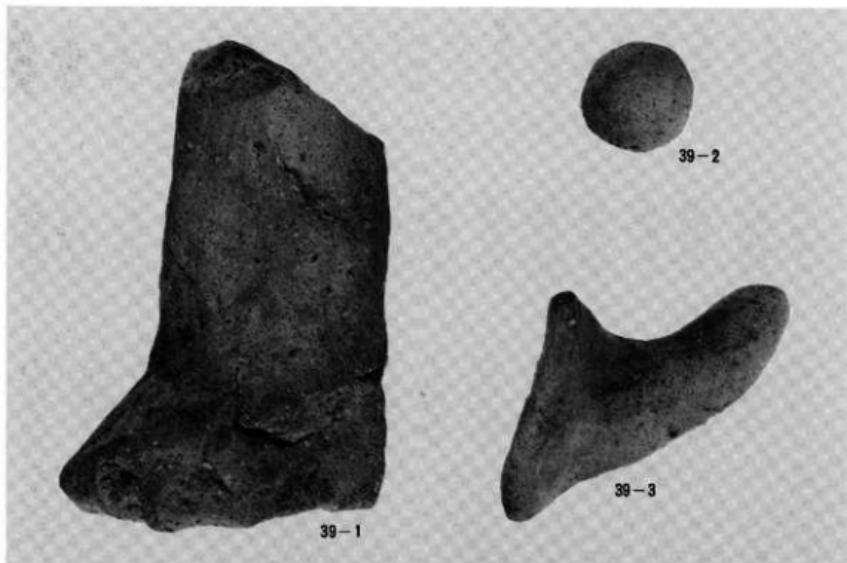


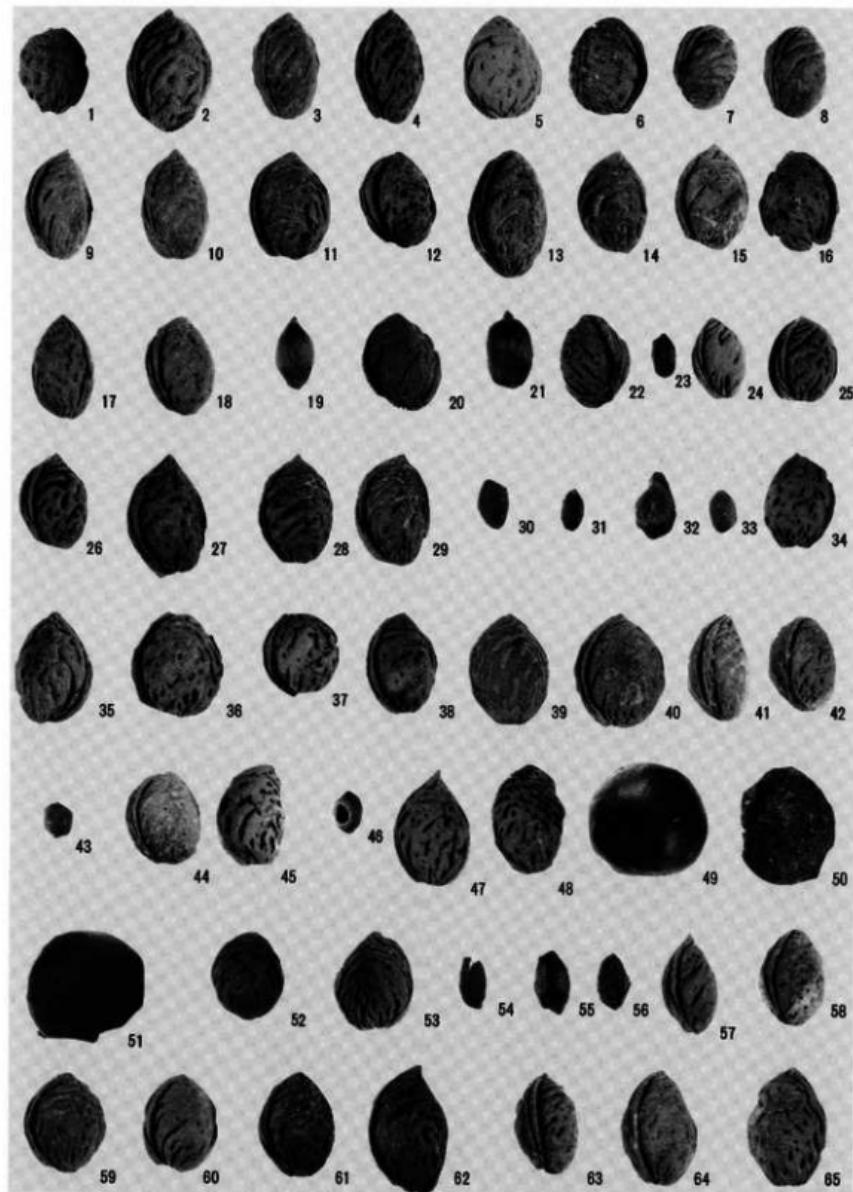
石 器



石 器







---

石台遺跡  
—発掘調査報告—

発行 昭和61年3月

編集 島根県教育委員会  
松江市城町1番地

印刷 海谷口印刷  
松江市母衣町89番地

---